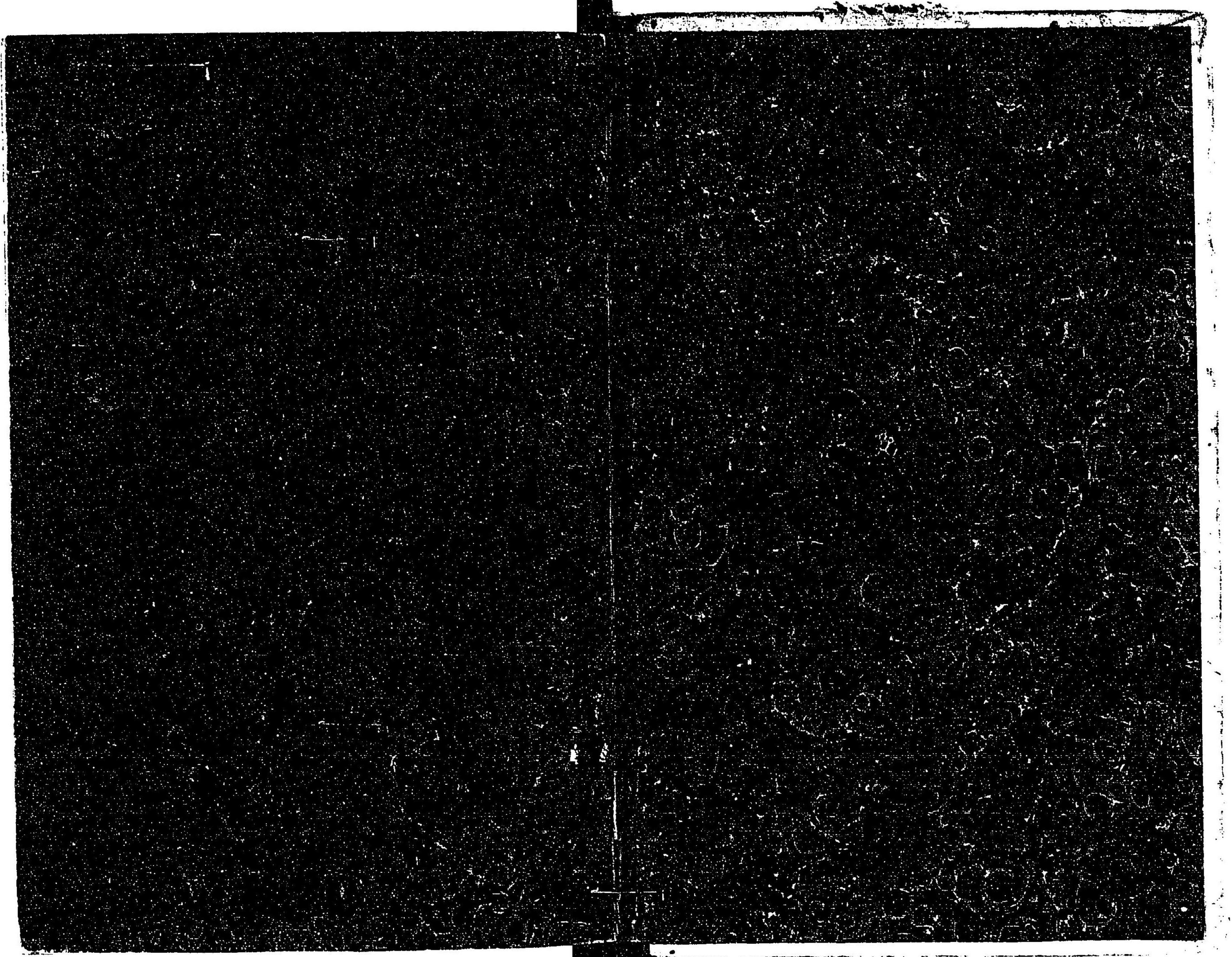


ILLUSTRATED  
GUIDE BOOK  
FOR TRAVELLERS  
AROUND  
Japan

旅行圖  
日本名所圖繪

東京  
行



特62

No 23241

5  
新編版

22

# GUIDE BOOK

BY B. WYEDA AND T. AOKI  
行旅國本

## 日本名所圖繪

正位候爵醍醐忠順卿題字  
支田維曉 著作  
青木恒三郎 校閱

陸前陸中陸奥  
北海道 北陸道 之部

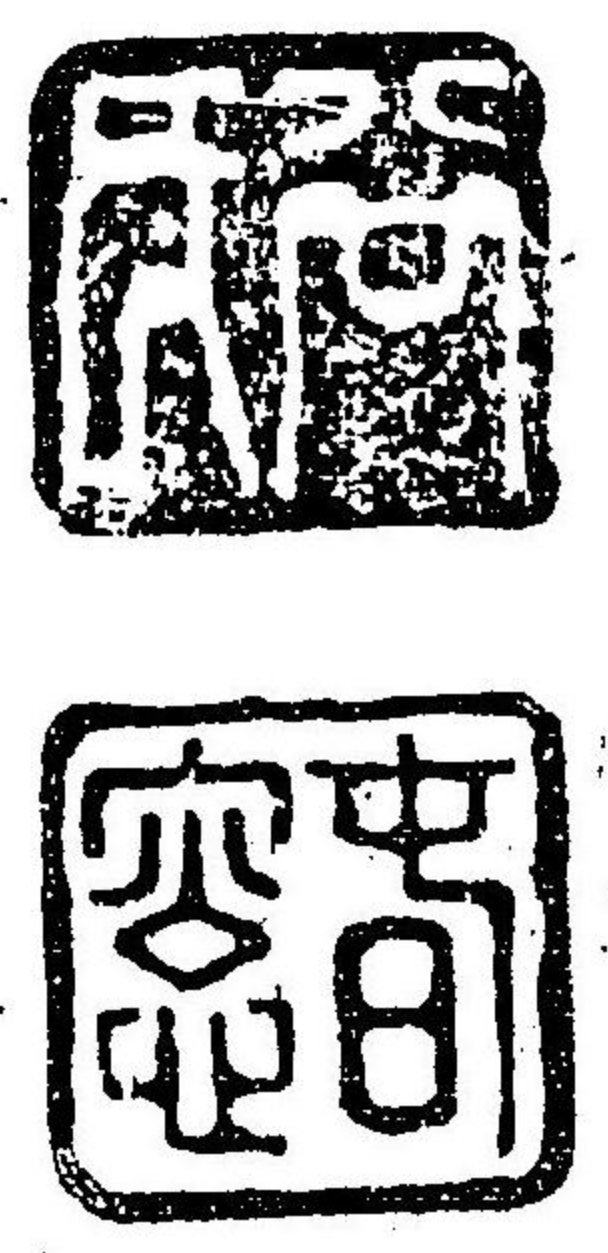
嵩山堂梓



坐視漫遊真化互  
繙來不背德馨隆  
長房秘術今何易

天下風火在掌中

東輿谷山春窓謹題



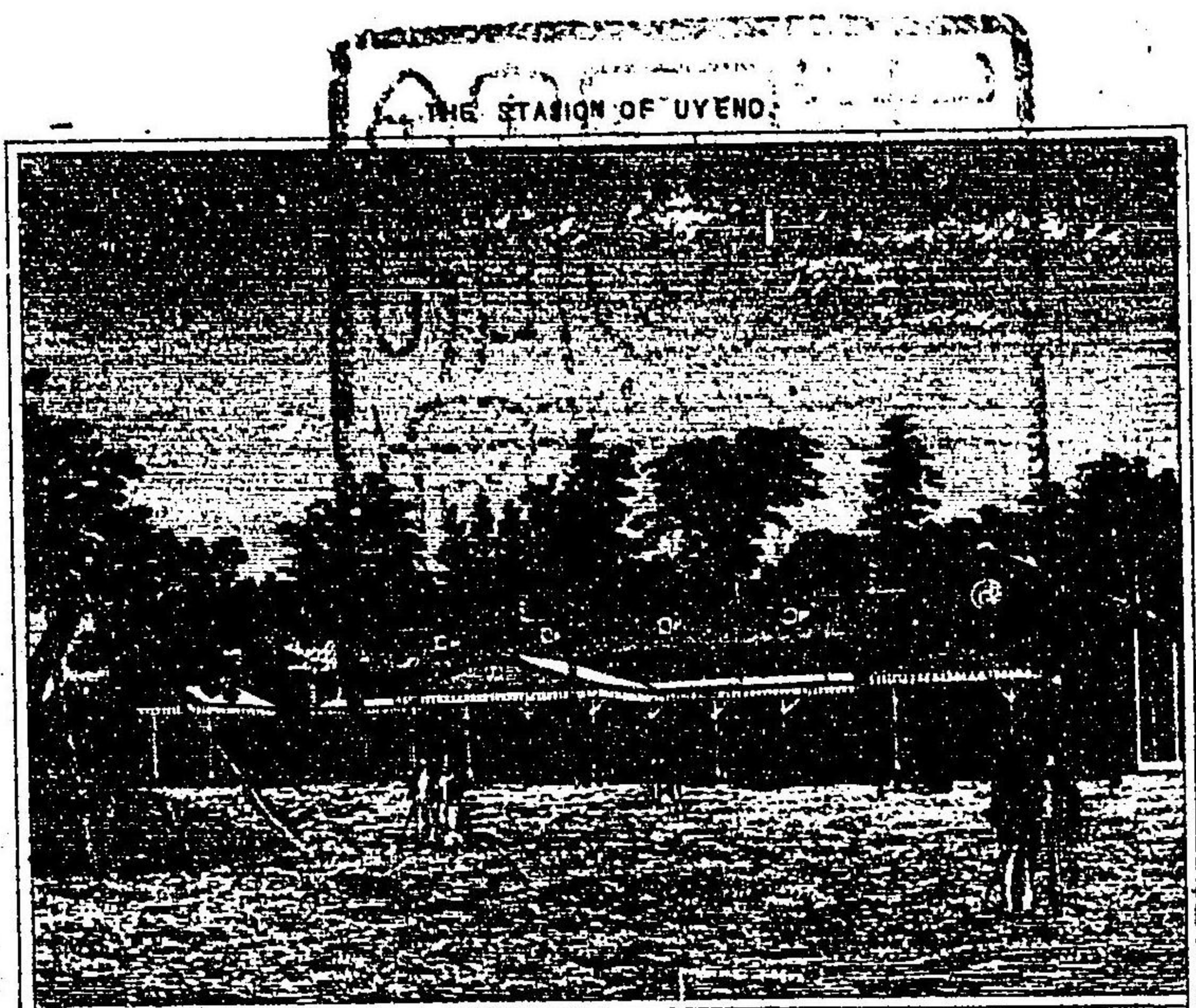
卷之五

内國日本名所圖繪卷之五

上田雅暁 編輯

松島道案内

我國の倭心を人間は旭日又句ふ東京の日本橋邊の雜沓を、駭足二頭の馬車を驅り路を萬世橋の北東上野停車場に向ふは、発車合圖の風鐸又入車較擊蟻集して上等金六圓七十五錢中等金四圓五十錢下等金二圓二十五錢各自切符を買請て待間程なく時移り、汽笛の聲又発軋し線路を走る乗客も新聞雜誌とりくも飛鳥の山際瀧の川、王子稻荷や製紙場赤羽停車場に至れば、茲は品川技線あり



TUNNEL OF WRAISHI.

福島平石隧之道之景



直行すれば、須賀川や、長久保矢板は、新開路  
 那須野原の真中を、漆管の煙は、伴は、荒  
 荒漠茫々たる原頭、殺生石の名も高く、  
 近世開墾に従事して、柳田の河水分派し、  
 一衆落を為どかや、塩原温泉も浴客の  
 往復日又月又増し、笠石尋る人もあな  
 黒磯より道程四里、豊原停車場打過て  
 警城の白川関の蹟彼の漆翁が建られし  
 碑文また結城氏が城墟に感忠が銘とて  
 元亨建武の其乱れ愛國勤王を主張して  
 悲哀を含みながら、又憂憤を漏したる  
 巨巖の碑面あり、岩代矢吹を過行は  
浅香山を眺めつ、須賀川越へ往れば

FAMOUS STONE OF NASUNO  
(TAKING LIFE STONE.)

那須野原原生石之景



北國線路を進行し、浦和を過て、大宮駅  
 又前橋の枝線あり、第三編を詳記せり  
 直行すれば、蓮田駅久喜や、栗橋打過て  
 利根の大川中田橋、堅固美麓と観間なく  
 下總の古河跡を為し、下野小山又着すれば  
 此地四通八達して、東の枝線は水戸町  
 西の軌道は足利桐生、小山駅を出て北走し  
 石橋邊をながむれば、野州の連山重なりて  
 空曠わたる日の光り、緑り色そふ、黒髪嶺  
 東南遙々時つ翠巒は名もあふ、常州筑波山  
 座視る一望千里も、走れば変る汽車の路  
 守都宮は繁花の地、栃木縣廳の有る處  
 日光社賽の乗客は、爰又袂を分ちたり

安達原古跡



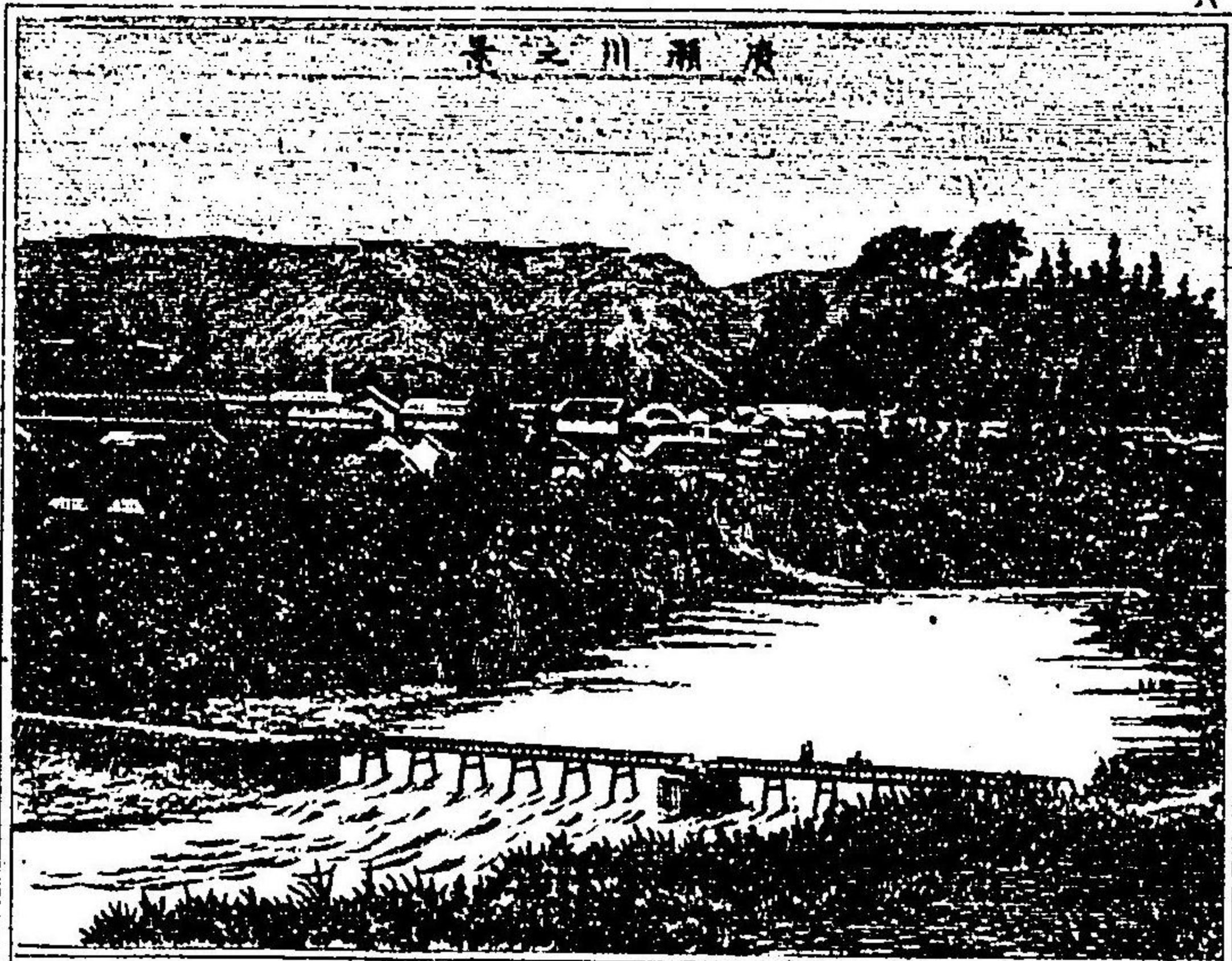
郡山に國造神社あり、本宮東に都々古別社  
 二本松の西は安達原近世開墾の大工事  
 猪苗代湖を疏水して、野水田を作たり  
 松川を過て平石の隧道長々と脱出  
 致し信夫の眼鏡橋石造頗る壯觀なり  
 福島廳は阿武隈川流し瀕し繁昌の地  
 山陰又煙突の時は半田銀山の製煉處  
 桑折を過て貝田辺伊達大木戸下級関  
 西又飯坂温泉あり白石打過て大河原  
 岩沼駅又竹駒神社増田を過て名取川  
 越れば名取おふ仙臺の廣瀬川停車場近し  
 岩切駅は両岐して、北國線路は工事中  
 塩竈港又達したり。

陸前國之部

此國東は海に面し、西は羽前及び羽後南は磐城又隣り北は陸中又隣接して  
 奥羽の中央又位し東西二十五里より二里許り又狹隘し南北も亦四十里より  
 十九里又縮して、並神山其南又磐城(神山岳一名榑谷嶺)磐神山一名榑形峯  
 太白山一名烏兜峰、泉岳は根白石嶺七嶺、其山数を云、藥末山や花洲山  
 富山は松島を一望し日和山又風波を占ひ牧山や大六天山、笠ヶ嶽や田束山  
 氷上山や愛染山、四圍又山岳重疊し大山脈は奥羽を分ち西北又頗る修互して  
 陸中羽前を限制し南は走り岩代又連る、北方二郡は海に沿ひ、杜鹿一郡は東方又  
 迂曲して港灣を抱き、松島群島其西南又碁布羅列の美景、中央の地は土壤平坦  
 曠漠たる沃野多し、阿武隈川其南を限り北上川北地より來り、漕運頗る至便なり  
 田麩萬頃米穀の産最も豊饒の地として州内十四郡又區別す、柴田名取宮城  
 黒川加美玉造栗原志田遠田桃生杜鹿登米本吉氣仙名邑は  
 仙臺塩竈岩沼涌谷氣仙沼等なり、人口は六十六万零四百二十餘

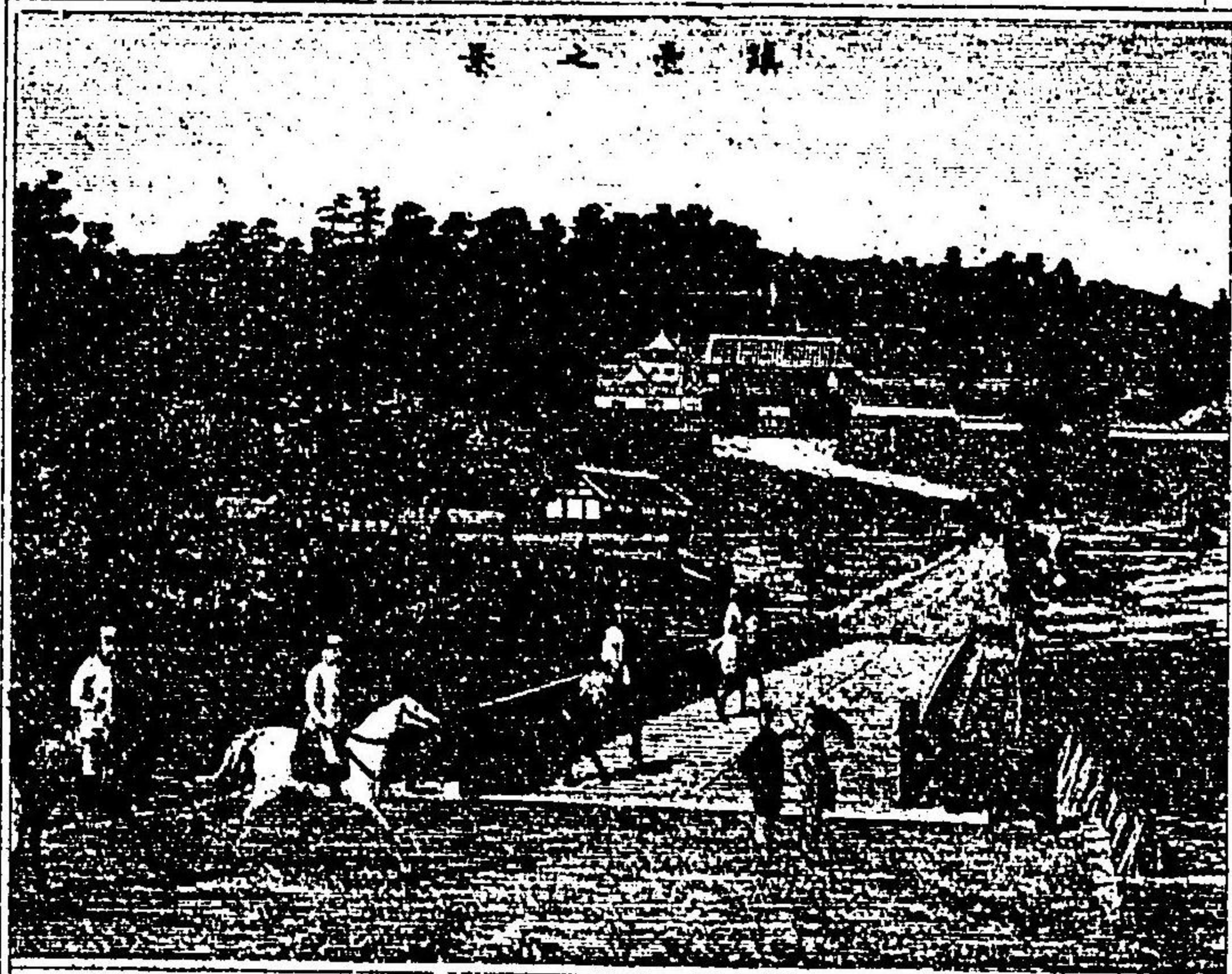


衣笠と銘を賜りまた歌を興へよと仰せあり  
 名取川瀬々の埋木は古く和歌又顯れたり  
 中田長町を通過して廣瀬河原を越れば  
 仙臺市東京を距る東北九十二里にして  
 宮城縣廳は勾當臺人口六万三千九百余  
 人畑稻密植比して街衢は縦横八達し  
 區の中央又芭蕉辻南北は國分町東豊  
 鎮臺より塩釜石巻の通路又て大町と謂  
 此地の名所舊蹟は孝勝寺は旧藩の墓所  
 烈女淺岡が石碑あり東照宮は昔安永敗し  
 青葉神社は神古て藩祖政宗を祭たり

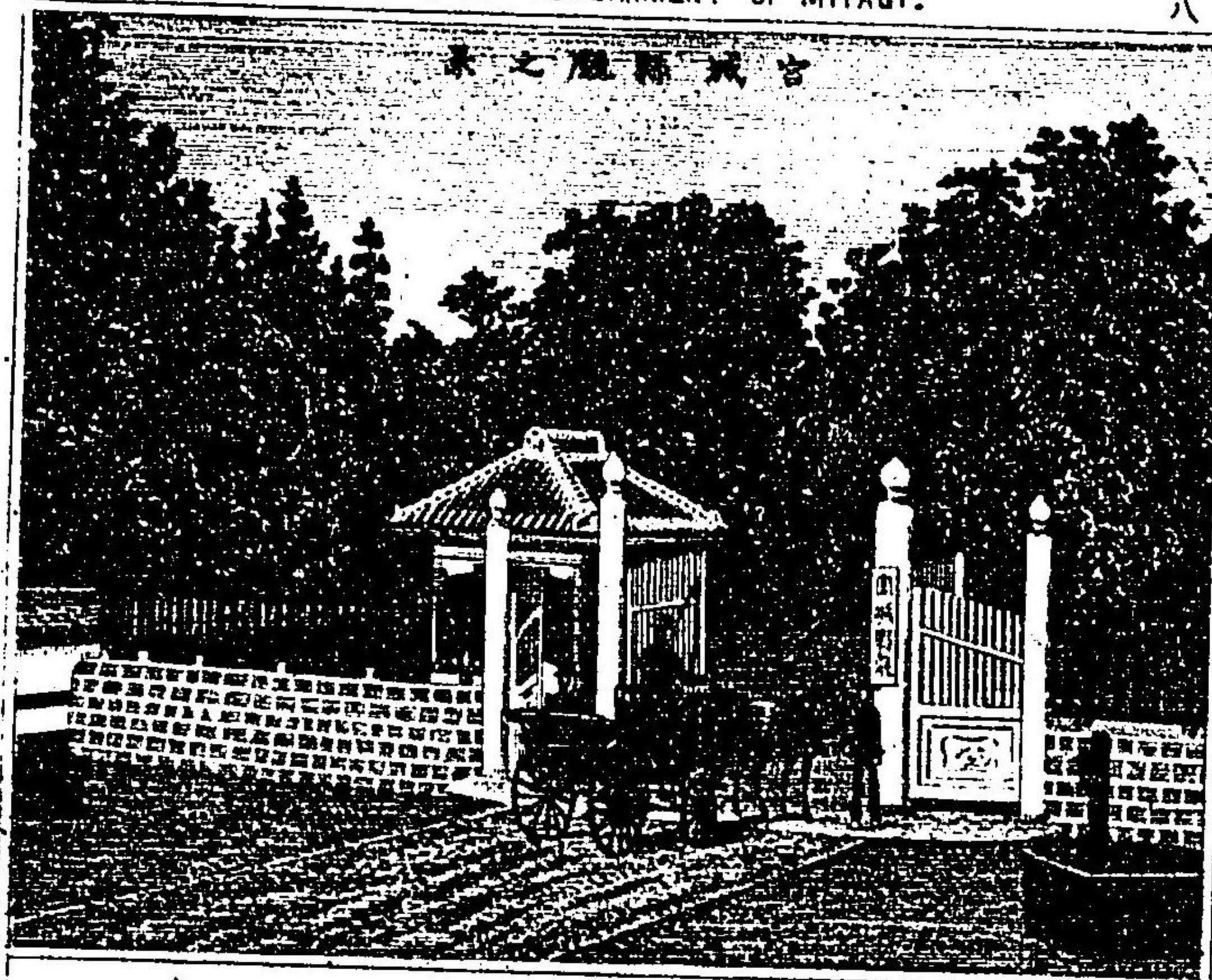


從是陸前國にして陸行の順路を記す  
 磐城の白石駅を出て金瀬を経て大河原駅  
 此地は白石川又沿ひ仙臺を距る九里余  
 館越神社は植松村竹駒神社は岩沼又  
 推皇産靈神倉稻魂命及び保命神を合祭し  
 社前芭蕉翁の碑も  
 橋より松は二本を三月城をせが  
 笠島村中將實方が墓碑あり裏面には  
 左の文字を雋たり笠島村は竹駒神社より西北の地  
 延喜式神名帳陸奥國八百廿名取郡二座  
 之内佐具離神社至山上半里  
 増田村前池善藏が館舎の園又狐松あり  
 明治九年 今上天皇東巡の際教覽あり



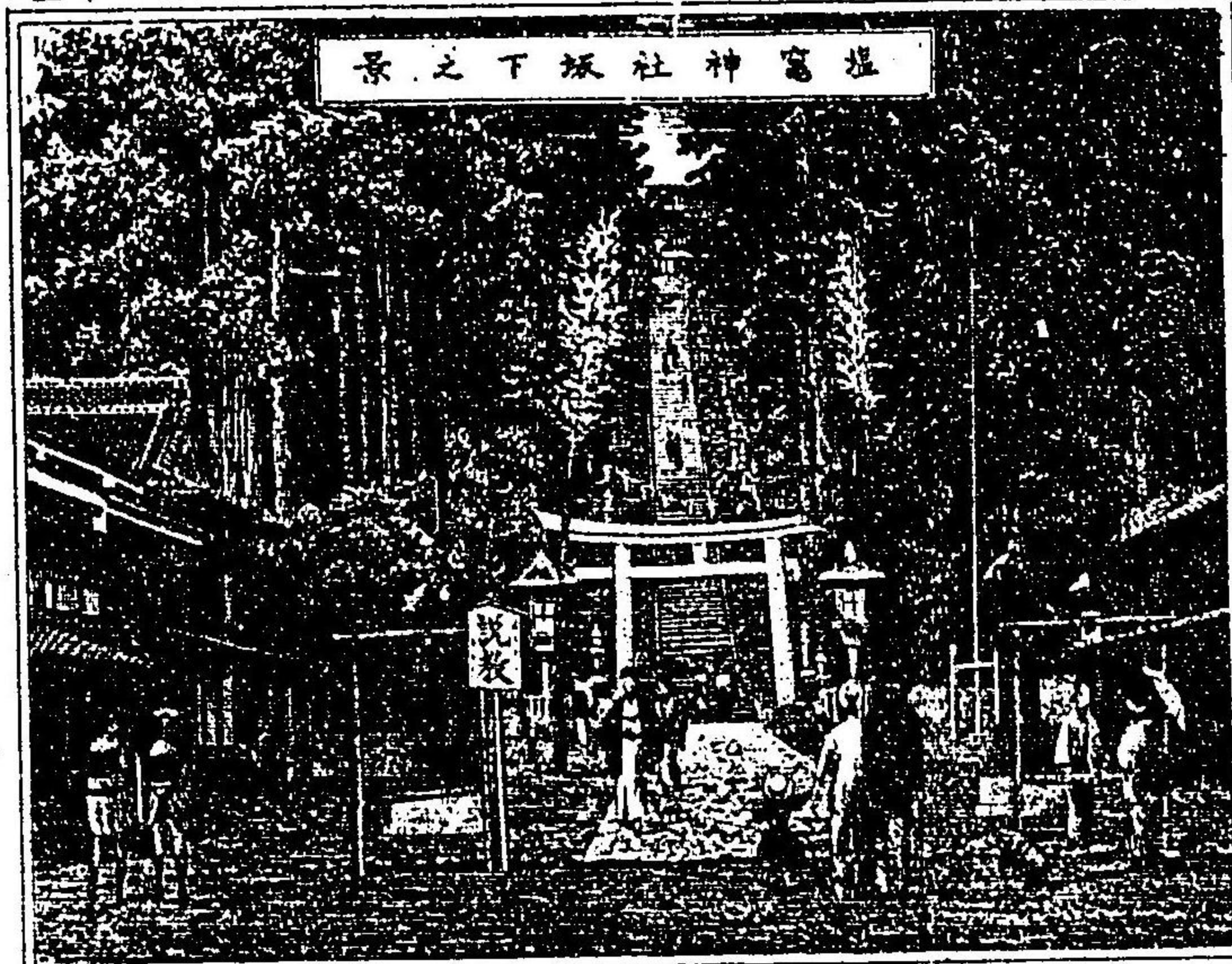


清流を横帯しまた青葉古城に對して  
 遠く泉嶺を眺望し近くは茂嶺を觀る  
 櫻岡神社は中央に皇祖太神を祀り又  
 境地は野々の梅樹次で牡丹紫藤の花  
 四季遊賞人絶えず菅廟の側又碑を建  
 林子平の功績を誌す割烹店を梅三と謂  
 挹翠館の建築あり新遊廓は常盤町  
 三層五層樓閣高く前又思案橋を架し  
 晝夜弦歌声絶えず  
 瑞鳳寺は伊達黄門貞山公の靈廟として  
 宮殿廊廡富麗を盡接門輪奐美を極め  
 緑樹堂宇を圍擁して殉死の墳塋累々と  
 近世招魂碑を建たり



林子平墓碑は北山の龍雲院の境内に在り  
 六無齋友直と高直、辞世の和歌を掲げたり  
 嗚呼、我をば我をばおの後のをば我をば  
 今上天皇北巡の際風華を子平が望み  
 狂玉ひ其大義愛國の賜意を嘉賞せられ  
 里門に旗表し更又祭料若干金を賜り  
 正五位を拜命したり、其始江府の人として後仙臺の  
 人の義勇を愛す、華助一は成人の如く常の地面を展観し、一々略記  
 せざるを、最も心を経済の實務、情は固く大志あり、海軍兵隊三  
 回、海軍を志す、之の爲の無府は之を嫌疑し、直子平を捕縛  
 し、仙臺に送して、遂に因中、歿せしむ  
 大崎、龜崎の兩八幡青葉城は鎮墓本營  
 公園は市坊の西櫻岡、舊大内殿、殿の邸宅  
 明治四年開園せられ、園中廣潤、廣瀬川の





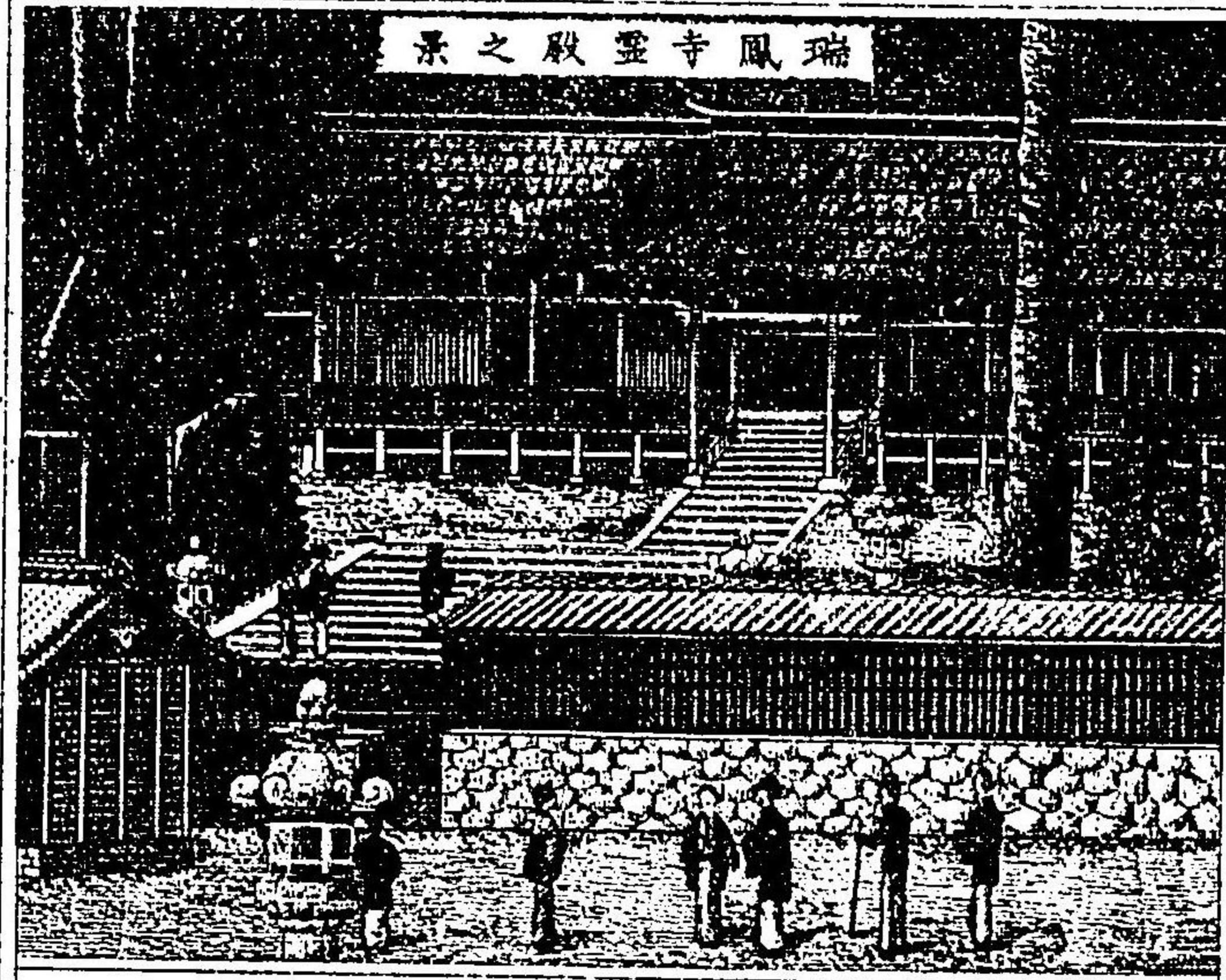
景之下坂社神宮塩

陸奥の十符の管鷹上符の居ね松を三符松と  
東光寺の門前通を奥の細道と云古歌又  
跡地を遺るははた陸奥の思ひ松の奥の細道  
弓賀の城址は市川東其廣表は四百余間  
往昔此辺に北は、未開野原の地なり、其人強神頑勇なり  
日本武尊東征して打懸し玉ひてより、聖武天皇御宇に手  
始て鎮守府を置、大野東人を將軍守、弓賀城門の石碑は  
空く草莽中隠れ、星霜を経る千年、水戸黄門光田公  
伊達綱村讀求し、市川に堀得たり、其筆跡頼る絶妙の  
碑文を尤も揚たり、

西

去京二十五里去蝦夷國四百廿里  
去常陸國四百廿里去鉢錫國四百廿里  
去下野國二百七十四里 按六町を  
一里三百廿五

此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將  
軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所置  
也天平宝字六年歲次壬寅參議東海東山



景之殿靈寺鳳瑞

夫夫以ノ人直宜宜於對道ノ人  
豆正益益ノ事教之云以此此此此  
内日破一帛一帛止亡魂一元元前前危  
年次後後殞殞矣

弘安第五元 弘安仲秋二十日 里末清俊謹撰  
碑面の高さ六尺余字畫古文又省略す  
故又譯字を挿入し讀者の便を供すべし  
其始僧祖元自書て、其徒清俊を建しり、元十死を吊す  
祖元は北條時宗の、招ふ應じ鎌倉より建長寺を創立す  
此時元兵我亂急し、全軍海岸に没れず、此僧同邦の哀傷を  
懺悔を憐り故に、奇異の字を用ひたり、

今市村は冠川又枕し、其西北山は城址あり  
土人多賀國府と云此邊又十符の池とて  
往昔菅草叢生し、採て薦を織り出す  
措紳貴族臥具に用ゆ、

景之社神高塩



節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守將  
軍藤原惠美朝臣朝權修造也

天平宝字六年十二月一日

是より数歩ならず野田の玉川に至る  
此地一帯の丘陵にして方今幾久し小溝を存す  
松樹の下に碑あり

此地舊時入江なれば海水進退月の為又  
金波漾々と光輝し清影玉を散布する  
妙境なりし物古と滄海一変田圃と成る

國幣中社塩竈神社武甕槌及び経津主  
二神を茲又合祭し近頃志波彦神を祀る

景之橋高原



社殿は巍然岡上と松栎古樹社を擁し  
賽路は石階數百級林樹翠々天を衝き  
三社宏社と並びたり

山社十分春参差花柳新緑堆粧燕界紅關  
飾常隣氾露芳姿静迎風艶恨擊一枝強不  
折即可莫明神 塩釜八景 社頭賞春

社前の日影時計は其高さ二尺幅三尺  
石造として鉄線を張り周圍又羅馬字を鐫る  
林子平が製なりと云鉄燈籠は高さ六尺  
和泉三郎が寄附し神釜は神釜町に在り  
口徑四尺八寸三酒あり塩神製塩の器として  
神代の遺物なりと云



松島は千賀浦海陸至便の地をとり  
 商船漁舟が輻輳し人烟稠密鱗次して  
 妓院酒樓の分ちなく軒を並べて營業し  
 殊に近世形勢一変し村民港灣を修築し  
 又停車場を備へ前より鍛屋太田やの  
 旅舎支店を開きつゝ競ふて旅客を攝待し  
 千松島や石の巻、救の濱や金華山  
 日々兩三回の定時間（和船小汽汽往復し）  
 また島巡の游舫は臨時廣客の需に應じ  
 一艘賃金七圓五十銭

卷之五



社地又勝画樓あり舊と法蓮寺と謂ふ  
 維新の際逆旅と成り客室は海灣を臨み  
 岸頭崖上又建築し東北は市中を一瞰し  
 千賀浦離島を眺め漁船烟を吐て未來し  
 時々流笛の声を傳へたり松島又近接し  
 右は東宮岐岸隣り斜に寒風沢及び宮戸  
 諸島又對し遠くは蒼波縹緲萬里又巨り  
 洲渚曲灣錯落隱見優美なる實は画の如く  
 誰か詩情を感じざらん 勝画樓ハステーションの向山ニ  
 して道程田下なり  
 青山環擁千家浦塩釜果然似金中高燈火  
 絃索冷樓々夜雨下簾櫳 頼鴨屋  
 洗眸閣廢晚風波勝画樓荒落日却却後猶餘  
 商女在隔江唱起舊時歌 岡十伍

全島松



○千賀の浦邊を漕出で舟路除かす進人行く  
 今日殊更長閑なて意なかる風もなし  
 此又七浦七崙八の島浦々山を負擔して  
 翠岫灣を抱擁し、塩松映對鏡を為す  
 奇巖潮汐衝傷の痕松條幽始叢翠の影  
 烟波縹緲群島星列し孰も島形を附して  
 恰も金池を往如し東又向ひ漕ぎ往は  
 籠ヶ島又神社あり岸松盤屈偃蹇し  
 緑枝を潮又浸したり

效又貞山の溝渠は二百餘年前仙臺の  
 政宗土功を興起して阿武隈川に到達し  
 福島地方は通商の便益を与へたるを  
 松ヶ磯を跡又為し東宮濱は神社あり

卷之五



向ふの磯を代崎と云馬放島又對したり  
 遙く法眼が筆拾島岐島屋形や太鼓島  
 馬放沙汀又上陸し数歩ならず一橋あり  
 橋畔の四阿又翹ひつ、鰯の生洲を眺むれば  
 其廣袤さ六七十間、夥多の鰯が游泳し  
 其數幾千尾數へ難し、效又釣魚の一興あり  
 まゝ七ヶ濱菅浦田は海水浴場を設けたり  
 島岡又隣り田顧せば塩金港を経て仙臺の  
 青葉城を遙望し南は代ヶ崙を眼前に視て  
 花洲岬より金打や、屋形磯や沖の牽生島  
 太鼓島やはみ島橋掛島鍋島を経て  
 金華山遙嶺又觀る西の方は桂島や石濱  
 北は富山や松島の海岸遙く對したり



馬放島を漕ぎ出て進む松路又放火島  
 材木島の岬端の奇巖大孔を穿たり  
 東宮戸大高森の島寒風澤等は島嶼き  
 丸山は東名濱を以て陸路は驛り運河あり  
 道程一里野跡又達し又三里廿四町又して  
 石巻に至る此大工事明治十四年又開鑿し  
 其費金高は百万圓北上川又達したり  
 東名海岸は製塩場民屋夥多軒を連たり  
 船は富山地方又進み手樽の濱又上陸し  
 富山に至る十八町山路又入は喬木鬱鬱し  
 大仰寺は山の半腹又堂宇は西南面にして  
 佛壇の右側又昔日玉座の遺蹟を存し  
 此地は松島の湾内が基曲の面を觀る如く

卷之五



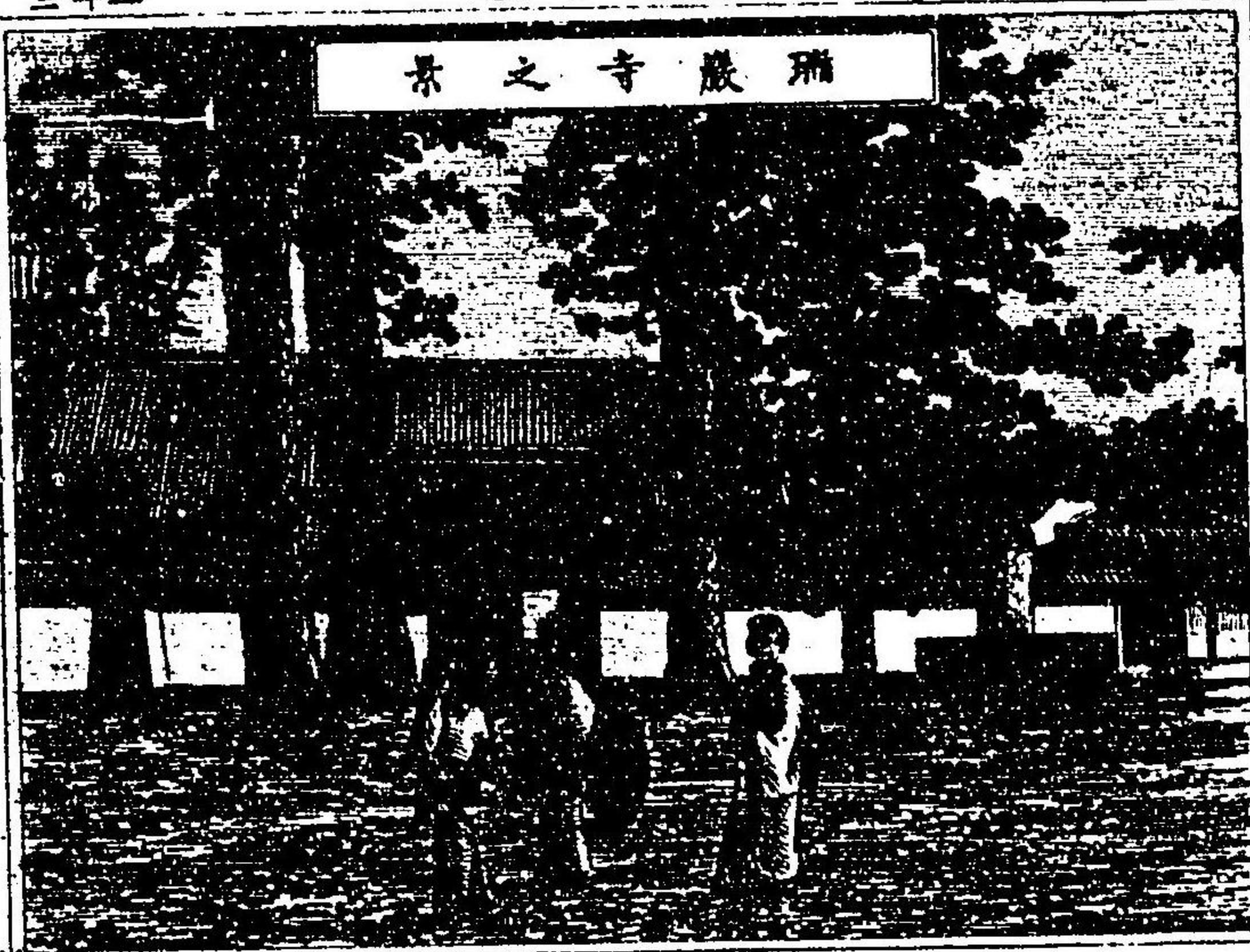
故百の島が星列し東は一望千里を極め  
 滄海渺々水天一色南又相馬山連峰し  
 東名は左腕の如く塩浦湾は右腕の如し  
 金華日和の二嶺は翠綠海濤又浮たり  
 雅俗云松島勝概は富山又在り此言語  
 果して信なり富山は實又塩松の總觀なり

松島八景

松島秋月 雄島夕照 梅浦早春 霞浦啟雁  
 瑞巖曉鐘 竹浦夜雨 塩釜暮煙 江懸殘花  
 一碧琉璃滄不波 平濤無數點青螺 月明宛似  
 龍燈出分付 光輝夜色秀 頼春水

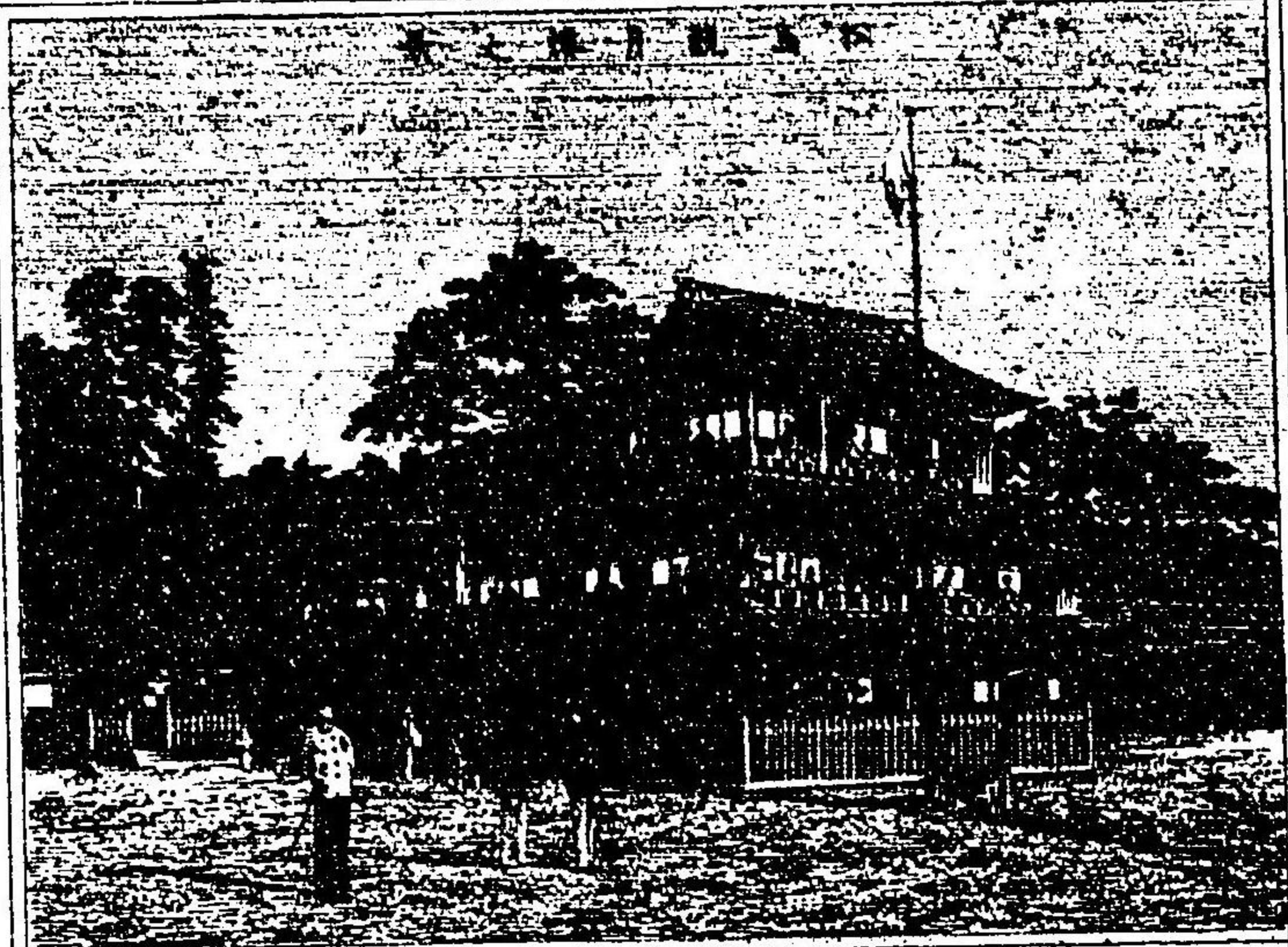
再び船又乗り松島の地方又漕ぎ申ければ

景之寺嚴彌



山王稻荷や八幡宮後山を並べたり  
 沖の方を眺望れば蔵経島又空塔時ち  
 翠柳仙冠九之島緑繪島は前より分列し  
 遠く宮戸大高森大濱大洋を衝隔し  
 野々島桂島石濱の烟波又泛み其西又  
 森盜放火鑽燧島布袋大黒島相對し  
 蛭子昆沙門先後し伊勢と小町は進退し  
 鑑亮島等羅列して白鷗其洲又集りて  
 扶桑第一の景地なり  
 風光招我海山阿拍手吟魂奈句何御島烟波  
 松島月到此卷古富樓那 薩 天錫  
 西風幾日此淹留客枕寒生松島秋只喜壯遊  
 酬風志不論奇勝在荒原 小野湖山

卷之五



白翁島を左りに視る引通し島や福浦島  
 此島は實竹を生ず十貫島や旭日しま  
 寶來江島を見て松島海岸又上陸す  
 松島は旧千松島と云宮城郡の東端又  
 海水深く湾入して一の内海を形成し  
 群島凡そ三百有余大小點々羅列して  
 島嶼悉く松を生じ恰も金栽を視る如く  
 南は千賀浦を際し北は石磯寺鏡光の  
 天影古今を照しつ其左の島は五大堂  
 寶珠磯や通桐磯龍首磯や鳥羽島  
 右は龜岳や蛇目岬觀瀾亭や觀月樓  
 宮川烹樓を設たり  
 瑞巖陽徳園通寺叢林中又隱頭し





石巻之景

島上の老松屈曲し嬌大恰心蟠龍の如く  
 觀瀾亭は觀月崎舊と貞山公の離亭  
 兩奇晴好の額を掲げ眺望松島又冠たり  
 雄島また御島と書四逆断巖壁立して  
 翠松濃又織塵なく一橋あり渡月橋と云  
 幽徑又入て禪堂あり僧頼賢の碑をはじめ  
 句碑夥多看る中又

朝よとね袖まつあのみさし初は長月  
 朝霧やあとより恋の千松あ 暮太

○石巻は松島を距る五里餘北上川の海口  
 秋濱は石巻の東五里北海渡航の要津とて  
 船舶輻輳繁花なり、

卷之五



大島之景

金山風月幾星霜無復却灰汚道場空殿峰嶽  
 五大堂靈蛇繞繞護空章 岡 千仞

秋の夜の月やあまの天の星のちの星のほし松家隆  
 松島や雄島の磯にのぼる月見水もあまの星あり 俊成

ついでにみまき橋けん松島夜のそよ風をきき 芳樹

瑞巖寺は旧松島寺承和年中に創建し  
 中門の側又雜鳥の岩倉公篆額の石碑  
 臥龍梅は八房の梅伊達政宗が肖像あり

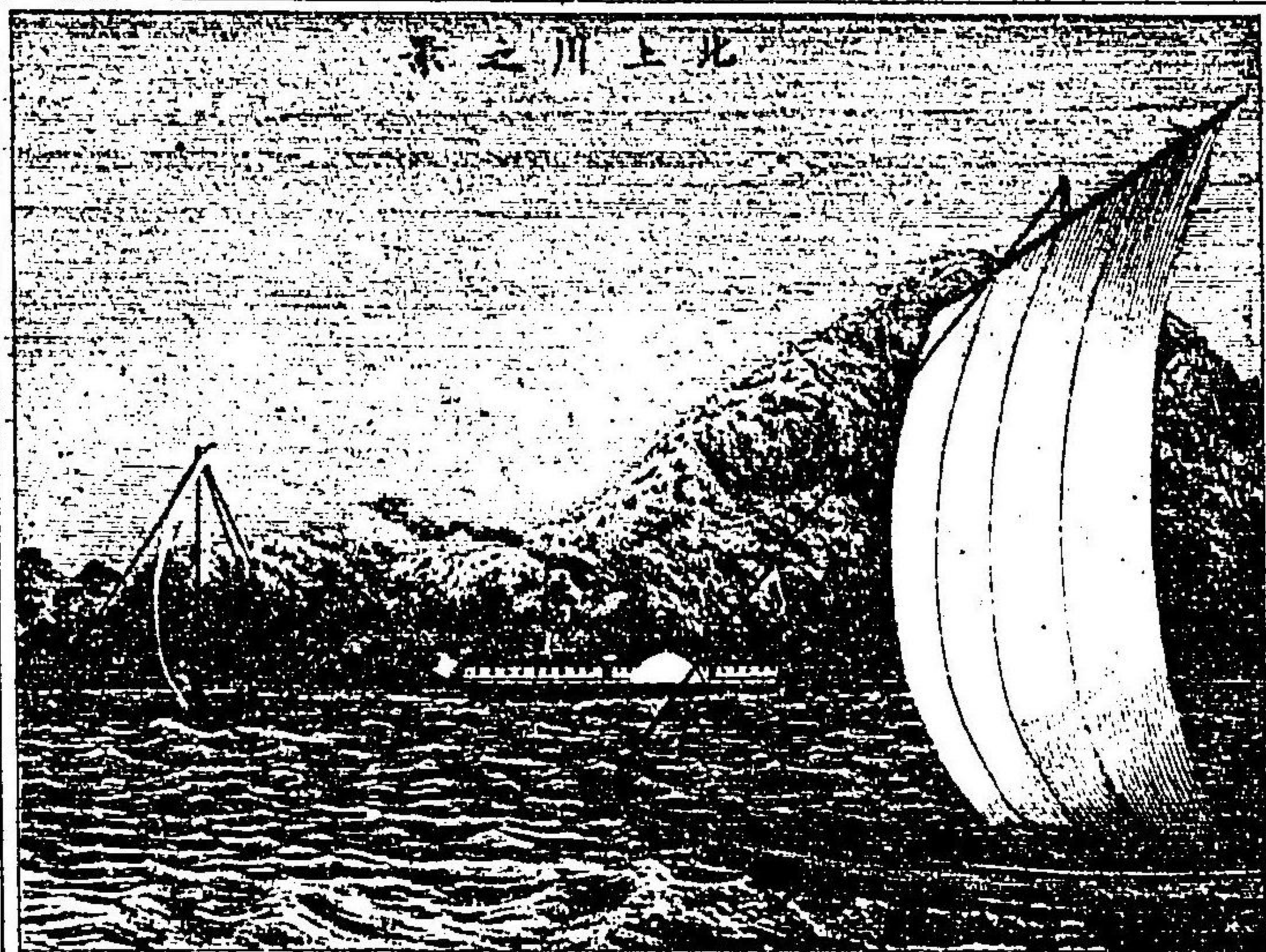
明治九年 今上天皇東巡の際轡を狂玉ひ  
 優留在せらるる三日修善金下賜の幸あり

速上径山分風月歸開圓福大道場法身透得  
 無一物元是真壁平四郎 法身和尚

五大堂は松島又接し二島雙立橋を架し



金花山は塩釜を距る海路二十里の其間  
 諸島點々羅列して鮎川に至る渡口は  
 山鳥まゝ鹿渡と云ふ此間僅に二十四町  
 山嶺大洋は獨立し澗水沙金を流たり  
 小祠あり龍藏と云東南より降る山腹は  
 六角の水晶石あり風浪千萬里より来る  
 恰も龍蛇の飛騰して白雲を起し異ならず  
 天風一掃兩新收萬里東洋掌上秋帝挹精英  
 築島入言標柱鎮靖洲 小野湖山  
 是より石巻通ひの小蒸流は航しまた  
 石巻より北上川は瀨り和瀬や登米を経て  
 陸中一関に至るべし



日和山は石巻の時ち葛西清重の城墟  
 松主漁父此山に登り常は晴雨風波を占ひ  
 山頭眺望絶佳なり明治十三内海其が  
 家産を傾け橋を架す  
 淡村大門寺は一社あり大塔宮の遺蹟なり  
 社側又古墳累累と延元の字僅に視べし  
 傳へ云餘倉の乱は湖邊氏足利の命を土窟に入て君を判し  
 首級を送る事と密に此は供奉し來て借箇し天平年間  
 遂に松平朝卿主は是より此地を橋渡寺境に古蹟あり  
 吉野先帝菩提寺此地四山擁護して世を避るる道あり  
 牧山屹立北河溜下有南朝追薦破欺賊金  
 道土窟前蹤避難託東陸 岡千仞  
 靈蛇田道の古蹟は蛇田村禪昌寺に在り  
 田道公は仁徳帝の代將軍又任官し蝦夷  
 伊弉水門に死すと記

陸前國物産  
 硫黄 石膏 甘薯 芋麻 蘭 藍 川芎 沢瀉 煙草 茶 楮 末 實竹 海苔  
 和布 昆布 鹿角菜 蚕種 鱒 年魚 鯉 鱈 鮭 鮪 鮒 鮓 鮫 鮓 鮓  
 章魚 鱈 蛎 馬 生絲 真綿 精好織 玉川織 八段掛織 雲丹等なり  
 同驛路

陸奥街道 金瀬 大河原 舟船迫 木岩 沼 増田 中田 長町 仙臺 七北田  
 富谷 吉岡 三木 古川 荒谷 高清水 築館 宮野 沢辺 金成 有  
 陸前陸中一之関  
 同治海道 仙臺 宇原 町 利府 高城 小野 廣瀬 和 神取 寺 柳津 横  
 山北 沢 折立 志津川 伊里前 小泉 大谷 氣仙沼 今泉 高田 盛 吉濱  
 羽前陸中 陸中 金石  
 羽前路 越 仙臺 長町 鉤取 茂庭 赤石 若石 小野 川 野上 笹谷  
 羽前関沢村を経て山形に至る可し

陸中國之部

此國東は大洋に面し西は羽後と連接し南は陸前と並列し北は陸奥と隣る  
 東西凡そ三十七里南北は三十三里より五十里の廣又亘る其地勢は陸奥の  
 山脈東西に分派して西に走り羽後を貫し東は中央に連峰す其山嶽は於ける  
 昨川嶽や室根山 束稲山 駒形岳 蓬駒岳や南昌山 早池峯や六角牛山  
 兜神岳や姫神山 岩手山 岩鷲山 八幡平や 硫黄山 五宮岳や 青狭岳  
 大國平や 四嶽山 嶽連り平地少く北上川中位に流北沿岸は原濕廣遠に  
 碓氷多し盛岡以南稍々沃壤の地多し閉伊九戸の両郡は東海沿岸なる故に  
 頗る漁塩に富たり金山は江刺郡人首村 銀山は鹿角郡小坂村 銅山は同郡尾去村  
 其採出年々盛なり州内十八郡又區別す 東磐井 西磐井 膽沢 江刺 東和賀  
 西和賀 稗貫 柴波 東閉伊 西閉伊 中閉伊 南北閉伊 北岩手 南岩手  
 南北九戸 鹿角等而して名邑は 盛岡 岩谷堂 花巻 速野 金石 山田  
 花輪 毛馬内 等なり 人口は五十零万九千一百五十餘なり



関係する者なれば既に鉄道工事あり  
 其停車場の順次は一之関より前沢や  
 水沢金寄や黒沢尻花巻郡山を経て  
 盛岡又達し夫より波民や沼宮内を過ぎ  
 青森線路に接続す今や布設も着手せば  
 数年間を出ずして其通行を觀し至し  
 高館は衣川に瀕して此川流の中瀬に  
 辨慶が戦死の跡とて松の一木あり衣川  
 古樹の下に句碑あり  
 夏草や兵士の生霊の石とませぬ  
 其始秀衛義経を隠す其子泰衛又至りて  
 義経を衣川に襲ふ義経逃れて北地脱す  
 頼朝大軍を率ひ来て義経を攻亡したり



中尊寺之景

陸前石巻を解纜し運河開門を通過して  
 北上川を進み通法狐禪寺村濱を経て  
 一之関に達すべし船路は凡そ三十里  
 奥羽曠野天下無誰興大利賛雄圖聖上親巡  
 察利病源慨道路難運輸 岡千仞  
 一関は磐井と呼ぶ高等小学校や郡役所  
 治安裁判所や電信局物貨運輸の宜き得て  
 其繁花盛岡に並たり  
 氣仙沼に至る街道は一関より薄衣や千麻  
 折壁等の駅を過ぎ宮城縣氣仙沼に達し  
 今泉通ひ路は此駅より長坂大原の駅を経て  
 今泉に至る其路次は峻坂多く平地乏し  
 凡て道路の難易は往來交通の便否に

THE CHERRY TREE THE COURT HOUSE  
OF MORIOKA.

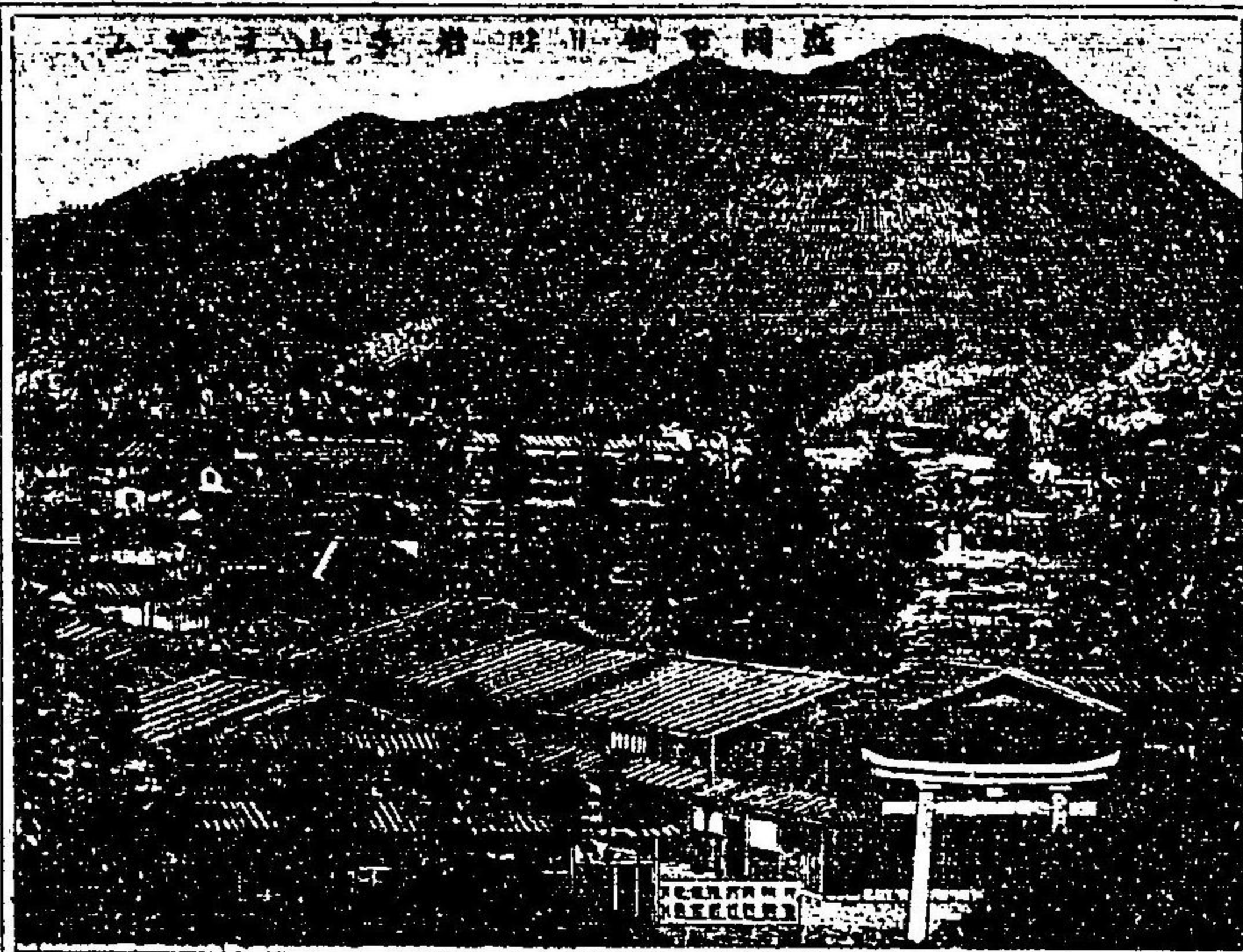


盛岡裁判所内石割之景

盛岡は南岩手に在り、東京を距る百四十里、縣廳を仁王村に置き、裁判所内の石割櫻は、岩石中を發育して、終に其岩を破裂し、春候花時爛熳たり、造化の奇と謂へし、縣内第一の都會とて、國道の要衝に當り、且つ北上川に沿ひ、中津川を狹みたり、市坊の廣袤東段、凡そ一里南北十八町、人口三萬九千百餘、市街は各種の商戸が、鱗次軒を並べ、建て、會社、銀行、商館、寺、通商、販賣を極めたり、

岩手山は、奥の富士、南北岩手郡に跨り、頗る高峻の休火山、盛岡を距る六里余、岩手神社は、龍沢村大己貴神倉稻魂命

VIEW OF IWATE YAMA FROM MORIOKA.



平泉は一関を距る北の方道程二里余、鎮守府藤原清重が、以下四代の城墟なり、其盛時は王室に擬し、伽羅蘇御所と唱たり、中尊寺は長治年間、堀川天皇清衡に勅し、堂塔、土社、又建築し、僧坊四十余宇ありし、今幾の遺物に就て、當寺の壯麗なりしこと、想像するに足ぬべし、中尊寺の傍に昔日義経依居の館跡あり、

花巻は盛岡を距る南九里、城は南部家の屬城にして、此都邑中舊時要害の砦なり、此地は米代川に臨み、鹿角郡役所を設け、尾去沢、鏡山に近く、郡中繁華の都會なり、日誌を登る盛岡の事

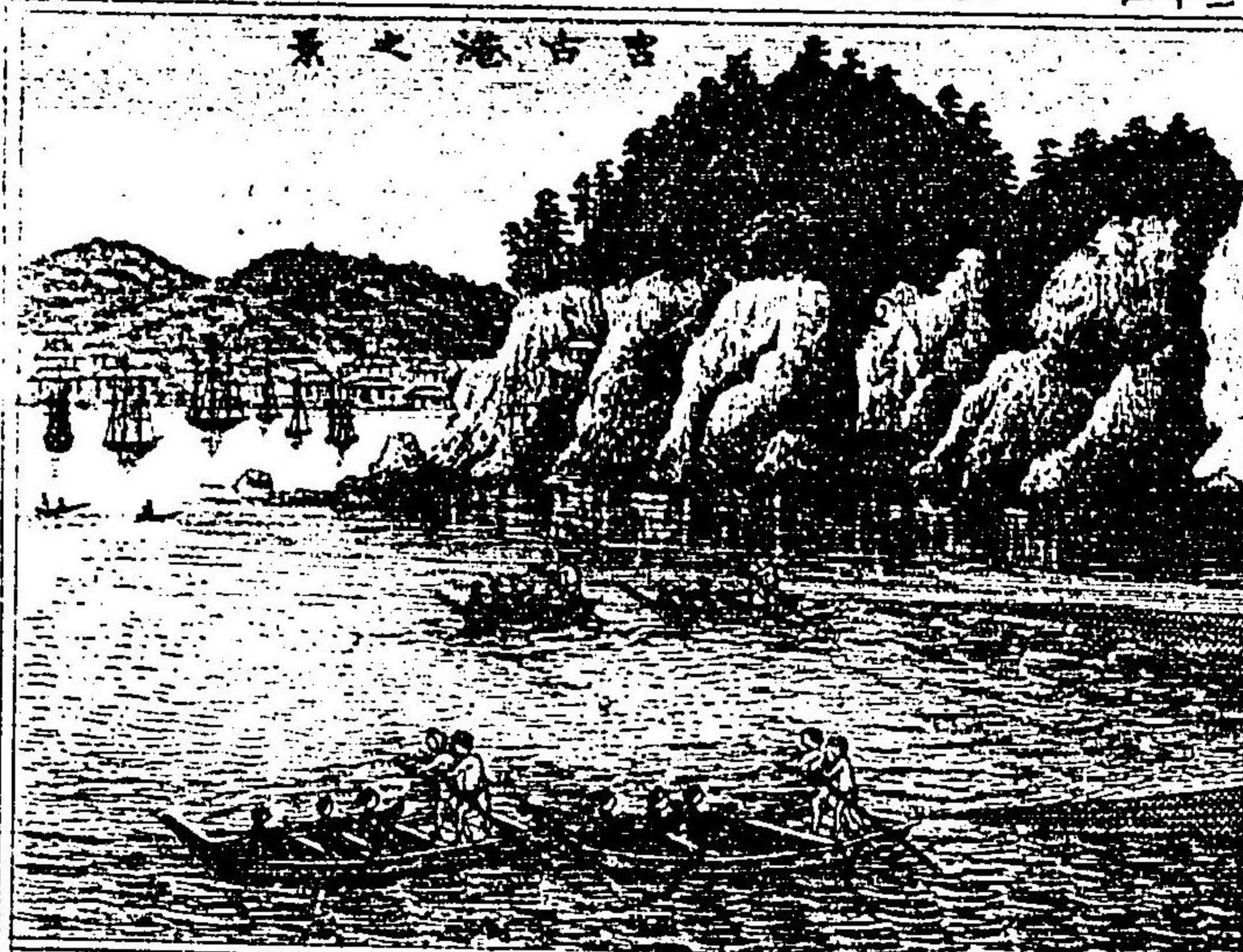
景之泉温張網



港の東を鐵嶺と云其外山田や金石港南又遠く灣を為す  
 安倍館は盛岡を距る北の方一里許にして天喜年間又自任が據守せし處と謂ふ  
 此地原野最と多し殊又著名なる地は岩手山の麓又洗島野姫神山麓又外山野耕作するもの稀にして牛馬羊等を牧畜し古来良馬を産すべし  
 網張温泉は岩手郡岩手山の麓長山村泉質硫気あり功能は第一疝氣打撲よし其外稗貫郡の大沢夏油湯は下鬼柳村湯田も同郡中として四所の温泉場あり何れも有名浴客多し

卷之五

景之港古宮



日本武尊を配祀す金石街道は此地より大迫や下宮守遠野等諸駅を経て至る其路大概車馬を通ずべし  
 錦木塚は岩手山の西今日里は細布を織る尾去鐵山は金及銅日々採出最と多し小阪十和田の兩礦は銀及銅の産盛なり細地鐵山は銅多し小真木鐵山は近來の開鑿なれども是も亦多量の銀を産すなり  
 鍾子連警白雲渡細地鑛金石階山卒下來相報導礪光今日不勝佳 館柳灣  
 宮古港は盛岡を距東二十七里又在り有名の良港として東西は一里十四町南北二十四町其灣さ三俣より五俣東又西

陸中國物産

水晶 硯石 磁石 藍 烟草 苧麻 蘭草 藥草數種 紅花 紫草 楮 漆 檜  
鹿角菜 昆布 蠶種 鮭 鱒 鱈 魚粕 乾鰾 乾鰯 海參 牛馬  
生絲 真綿 縮緬 太布 罌粟殼 蘇粉 蘇繩 疊表 漁網之類

同駁路

陸奥街道 一関 山目 前沢 水沢 金崎 黒沢 尾花 巻日 詔 盛岡 幸波 民  
沼宮内 陸奥小繋 陸前登米路 一関 金沢 涌津 陸前石珠

同沿海道

金石 大槌 山田 津輕石 宮古 田老 小本 田野 畑草 黒崎 普代  
宇部 久慈 有家村 植市村 陸奥八戸

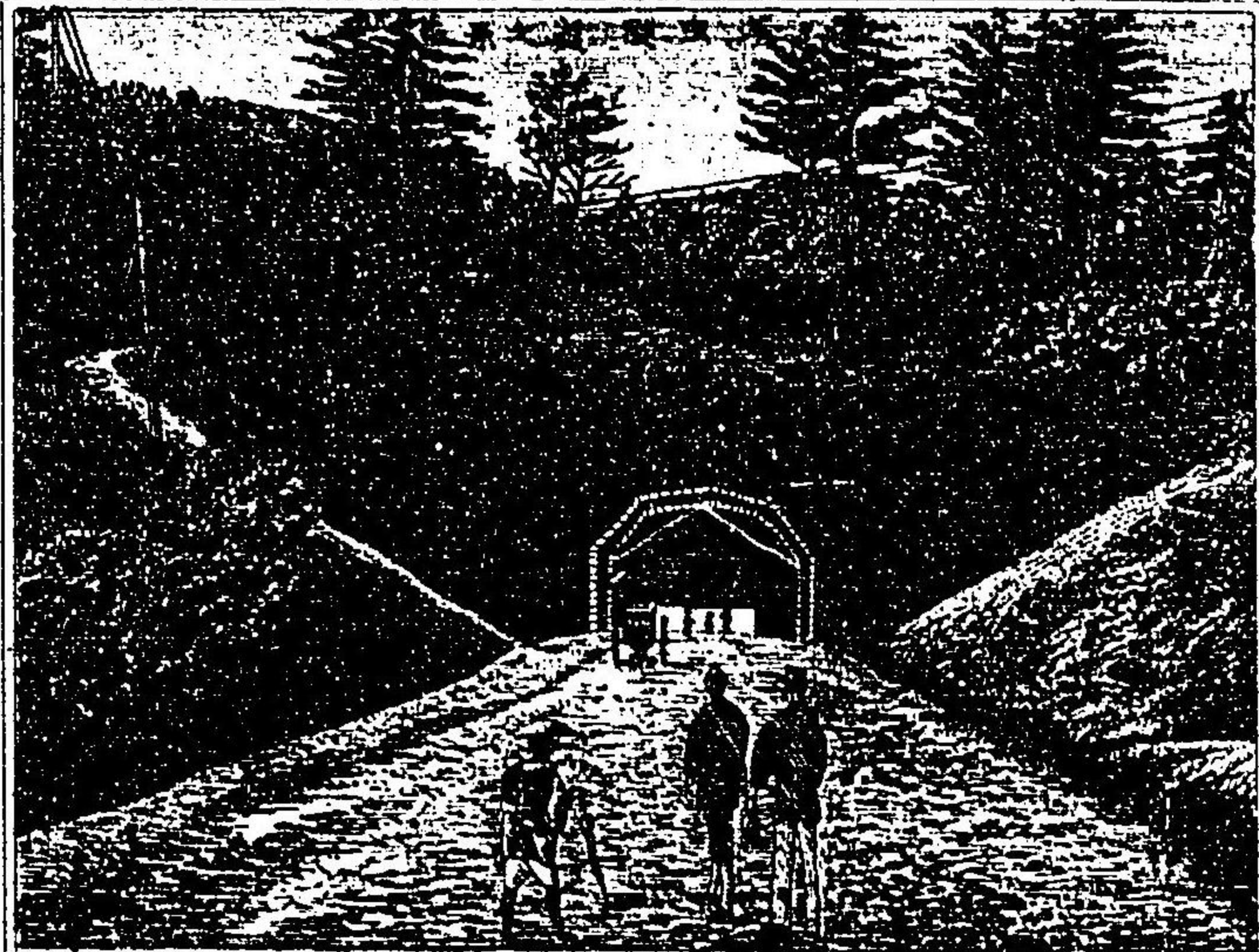
福岡路 久慈 大野 小軽米 陸奥福岡

羽後生保内路 盛岡 櫻栗石 橋場 羽後生保内

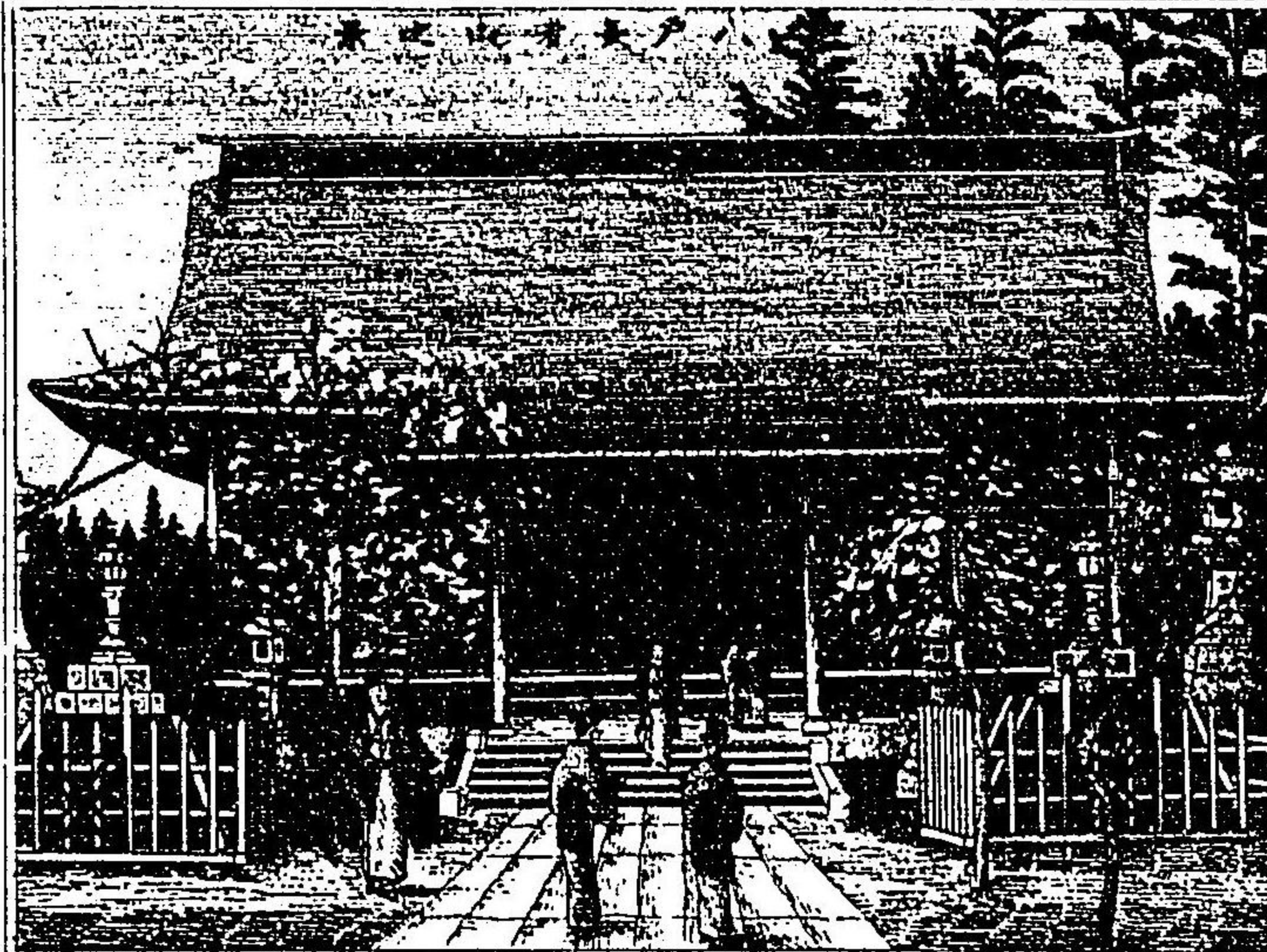
同十二所路 盛岡 田頭 寺田 陸奥新田 田山 湯瀬 花輪 神田村 松山  
羽後十二所

陸奥國之部

此國南は陸中及び羽後と接し東北は凡て北海と瀕面し東西凡そ三十九里  
南北四十餘里にして其地勢東西兩隅又屈曲相拱し海を容れ津輕海峡を相隔て  
北海道と對したり山脈は中央より走り南走支脈は西折し羽後を疆域して  
水山脈は南より走り木州山脈の起原なり就中高峻なる者は岩木山一名津輕富士  
八甲田岳は二郡邊恐山一名宇曾利岳釜臥山や高田大嶽赤倉岳や八幡山  
烏帽子岳や戸来山米満岳や名久井山階上岳や折爪嶽浪打嶺や西之峰  
七時兩岳や安比山稲庭岳や蘆名山右等の山嶽此は次々川の最も大なるもの  
岩木川や奥入瀬川馬淵川や追良瀬川淺瀬石川や平川等東方は曠野相接し  
不毛の地少なからず西疆は土壤稍肥居民耕種を能く勤め或は漁獵を兼たり  
州内九郡と區別して 東津輕 西津輕 中津輕 南津輕 上北郡 下北郡 三戸  
二戸 名邑は 青森 弘前 黒石 七戸 田名部 八戸 等なり  
國中の人口は 四十六万六千五百七十餘

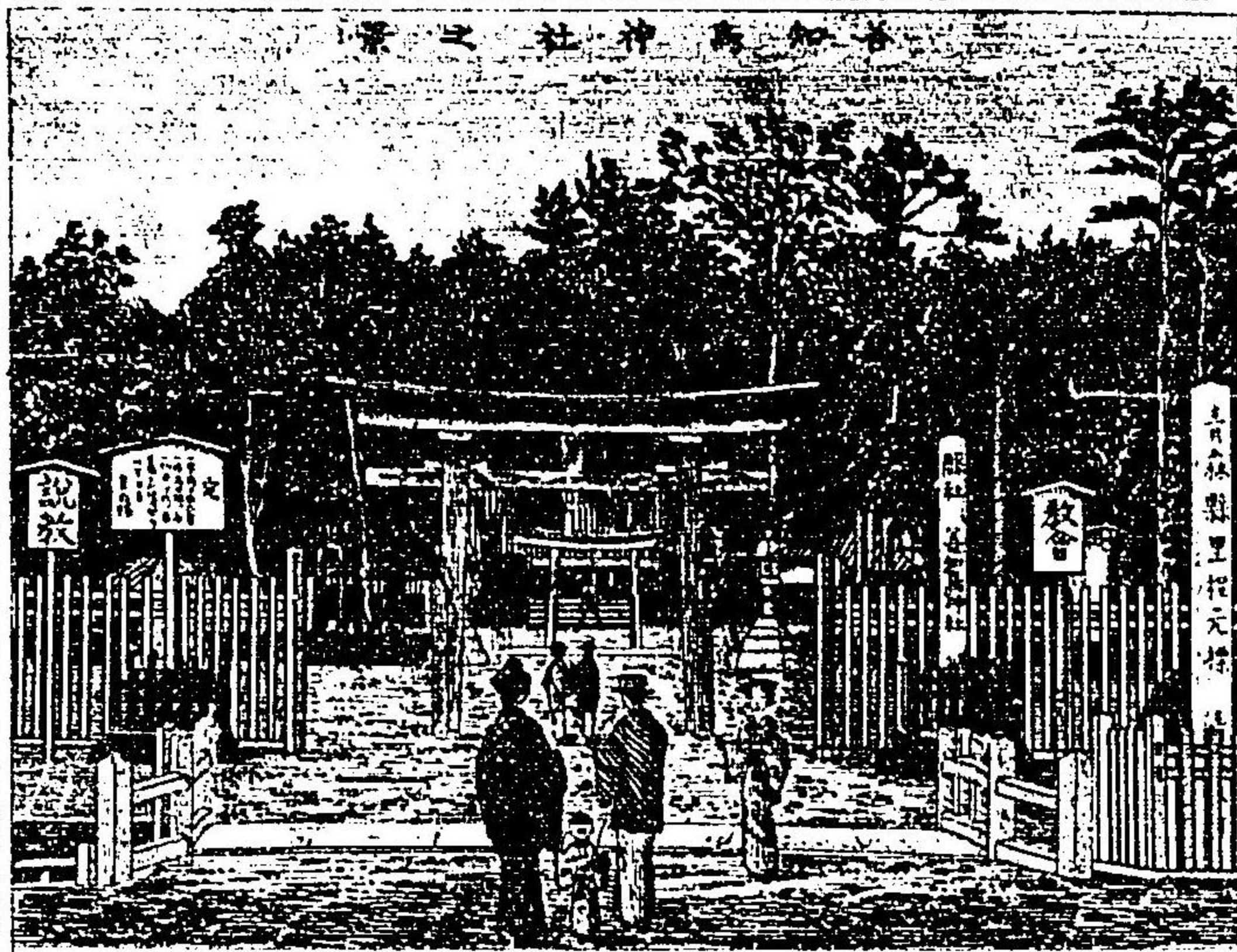


淡は八戸の東一里、淡川の一橋を隔たり、  
 鮫は西淡を距る一里、海角の東北に在り、  
 蕨島其北面を圍擁し、碓泊するは最佳の地、  
 五戸は八戸の西北に土地狭けれど繁花なり、  
 其南は浅水の一駅あり、三戸は五戸の南にして、  
 奮南部家基業の地城廓今尚巍然たり、  
 茲は巖坂の險阻あり、  
 傳法寺駅の東方は荒原の地頗る多し、  
 郡山其西境に聳へ、東は海岸に亘りて、  
 原野遠く開けたり、此を三木木野と云、  
 地味瘠薄耕種は適せず、  
 七戸は舊城市にして、野辺地は内海に面し、  
 富商家頗る多し、公園の眺望奇絶なり。



本州鉄道は布設中、儲て停車場の順次、  
 小繫一戸、金田を過ぎ、三戸や八戸を経て、  
 野邊地、小淡と接続し、青森灣に達すべし、  
 未松山は二戸、福岡と一戸の中間に峙ち、  
 山腹は潮汐衝突の痕を残して、山脊は、  
 時々海虫の化石あり、故に往古の變遷を、  
 想像するは足るべし、  
 又は佐野の雄風吹き、岩とあふる松山、英庸、  
 年浪の末、松山をむねむらむらとせよ、岩とせよ、  
 八戸は舊城市にして、坊中の繁華の家列、  
 入口一万余、三百餘郡役所や裁判所、  
 警察署や病院を備へ、長者山神社は壯麗な、  
 運輸極めて自在なり。



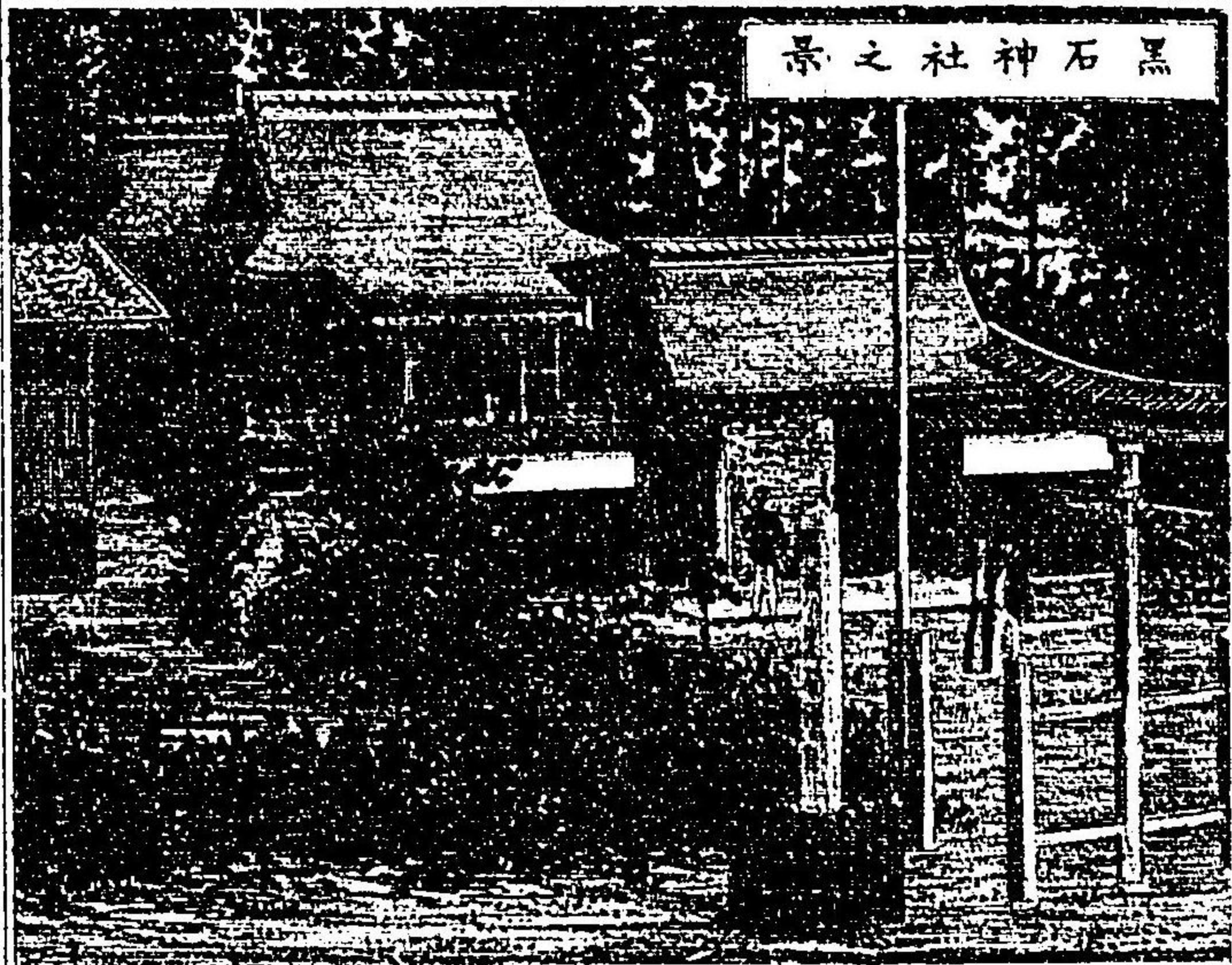


市街は商賈極比し人口一万二千七百餘  
 函館を距る五十九里北海渡航の要地なり  
 縣社善知鳥神社は田心滿津姫を祭り  
 社殿は本社巍然たり、  
 黒石は舊城市として黒石神社の社麓あり  
 弘前は舊城市として縣下屈指の大都會  
 市店鱗次栞比して人口三萬二千百餘  
 裁判所や電信分局学校病院の設けあり  
 大圓寺は荒敗して僅く宝塔を残したり  
 倭武彗祭の景況は舊幕府の時代より  
 傳來したる祭式にて其飾り物は上櫛又  
 掲げ出せる圖の如く竹を骨とし紙を衣守  
 古今英傑の姿を造る各町一個の費二百圓



大港は内海の良港金臥山の麓に灣し  
 小湊は官道の一駅  
 浅蟲は青森を距る東三里に在温泉場  
 茲に隧道を鑿通し海濱に列り前灣は  
 湯島鷗島裸島芳大小島嶼が點綴し  
 波濤穩に漁獵富十四所の温泉あり  
 鶴湯椿湯は清淑な泉質殊に良効なり  
 殊に盛夏避暑の客前灣に遊舫を泛め  
 島巡の一興異に好し、  
 興寧洋船中秋夕去苗不繫伴閑鷗霞紅楓葉  
 飽霜岸月白蘆花簇雪洲 谷山春窓  
 青森は縣廳の有必堤川東境を環流し  
 北は内海に灣面して本縣第一の良港にして

黒石神社之景



異装を粧ひ市中を舞踏し巡る其風情  
 國風の一奇と謂へし、  
 國幣小社岩木神社津軽郡百沢村に在り  
 宇都志國王命を祭る社殿壯麗巍々として  
 緑樹社地を圍擁し森々と神古びたり  
 郷社高照神社は岩木山下高岡村  
 武甕槌神経津主神天津兒屋命を祭り  
 社地廣く壯麗なり、  
 深浦は日本海に面し鐵沢を距る南十里  
 其湾形團扇の如く湾内水深く波穏  
 帆檣常々林立して妓樓酒亭最と多  
 海望の風光頗る明媚四季繁花を極たり  
 豊崎層巒壓海頭工夫枕石幾危極地隨山水



岩山は中津軽郡弘前の西三里に在り本州第一の峻嶺其形ち八葉如く故に津軽富士と云ふ  
 南麓は嶽温泉あり毎歲九月に入登其峯は白衣を着て格帛を挿し垢離を為登山終るに及んでや

同七月一日より七日間鐘鼓を  
 用て奏樂し全市賑なく持廻  
 る男子は女服を着し女子は  
 男子に粧ひ何も輝然笑を合  
 む實に祭禮の奇觀なり、  
 地方も此列あれど新徳瀑は  
 弘前より四里田代村に飛流  
 して其高さ十丈幅二尺遠く  
 此を眺むれば一匹の素練を  
 垂如く毎歲嚴冬乳氷をなす  
 其形も由て豊凶を謂ふ、



岩木神社之景

海望の風光絶佳なり、  
 小泊岬を権現岬と云海中より斗出する里余  
 岬巖嵯峨として轟頭獅子の頭又彷彿たり  
 岬上又遠く眺むれば福山の白壁烟霞の如く  
 近くは海馬洞や狂島羅漢石は合掌する如し  
 造物の妙奇歎すべし、  
 龍飛岬は東北津輕兩郡又跨り實又我が  
 蜻蛉洲の北端又して岬巖削立又驚へん  
 渡島の白神岬又對し其間潮流の急激を  
 中の瀬と呼び一條の潮勢縮々の声高し  
 龍飛村は漁家三十戸險を冒し漁獵なす  
 前海の帯島は其昔義経依居せしと謂ふ  
 熱寄岩石は空洞あり内容十疊を敷べし

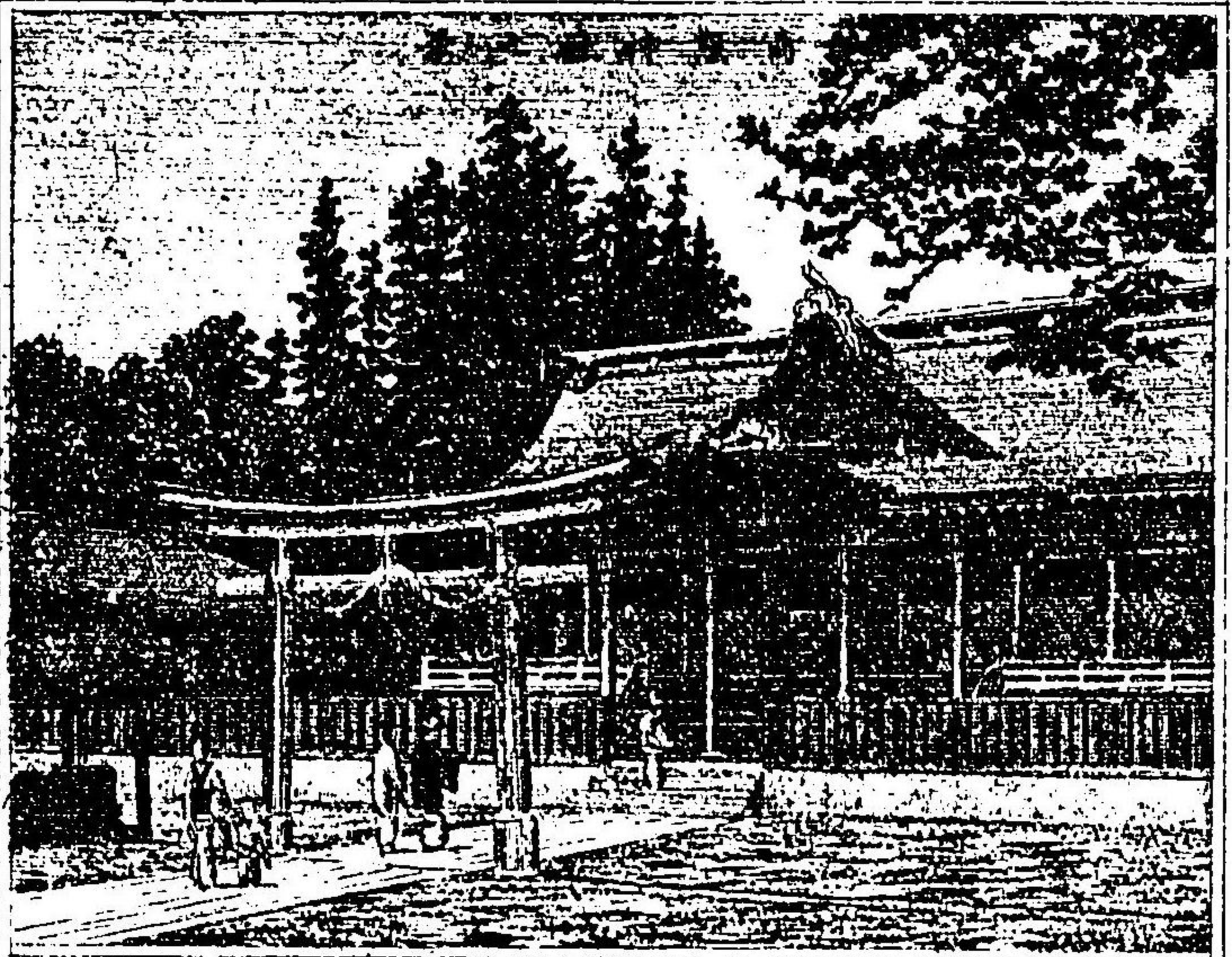


碧草間一幅丹青三十里畫中人往還中還

菊池 萍華

十三瀉は西端僅又海又通ず大湖なり、小泊は北海の良港北は福山瀉又對し  
 村中の小丘を丸山と云人家山麓を繞たり、瀉内巖を嶺する安土人此を生計とす

窮地焔入捨風烟得自由 菊池  
 雙枕倚波情易遷 新粧佳妓意  
 堪憐前宵泣送山陽客 今旦笑  
 迎東海帆 右同  
 鉄沢は郡の中央又街衢は海  
 瀉又臨み東舞戸村又聯れり、  
 鉄沢又通ふ沿海を七里長瀉  
 と呼び来り一條の沙路人  
 烟なく雪中の鷲旅險難なり  
 山岳臨海海連山坦路斜通



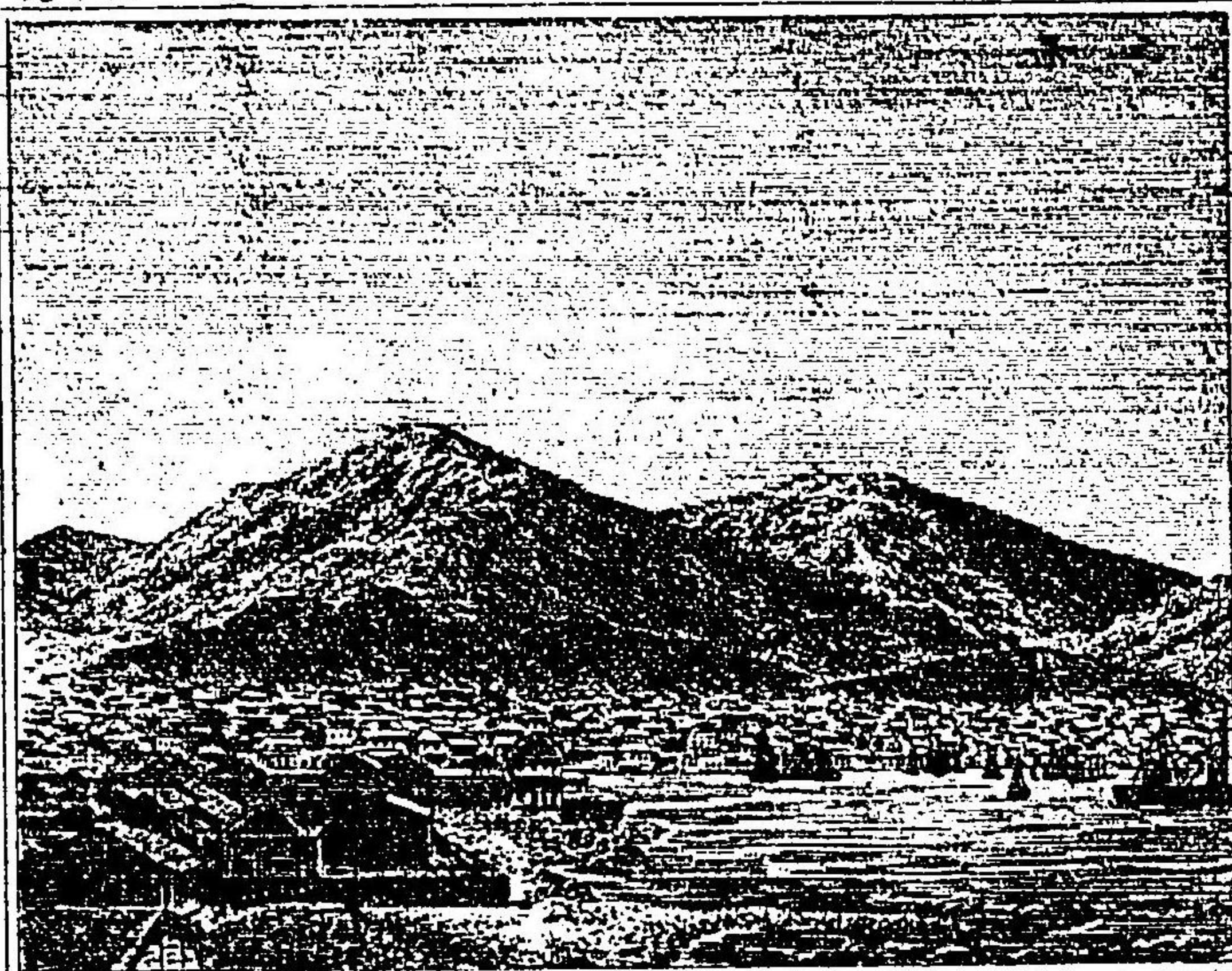
無數の紫燕巢を作り、四季相共群翔したり  
 效又砲臺の礎石あり、  
 三廐は合浦の一村、落田松前渡航の要津  
 錯島や地島前より列り、岩石は自然既の如し  
 此地義経が依住せし龍馬寺の古刹あり  
 義経の書類を蔵たり、  
 曾許諸平雖有功、急迫天子似無忠、闕地曹植  
 翠秀入海、田横為勢窮、 菊池萍華  
 大斗瀬寄は金沢の北部より出せる岬角  
 盡頭の岩石長さ五町、其幅四十間、平布して  
 自然縦横又線を印す、此を千畳敷と呼ぶ  
 中央は一個の奇沼あり、其名を杯沼、瓢沼と云  
 西港の奇観と云べし、

陸奥國物産

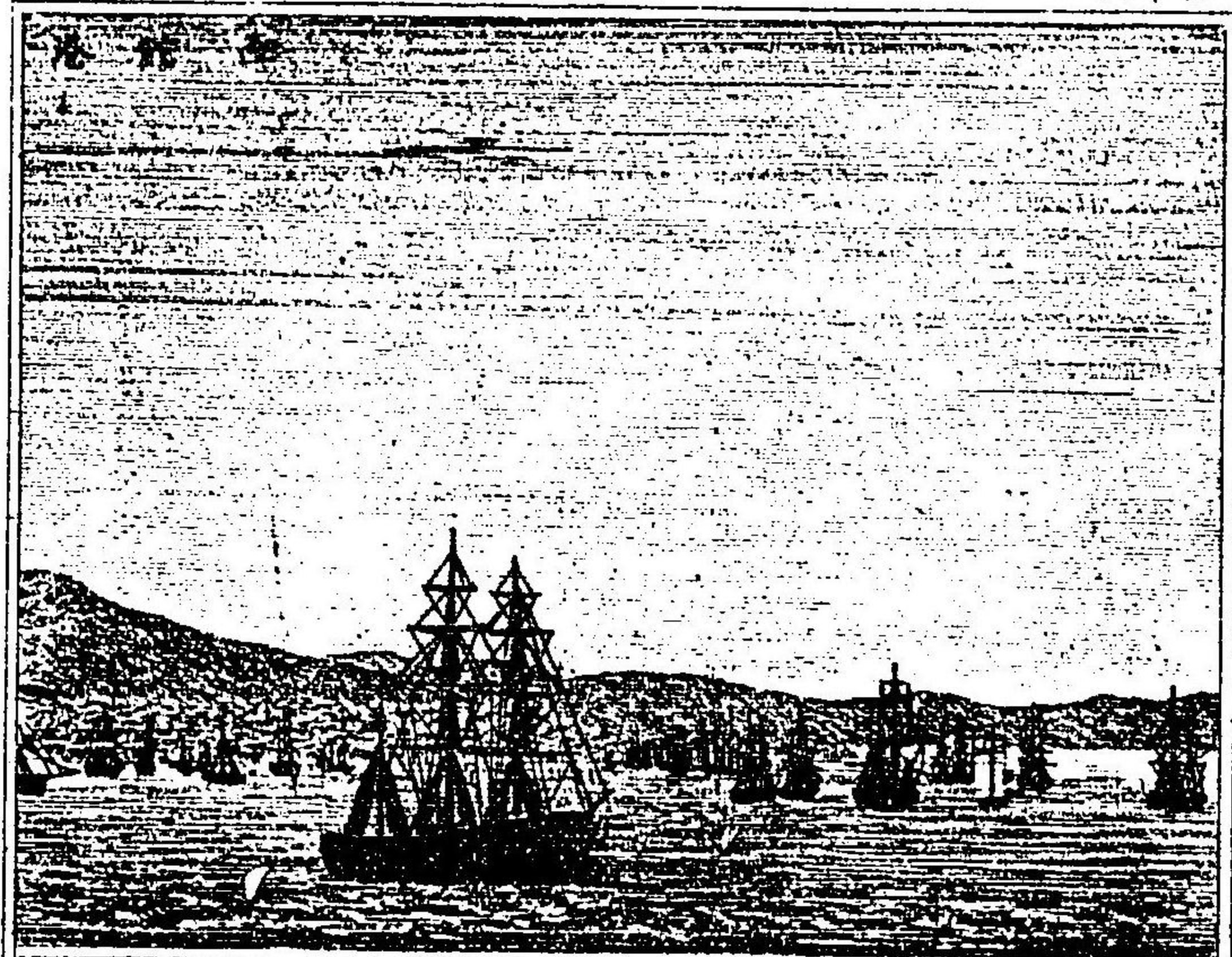
硫黄 大豆 薯蕷 百合 蕨 狗脊 檜 昆布 鹿角菜 鮭 鱒 鱈 海扇貝  
 海參 乾鰾 牛馬 殼塗漆器 漆 珊瑚 山慈姑粉 蘇粉

同驛路

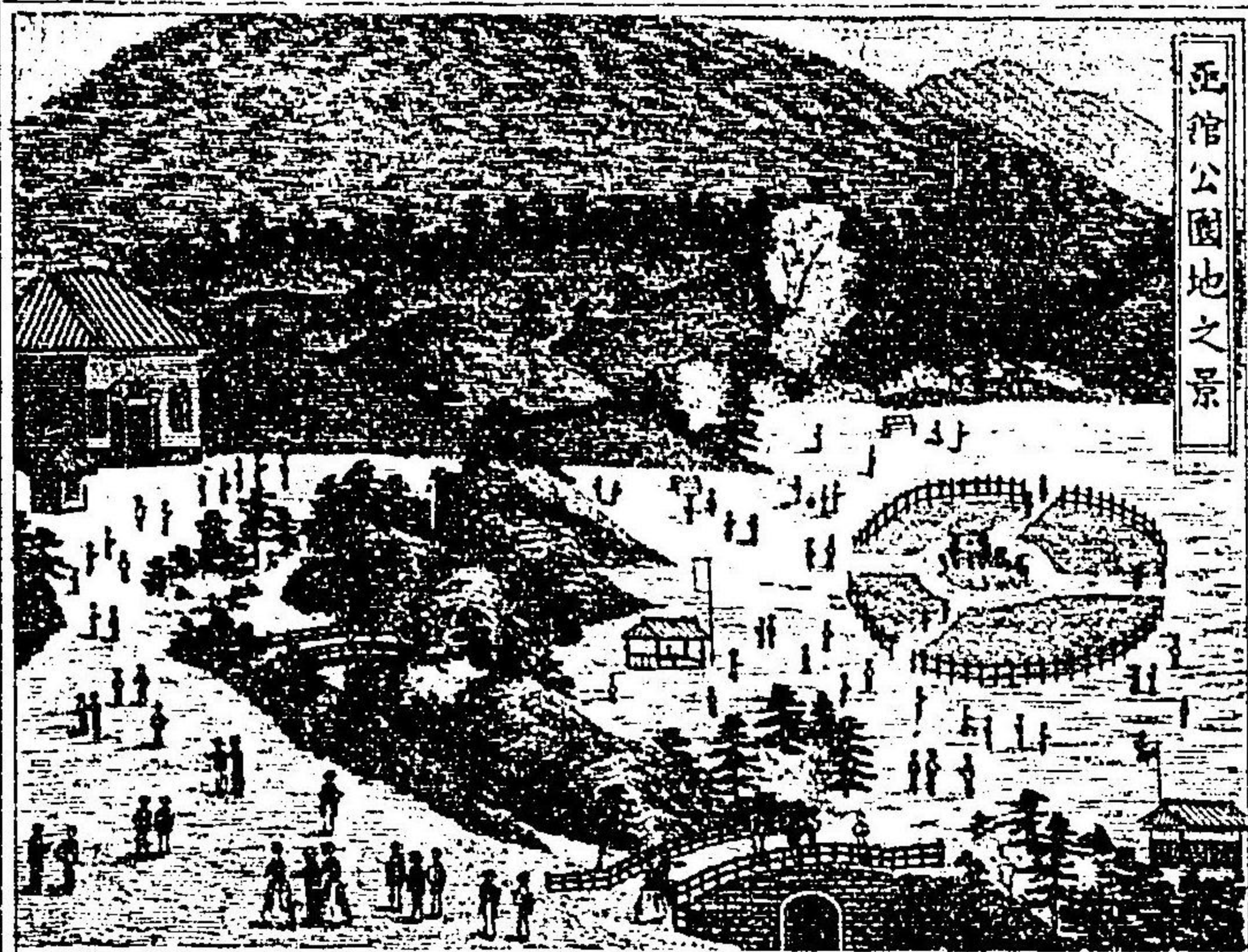
函館道 小繫一戸 福岡一里 金田市三三戸 浅水一里 五戸 傳法寺 藤島 三木木  
 七戸 野邊地 小湊 野内 青森 渡島 箱館  
 同佐井通 野邊地 有戸 横濱 中野 沢 田名部 関根 大畑 下風呂 易國間  
 田名部より 西沿海道 田名部 大湊 城澤 川内 檜川 村 宿野 部 村 蛸 野 村  
 小澤村 脇野 沢 九艘 泊 瀧 牛 瀧 福 浦 長 後 佐 井  
 松前路 青森 油川 蓮田 蟹田 野田 平館 今別 三廐 渡島 福山  
 秋田路 破関通 青森 新城 浪岡 弘前 赤石 破関 羽後 白沢  
 同大間越通 弘前 高根 十腰内 浮田 鯨沢 赤石 関土 金井 沢 風合 瀬  
 夏木 追良 瀬 戸 深浦 岩崎 松神 黒崎 大間越 羽後 岩館



石狩十勝の両高嶺全國の中央は時ち  
 山脈四布し諸大川大率源を此に發し  
 衆水の分派する者西は石狩川西北は  
 天塩川や常呂川等南は大津川と成る  
 土人は漁獵を営み耕稼の業を知らず  
 石狩十勝の其原野曠漠として其土壤  
 肥沃と雖も産業は未だ開起に至らず  
 風俗鄙朴としてまた言語衣服も異なり  
 王政維新後札幌廳を置き松前を  
 福山と改稱し全國を北海道と唱へ而して  
 十一州を區域なす即ち 渡島 後志  
 膽振 石狩 天塩 日高 十勝 釧路  
 根室 北見 千島 等なり



北海道之部  
 全國東は千島に至り得撫島を對したり  
 北は北見州宗谷の海峡を隔て樺太と  
 對岸し南は渡島州津軽海峡を相隔て  
 東山道陸奥と對す東西凡百六十六里  
 南北凡百二十里其地勢渡島南方は  
 陸奥の北郡に向ひ其状ちは頸を伸て  
 頤を張るもの如し宛折して東北に趨き  
 膽振及び後志と成り石狩廣脊の要に直り  
 天塩北見日高十勝南北に排し其左右  
 翼の如く釧路州は其脊と成り根室の地  
 岬角左右相望んで是が膝股と成たり  
 千島其背後又曳て其状ち虎尾の如し



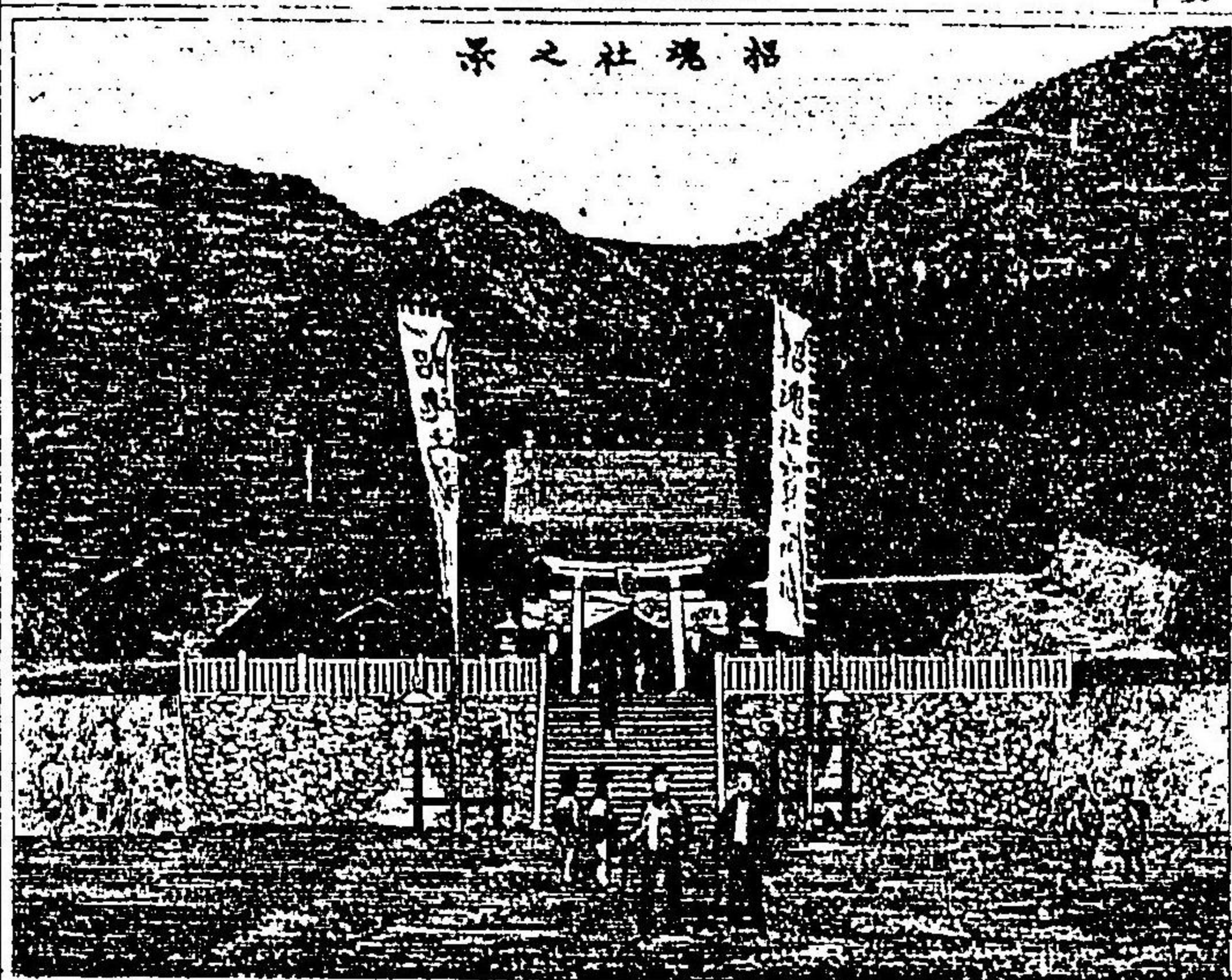
近衛公園地之景

市街麓棟栘比して商賈各盛隆盛又内地の産物輻輳し人口殆ど四万あり仙臺以北の其繁花青森を距る五十九里横濱を距る五百世里汽船渡航の定期あり群蝶照綴有無間起倚航樓共解頰一帶峰岫供指顧分明認得卧牛山 岡千仞

招魂社は市街の西戊辰忠死の靈を祭る蓬萊町の遊廓は函館市の東隅にて大橋を武藏野と呼び料亭を中島樓と云五陵郭は函館の北旧幕府鎮臺の趾戊辰の乱れ賊軍が此を據集し負しが官軍攻て此を降たり茲又碧血碑を建つ

入札を以て林野の邊境を定むる嶺三

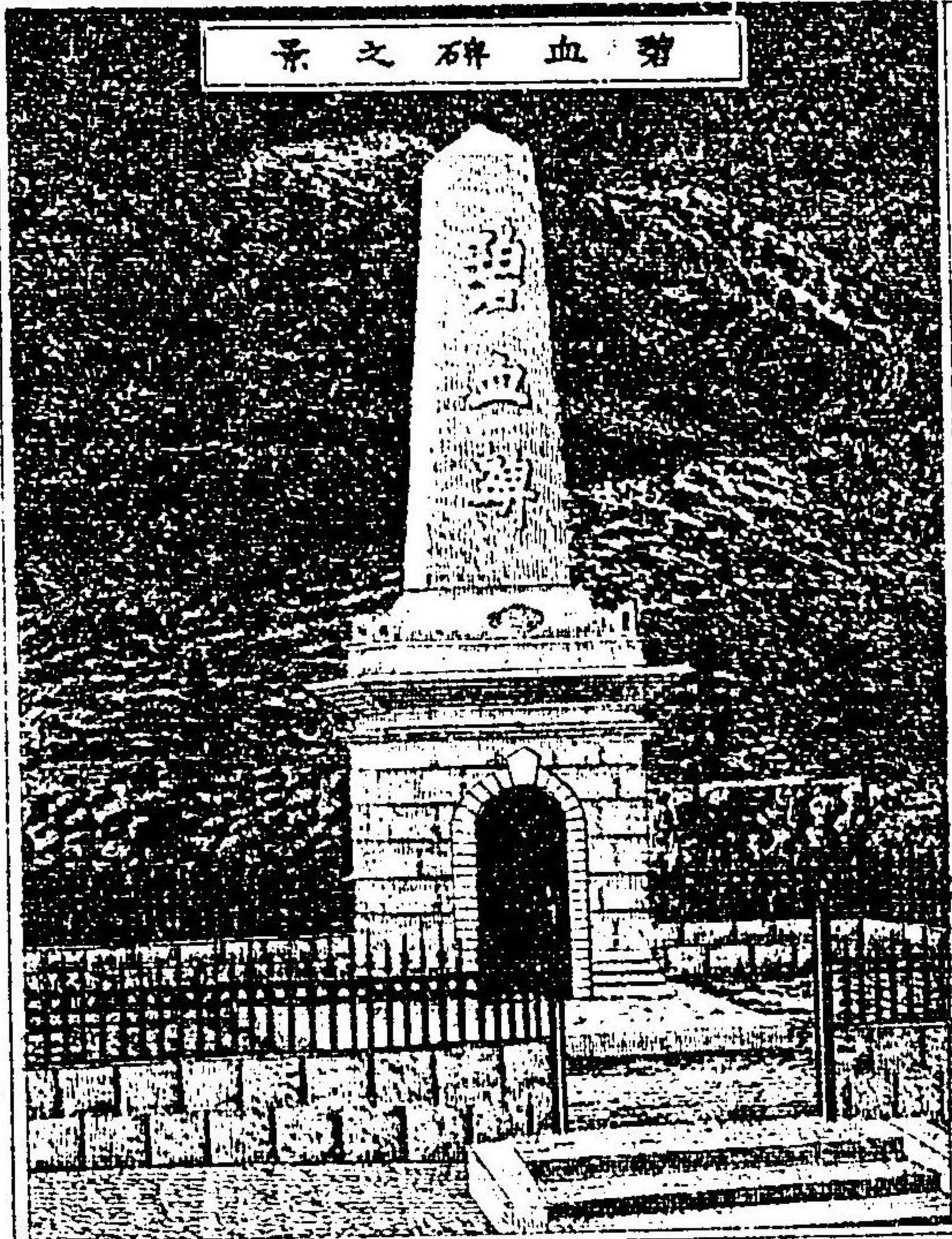
招魂社之景



渡島國之部

此國南は海を隔て陸奥の青森と對し北は後志膽振と接し東西共海と瀕して東西凡そ二十一里南北三十三里にして州内七郡又大野茅部龜田上磯福島津輕檜山爾志人口十万余函館灣は五港の一地利東西と速り出で卧牛山其前又嶺灣内水深く浪穏又四季風濤の患なく船舶投楫の良港なり故又帆檣常々林立し夜は数百の舷燈が閃々螢火群飛の如く赫々たる燈臺の光数百の帆檣を照し山下市街の軒窓は燈花雲涯と接したり

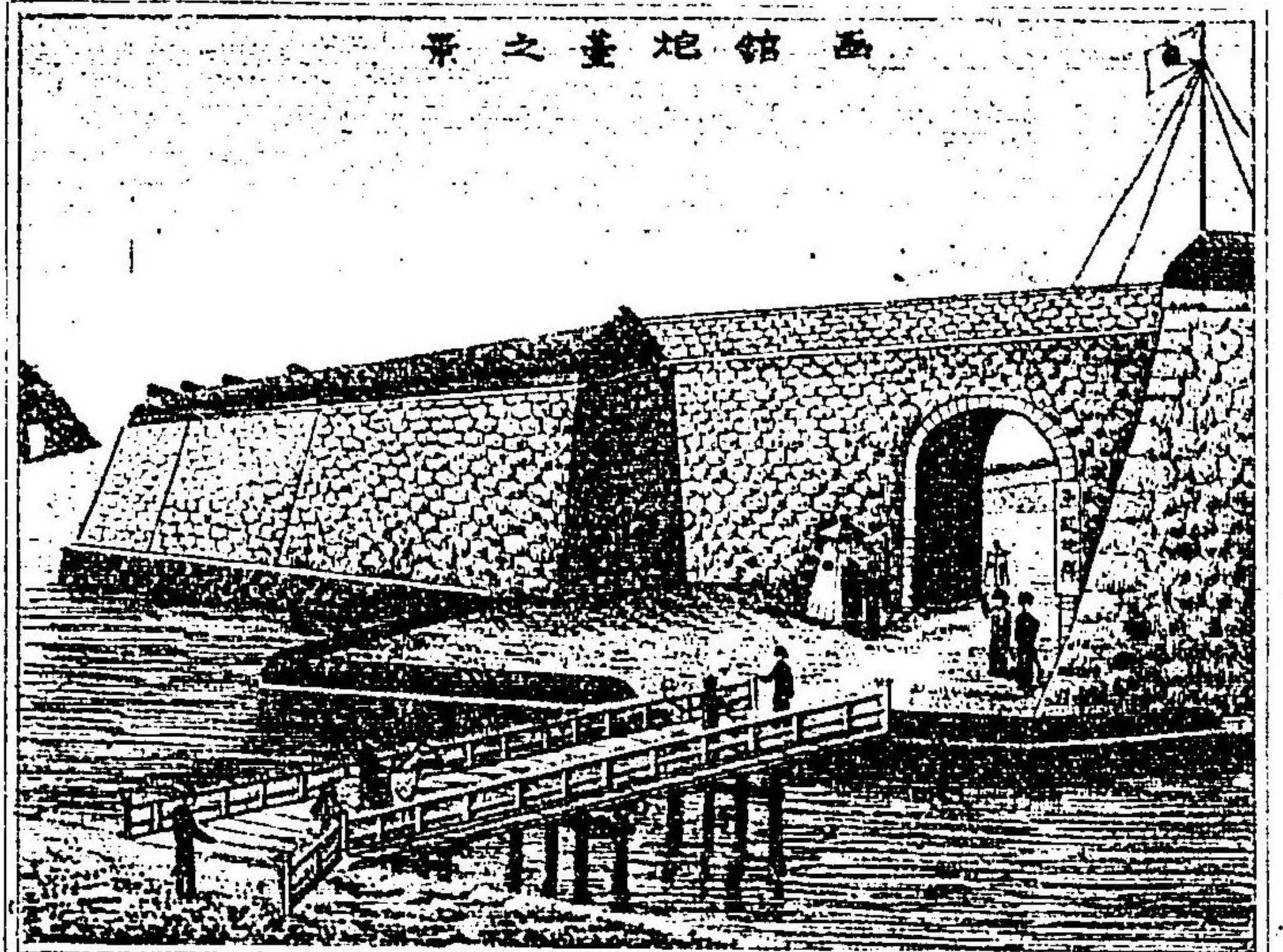
景之碑血碧



道程四里七飯に至る此又龜田郡役所あり牧馬場や農学場何れも官立のもの  
 二里計り進は峠下村是より路は登り坂頂上又イみ眺れば前又佐原岳を視る  
 函館はさながら海東島山看る如くなり此より下る阪途又駒嶽登へ麓をこれば

二沼湖双びたり大沼を近く  
 眺め下る一里計り左小沼あり  
 此を葦菜湖と云ふ沼は瀕する  
 慶屋は葦水館薫風亭と云  
 西洋室や日本風の敷間を隔る  
 障子障業孰れも美を極め  
 紳商の避暑進歩場又充て  
 四季山水の幽雅あり  
 此より山中又進めば虹の尋き  
 恐るべし是より森港に至る

景之臺炮館函



近世此濠水を湛へ精良凍氷を断採し  
 遠く諸方又密たり北郊又散步する又  
 谷内頭てふ處あり朝清樓や五山亭の  
 客室麗美の割烹は山間なれど平野開け  
 梅桃櫻樹一時又発き風色麗艶眺め好く  
 温泉場の設けあり  
 福山舊と松前と云函館港の西岸又して  
 往昔渡航の要地又て人口殆ど一万余餘  
 足利時代若狭の人武田信廣渡航して  
 此城市を開きける此地より海岸又沿ひ  
 北又進めは江差又至夏秋の際商船多く  
 港頭頗る繁昌なり  
 函館市街を発足し枯梗村を過ぎ行は

景之湖茶尊



内上福島 重福山 重江良町 重石岸 重上國  
 重江刺 重柳岸 重音部 重突府 重蚊柱 重泊  
 川 重熊石 重後志 重久遠 西館より森村に至る  
馬車道を通したり  
 膽振路 箱館 重峠下 重森村 重膽振室蘭  
 同治海道 森村 重鷺木 重落部 重山越内  
 膽振國之部

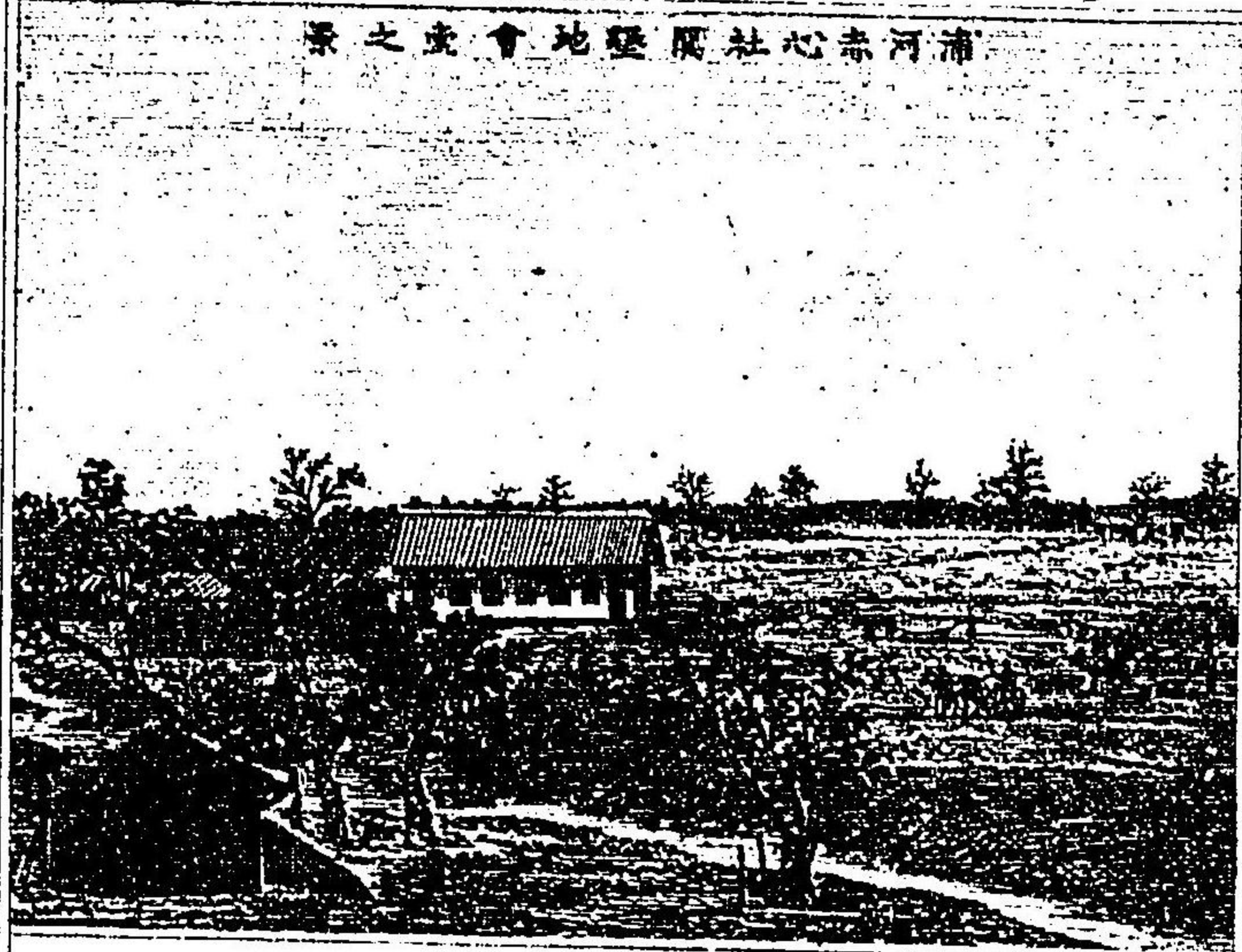
木州東は日高又隣り西は後志又連絡し  
 南は渡島海又面し北は後志石狩又交る  
 東西凡そ四十四里南北凡そ十四里余  
 州内八郡又區域す山越内 虹田 有珠  
 室蘭 幌別 白老 勇拂 千歳 等なり  
 野田追より長萬部迄陸行せんと遊樂部を  
 船渡りして沙路を進み三里餘黒岩に至り

景之切氷部改五

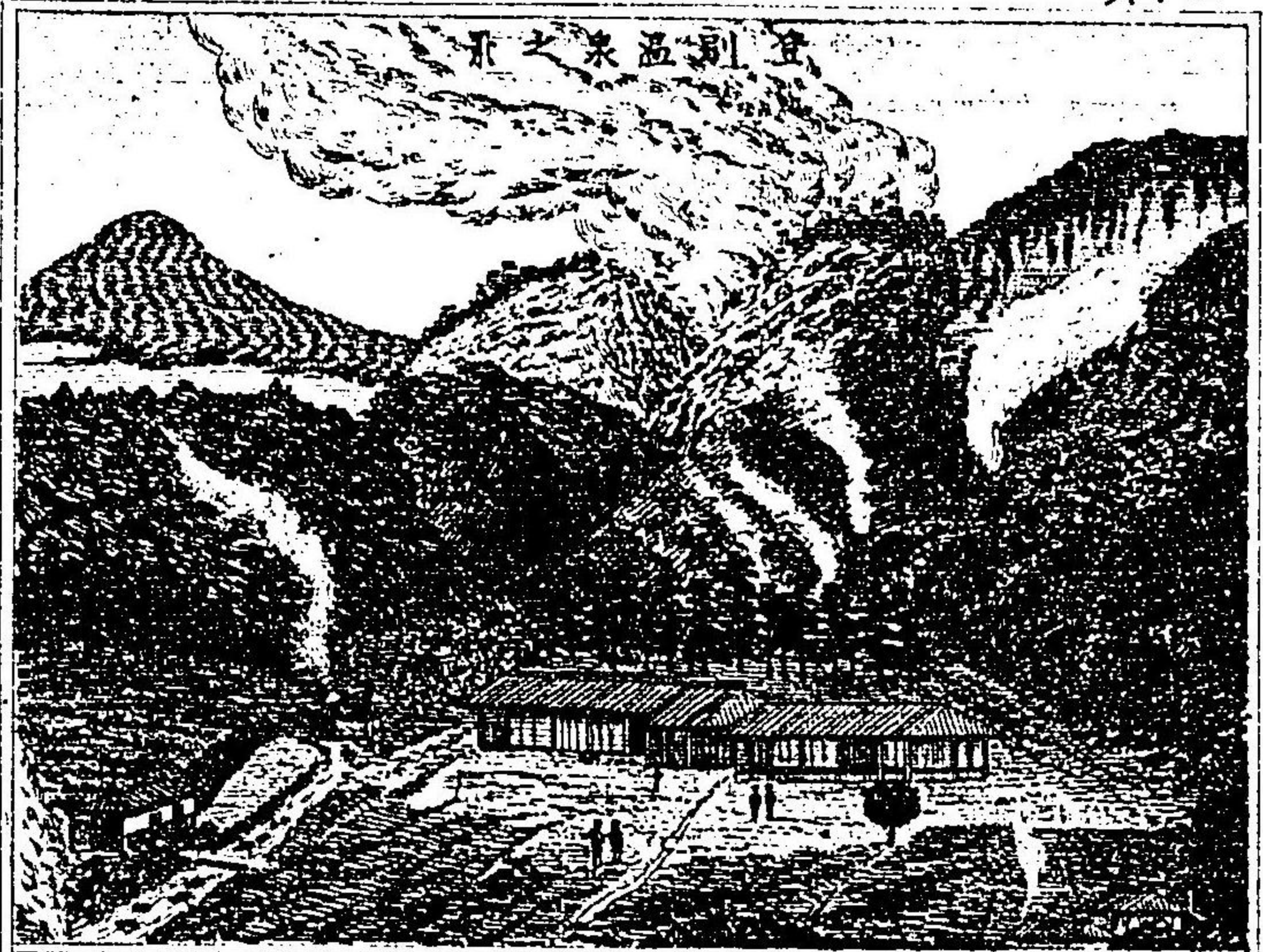


森村は南岸繁花の地旅舎貸座敷敷多し  
 此地は駒嶽の西麓山脈長く海に出て  
 東北は新室蘭港の繪鞆岬と相對して  
 其海路は十二里余西の大灣を内浦と云  
 東南を外浦と呼なり  
 陸路は山越内通り新室蘭に至る廿五里  
 且つ路途險阻然とも風波悪きは陸行し  
 鷺木石倉落部等の諸駅を経て膽振國  
 山越内迄至る此間落部川を打渡り  
 沙地を行く人家なく磯打浪と鷗の聲  
 一入物凄く覺たり  
 渡島國驛路  
 後志路 箱館 重有川 重當別 重木古内 重知





今や六月の始と雖も荒磯浪の打寄する  
 冬時の海を視る如く盛夏の候と雖ども  
 夜間軍衣は堪難し、幌別の敷生川を越へ  
 白老に至る六里世町、  
 登別温泉は幌別を相隔つ一里十八町  
 東敷九ノ平一所泉噴鉄の氣を含み、蘇摩金創中風等  
 入浴するは奇功あり、此辺は雄兵甚敷故、土結て黄色頭せり  
 白老は近き原野は一向の萩原にして  
 濱内府の榜示あり、是より白老に至り四里  
 此地平坦水路よく麻麦を蒔て住なるべし  
 また濱崖は横倒する古樹又鷲の巢を視  
 此間遠しと雖ども鷲の大さ積の如く  
 其色灰色黒斑あり、  
 一里計り往は敷生村住民は蝦夷人種なり



國後を経て長萬部此地村落を相隔て  
 土人の家は沙上を在茲は小樽の追分あり  
 路をたれ折れ後志の黒松内より小樽に至る  
 直行すれば權文華有珠長浦寺を経て  
 室蘭地方に達すべし、  
 船路は森村を解纜し沖中又東を眺れば  
 佐原の高嶺聳立し西は遠く後志の諸山  
 波濤の如く霧々々々水光物色幽雅なり  
 松脚衝波跳玉龍滿帆快受正南風回看駒岳  
 雙尖耳已入煙雲香蕩中 岡十似  
 室蘭港は札幌往後渡航の要衝たり  
 幌別は舊と仙臺藩片倉小十郎の從臣  
 木沢直養が開墾し今の衆落を作りたり

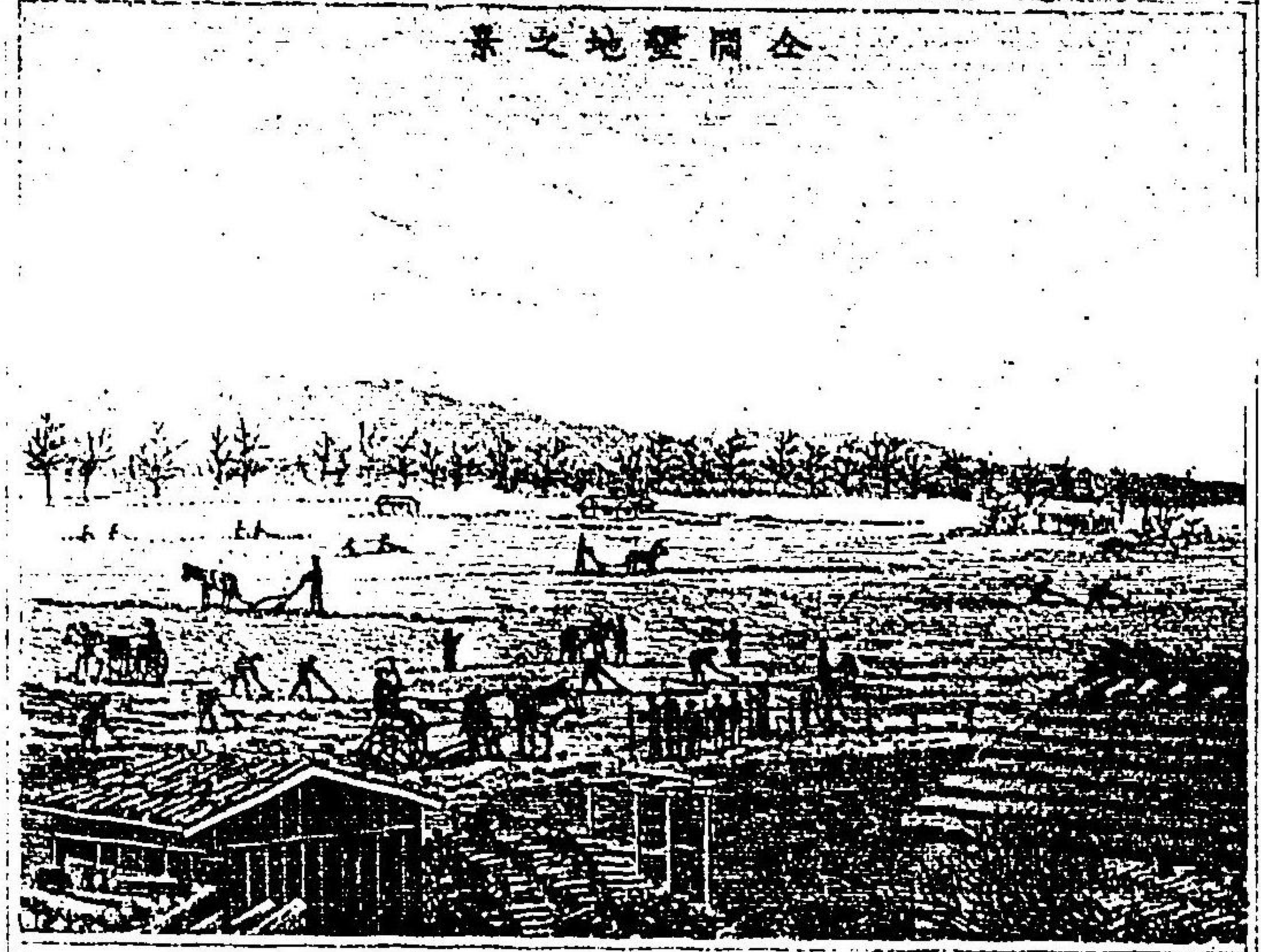


苦小牧より彼方は、水平面の廣原にして眺望遠きと述べて、地味も漸次宜し然ども五月頃の旅行寒冷肌膚を徹して手足微冷を覺たり、

苦小牧村は勇沸及び札幌の新道連分あり是より勇沸へ三里千歳地方へ七里計り札幌は新路に向ひ、三里宇津内に至る效又周回二里の沼あり、三里進は植苗の地山路總て沙地なれば、農耕適宜の地なれど未だ開拓に従事せず千歳や島松を経て石狩札幌又達す十二里、

勇沸は鞍を工作し、榆皮を以て繩を編ひ或は小船を製作す又鮭を漁業するあり

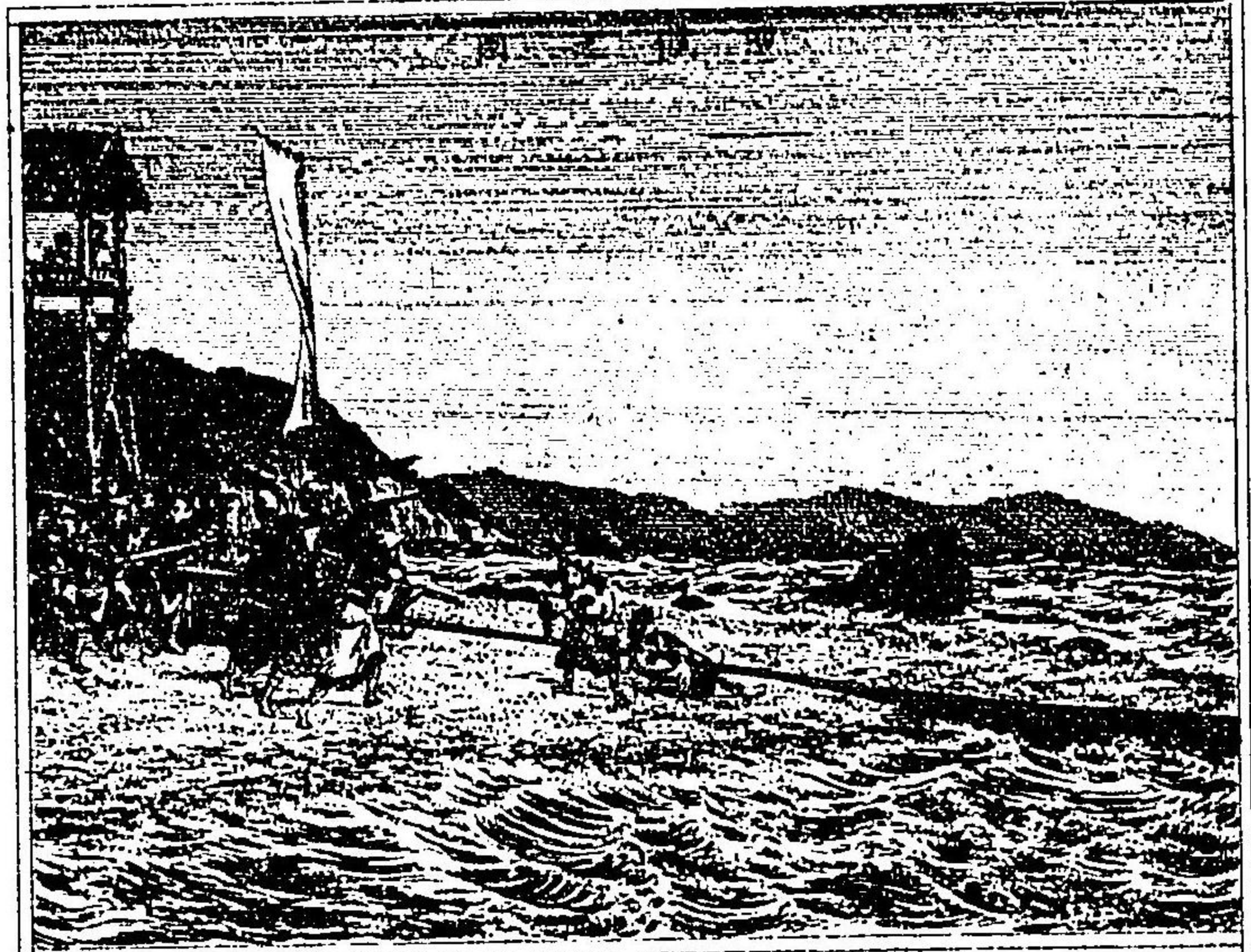
景之地望開全



新室蘭又馬を雇ひ土人の先驅異状なりヒマ空原驅馬馳叫鬚被面髪垂々鞍頭無數好山水指問他名渾不知 岡千仞

白老は郡の一部巨魁難棘の産物多し都て此辺の土人は、淳朴古風を存じ他郷の人と少異あり、煮食をなさずして魚獸生肉を喰なり、

白老より二里計り社臺てふ村落あり樽前を距る二里余此邊一里餘の地は草茫々たる廣野然ども地下七八寸焼土又て耕作不堪す、尺位又樽前山をみる往昔の噴火山なり、此地より勇沸又旦り大抵焼土の地多し、



厚直や鶴川を経て、日高國又入るべし  
膽振國水路

渡島沿海道 室蘭有珠等禮文華長満

部 黒岩山越内渡島落部

日高路 苫小牧勇沸日高沙流

札幌路 室蘭幌別白老苫小牧

千歳島松石狩札幌

日高國之部

本州東北は十勝國、西は膽振南は海面

東西凡そ二十九里南北凡そ二十一里

州内七郡又區域す沙流 新冠 静内

三石 浦河 様似 幌泉 等なり

平賀又歩をはじめ、佐瑠太 賀張を過ぎ

厚別川を越へ行は、高江又新冠川あり、海退川や下々方村、幌布を経て、鬼舞川  
元浦川を打渡住は、浦河地方又着すべし、浴海の地は總て漁場、麩甚だ盛なり  
此地山邊振樹多、松、杉等は絶て見ず、故又内地と異なり、沙流越の嶮阻なる  
嶺を越へ十勝又至る、十二月より四月迄、積雪の爲、道塞き、馬蹄も立兼ね、また  
羆、熊や狼の足跡が、雪中に印し、凍きなり、向來山人の詩賦も、

北山老羆猛於虎、白日横行太跋扈、山下小径行人絶、山隈人家盡閉戸  
様似や、笛舞を経て、幌泉はウズツ川に枕、高船碇泊の一場たり、接苗越の嶮を越へ  
沙流の東、又紋別川源義経の城址あり、方今一祠を存して、義経明神と称たり  
八郎軍身取琉球、九郎多士况善謀、蝦夷若用西征力、北斗以南皆我州、枕山  
日高國水路

十勝路 沙流、新冠、静内、三石、浦河、様似、幌泉、接留、十勝當縁  
十勝國之部

本州東は釧路又隣り、北は石狩西は日高、南は太平洋又面し、東西三十里廿一町

南北長く四十七里、州内七郡又區域す廣尾、當縁、十勝、中川、河曲、河東、上川、等名邑なし、然ども十勝川の辺は人家多し、其秋の際魚鮮大に至るあり、土人競て此を漁す、頗る壯觀の物なり、廣尾、屋舟を過ぎて、大津、十勝、や紋別川、是を越れば、釧路國釧路道、當縁、十勝、釧路尺別、

釧路國之部

本州東は根室又接し、北は北見州又連絡し、西は十勝及び石狩、南は洋海又瀕したり、州内七郡又分配す白糖、厚岸、阿寒、上川、網尾、足寄、等を稱したり、尺別海岸は小石多し、恰も赤豆を散ずる如、厚岸地方又巨れり、故又朱化石と名く、仙鳳路より厚岸迄道程四里、厚岸灣又二個の大黒島有て、風濤を防遏した、港内又五個の小島あり、牡蛎之又多し、附き土人此を穿ち採り、常又食料又供せり、厚岸は函館を距る陸路百六十七里なり、船舶碇泊の利便は、贈振の室蘭又次ぐ、

釧路國駅路

根室路、尺別、白糖、釧路、昆布森、仙鳳路、厚岸、根室野古邊



此人種は往昔奥羽越後の地方を占領し、常陸兩毛の境なる山脈又蔓延せしが、日本武尊東征以來連山の外又逐しならむ、應神天皇の御代より、舒明天皇の頃までは、朝廷三韓又事ありて、東夷征伐も、昔閑、齊明天皇の時より、蝦夷を征伐し、玉ひ、其諸將の著名なるは、阿部比羅夫、大野東人、阪上田村磨等なり、

蝦夷人は其犬高く、肩廣く、筋骨逞して、全身又毛髮最と多、顔丸くして、鬚長し、此を埃乃と名附たり、言語風俗共、我が内地と甚だ異なりて、殊又女子は唇手又入墨するの風習あり、甚だ不開化の人民



然ども貴人又逢時は草履を脱ぎ跣足し直に地上に安坐して、両手を合せ能探み重ね戴くこと西三度是を土地の儀式とす海濱又住者少して山間を号く住居す此を山埃乃と呼ぶ漁業の期又至れば皆な漁場を集来て、五月頃より鮭を捕るこれを夏漁と唱へ、此時昆布も萌るなり八九月は鮭を捕る是を秋漁と謂なり家は草屋にして内容は樺或椴皮を満面又張り遠して窓一個を穿てども日光を照入するなく棟梁の烟窓よりして少し明を容るのみ、中央又爐を構へ爐遣は土間にして、庭を二重計り敷き

昼夜薪を折焼て爐辺に各圍居して男女主客の坐を正す、窓外四五歩相隔て「イナ」を立列ねたる櫛を結たる如して其犬頭は鹿頭を置各戸の標示としてカム斗カムトを祭るなり、

短衣窄袖飲寒風 凍指一呵杆硬弓  
 怖獸無色鼠陰聲 滿天飛雪盡深々  
 國寮炙肉坐沙場 碧眼黃髮傾酪醬  
 鼓腹鳴々歌未罷 九郎山下月如霜

嶺田楓江

勢かぐと見えその女子の心ば

あつちの布衣あつちのあつちを

讀人志

根室國之部

水州西及び南は釧路西北は北見に接して東は洋海又瀕面し、南北の兩角斗出して千島諸島又對したり、東西凡そ十九里余南北凡そ二十九里、州内五郡又區域す花咲 根室 野付 標津 目梨 等なり根室灣は北に向ひ、港頭又辨天島峙ち此地百年以前又は彼の漁場とても無く其後ち一場を開き、儘又運上屋を建て鮭鮭鮭鮭を産する漁村成るが王政維新開拓使支廳を置き、人家月々又倍增し海岸より岡上は亘り、市街の條理を制し方今繁昌小樽又並ん

琴平山は港東に在り、境地眺望頗る宜し、北海上は瞰る連山は國後島の西山にして東を羅旧山といひ、西を爺嶽と謂ふ、羅旧の東は目梨山、其背は北見の斜里山、釧路の雄阿寒嶽や西別岳を遙望として山海風光奇絶なり、

此港は碇泊危険あり、漁獲は火を絶さず一月頃より百日計り、湾内は氷海と成る然ども西別川の鮭は産物の第一等また、海藻の類を合して、毎歳三四十萬円を得、

東向は藤野(又十)柳田(九本)の両家は鱈三万、鮭十二万、灌製し外國に輸出す、夏秋の繁花推て、遊廓は滿生町の上、又角夕樓を第一として、十二軒も有るべし、

花咲は根室に對し、海岸は緩島二個あり、西別川は根室の西北、楓連沼は周回十四里、根室の大湾は、西に出で三里の間、隔上參差の途にして、茲は釧路の阿寒あり、

雄寒岳は富士の如く、雄寒岳は筑波山の山姿に彷彿たり、音根洞は渡口あり、捕頭の如き石堤あり、中間六七十間の處、太き綱を兩岸に張り、是を手操の渡と云、

根室國驛路

北見路 根室 十 厚別 十 別海 十 野付 七 里 標津 十 中割 十 北見 湧生

十島國之部

十島は根室の東北、群島を凡て合稱す、幅員五百七十二方里、就中大者二島あり、西なる者國後といひ、東なる者擇捉と云、群島は連り、魯西亜の堪察加に對したり、群島總て五郡と爲す、國後 擇捉 振別 紗那 英取 等なり、

根室の野付港より、十島に渡る海路は、東北に向ふ、五里余、國後島に至るべし、此諸島は地味瘠て、氣候寒く、波濤荒し、舟行便ならず、殊に冬時は海水を結び、

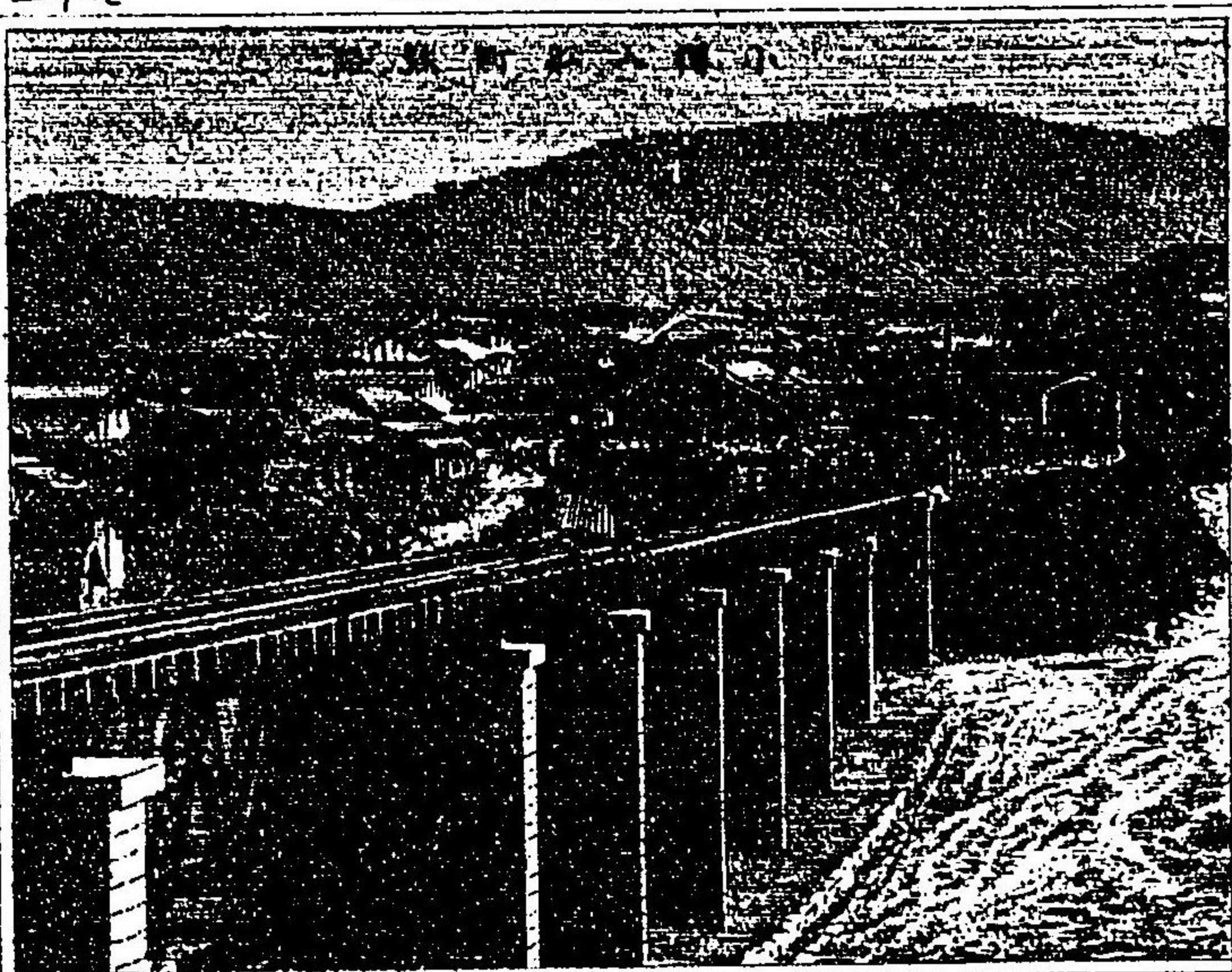
数月の間は、帆船の往復も絶るが故に、土地開けず、人少し、沿岸の土人は、唯だ漁獵を主とするのみ、群島又は主として、海獺、熊、鹿、黒狐、鰻、鮎、一名海狗、

蠟虎、一名海狸の類、また昆布、海藻の産最も多き土地なり、 熊、熊、採、陰、山、雪、 鰻、鮎、鮎、千、島、晴、 今日、獸、担、裝、載、去、 滿、帆、春、色、向、松、城、 嶺、田、楓、江、

北見國之部

本州西は天塩に隣り、南は釧路に聯絡し、東は根室に國境し、西及北は海に面し、





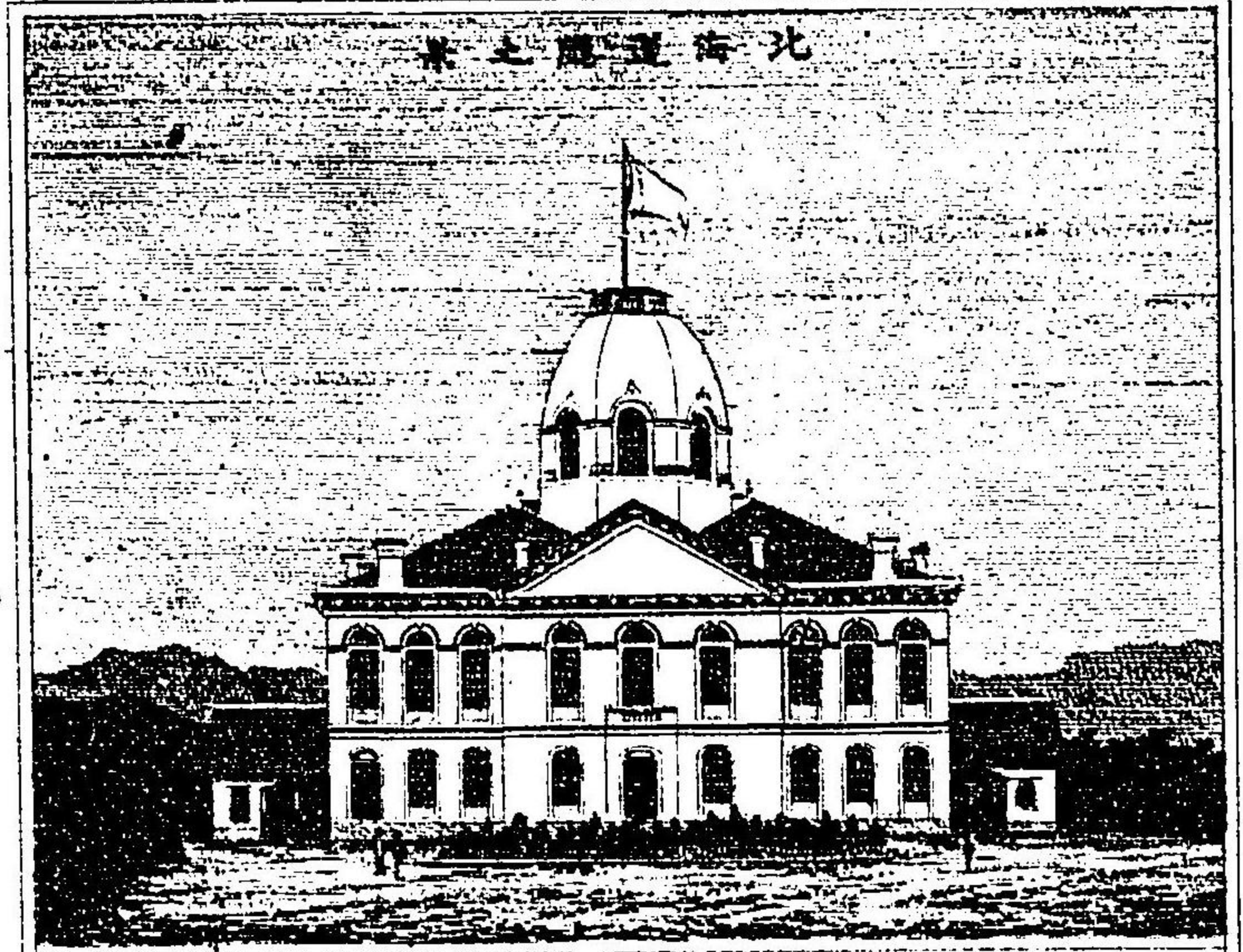
晴日は衆鳥啼りて奇草薫風花實の美  
 山径七里も幽雅又蟲猿の聲を散ずし  
 濱益は人民衆合の地漁業の好地なれども  
 通運不便の患あり又「フキヒ」嶺の嶮  
 風兩峯頭より吹風し雲雷路途又蔽ひ  
 旅行之が為困難なり、○石狩川 日本第一長流  
 石狩港は石狩川の海口より廿町上り在り  
 西岸に沿ひ三百戸市街家建等もよし  
 枝橋は辨天町として鮭鱒漁業の一場なり  
 幾道金龍不流風清水白月一樓の名何園石  
 狩江頭夕達此雲山萬里秋 大槻修二  
 とり波水にそひて春の歌の月も流る石狩の川 維曉



此邊砂地磊礫もなく、蔬菜耕種は過へども  
 移民住居最と少し開墾日浅く空地多し  
 天塩國 天塩國 天塩國  
 北見路 増毛 留萌 鬼鹿 苦前 風連  
 稚雅 笑 文 見 世 北 見 宗 谷  
 石狩國之部  
 此國東は釧路及北見南は膽振十勝と接し  
 西は後志海と瀕面し北は天塩と連絡す  
 東西凡そ四十三里南北二十五里世町  
 州内九郡又區域す、札幌 石狩 厚田  
 濱益 樺戸 夕張 空知 上川 兩龍  
 「フオキ」峠三里の路次荆棘道を遮りまた  
 味絲人面又蔽かり、雲霧前路矢ふと曇む



久遠 太櫓 瀬棚 島牧 歌棄 磯谷 岩内 古宇 積丹 美國 古平 余市  
 忍路 高島 小樽 奥尻 港湾は 壽都 船間村 古平 忍路 小樽 寺なり  
 小樽港は西岸中央函館と並ぐ一都會人口は三万又滿ち西は高崙東神古丹  
 左右相對し湾を成す然とも湾内狭くして西隅手宮の崖下又棧橋を架す其長  
 三百間深さ二十八尺巨船直又附着為す其岸上又鐵路を布き製鉄場や事務局は  
 一構内又在り色内町三井銀行や産物會社烹亭海岸又設たり  
 一望眼底眺十州 笑比人間万户候 銀海爛々浮月色 畫欄賞此桂花秋 岡千仞  
 さわやかさはいささかりに船の歌るとなき小樽みかどは秋の月夜 維曉  
 岩内駅は小樽と並ぐ西岸の都邑として三井産物會社及び郡役所や警署  
 電信局や貸座敷等商船常又碇泊する最も股販を極たり此東又硫黄を産す  
 雷電峠は磯谷岩内の二郡又跨る最高嶺麓又湯沢の温泉あり茲又至り回顧せば  
 敷島内を山下又視る是より長萬部を経て膽振の森又達へし  
 歌棄磯谷の両海岸は大概漁村連絡して十町計の餘地もなし荒磯づたひ岩石や



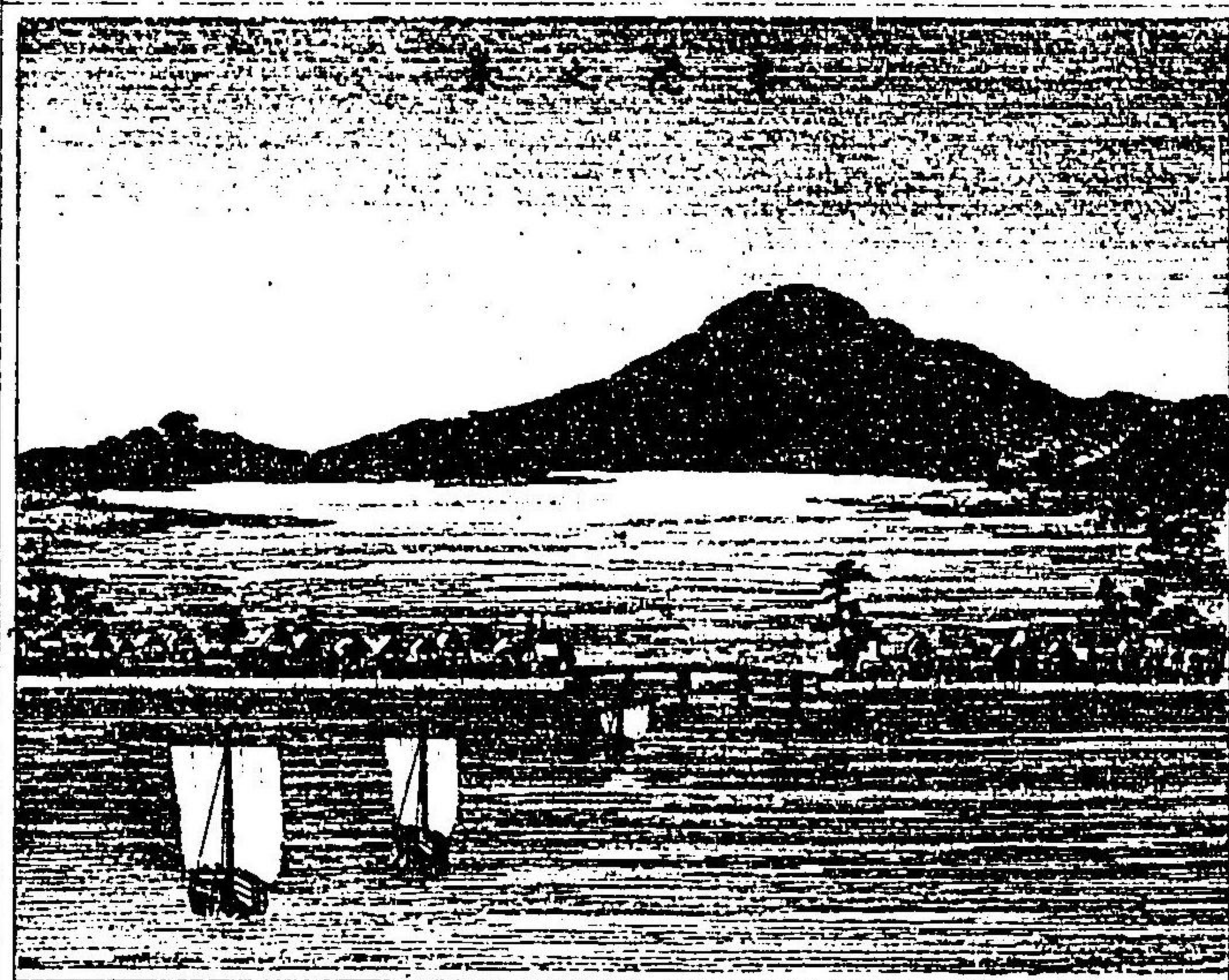
北海道廳は札幌市明治十五年開拓の  
 本廳を此又定たり街衢の制法方正又  
 東西中央を大通と云南北各七條を成し  
 南又公園及び遊郭其西又招魂社あり  
 師範學校や農學校麥酒會社や製絲場  
 汽車線路は小樽より此地を経て東又進み  
 幌内炭坑又達したり  
 石狩國鐵路  
 天塩路 札幌 篠路 石狩 古平 源益  
 後志國之部  
 本州東は膽振石狩南は渡島膽振又接し  
 西北は日本海又面す東西凡そ十六里余  
 南北凡そ三十三里州内十七郡又區域す



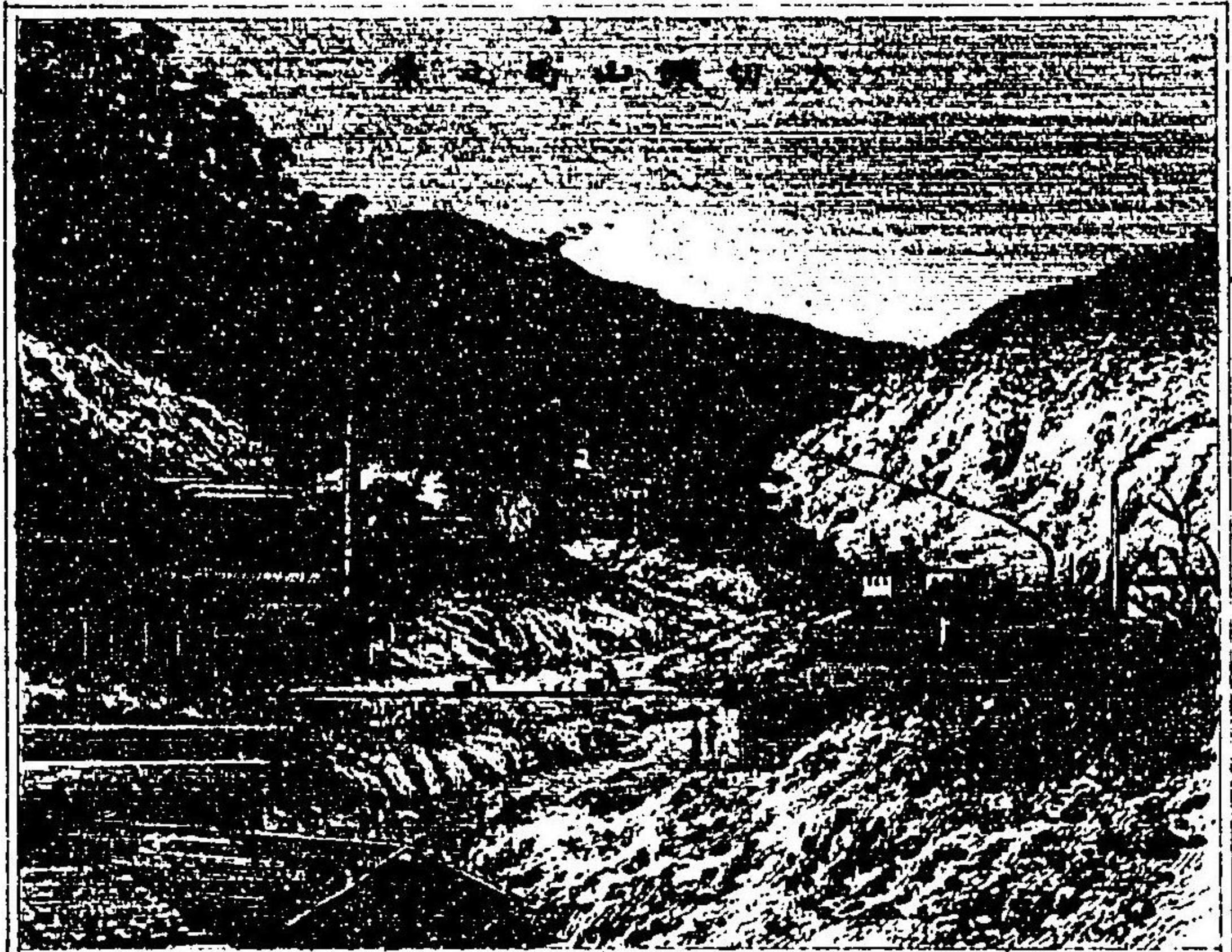


浦之濱

物部神社は縣社にして宇麻志麻遲命を祭る  
 長谷寺は巨利なり北願村と片邊村の間  
 是を外海府と謂ふ東又山を負ひ西は海  
 海上渺茫際限なし土人は牧牛捕魚及び  
 採藻を以て業と爲す  
 大幡神社は大倉村大幡主神を祭たり  
 羽田より鹿伏に至る此地を善知鳥郷と云  
 相川は本縣の支廳鏡山局の出張あり  
 市街は凡て七十二町商賈鱗次軒を並たり  
 大山祇神社は縣社大山祇神を祭祀す  
 茲又東照宮社あり風光宜を占得たり  
 夫より春日岬を巡り二見港は良瀬と云  
 沢根を過ぎ中興や河原田は郵便局あり

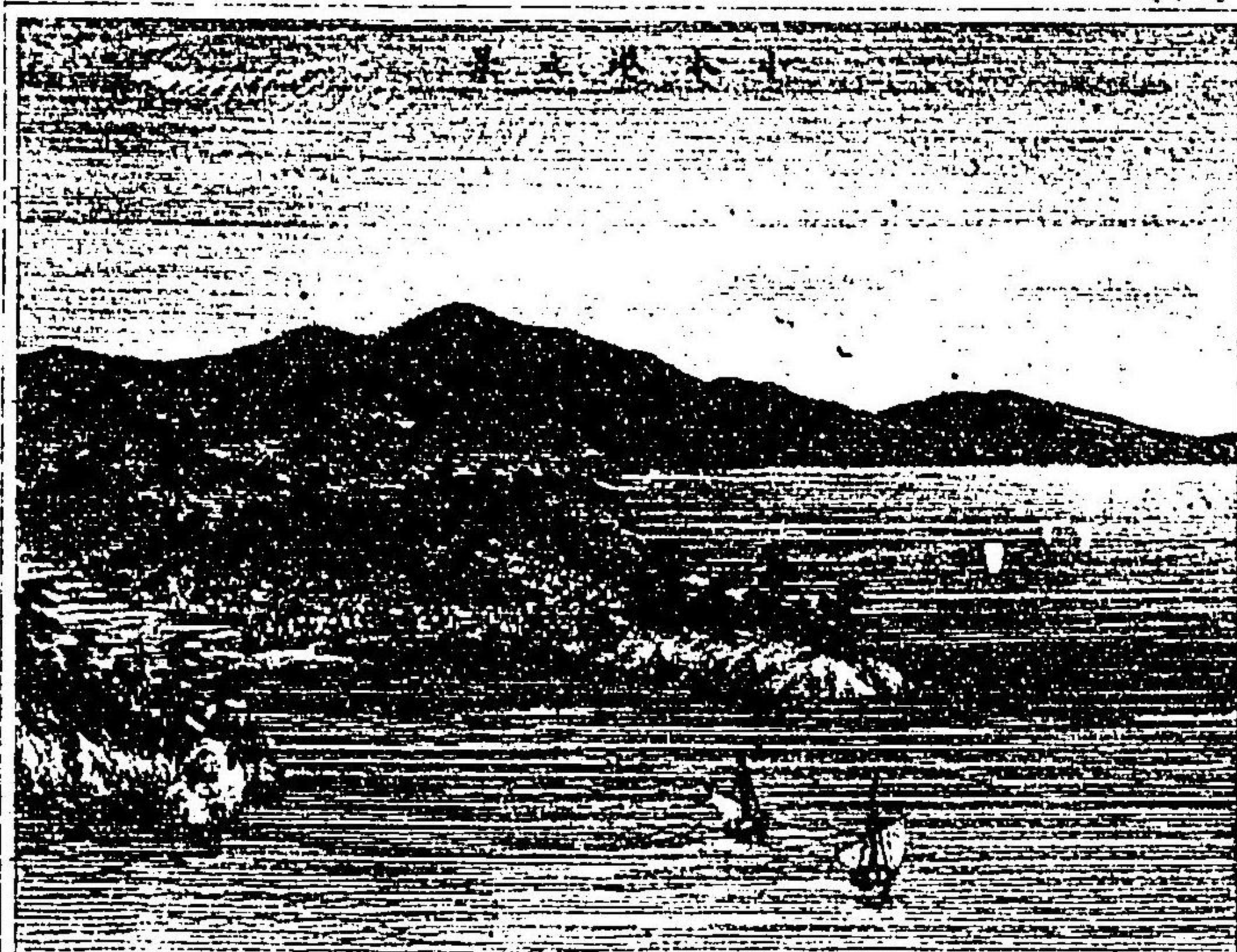


小樽港灣を解纜し海上針路を南走し  
 佐渡の地方を眺れば東又水津岬西方は  
 鷺崎の岬頭と相對し大灣を成す中央又  
 夷町の一港頭あり是を内海府と唱へ  
 羽黒神社は風致よし  
 夷町湊の兩港は海を扣へて湖又臨み  
 湖の周囲五里風景よし湖口は狭く海又通じ  
 茲又一橋を架設し橋畔左を夷町とし  
 右は湊町の繁花なり湊町より東又折れ  
 水津の岬辺を巡りて片野尾辨天島赤龜  
 風島の諸名勝なり風景絶佳の地夫より  
 蛇村に至る沿海は道程十八里余と云  
 何れ海岸眺望奇絶なり



明治七年春三月又天皇遷幸し玉ひて  
 攝州水無瀬神社へ合祀なり其御靈は  
 今の真野宮是なり、  
 小木は自然の良港風濤を避る當ては  
 航海船三百有餘の投揚する又適すべし  
 小比叡又巨利あり逆華峰寺と唱へたり  
 國分寺は是より東北往昔 聖武皇帝の  
 勅願所の古刹なり、  
 國幣小社度津神社五十猛神を祭祀し  
 古松老柏蒨蒨して風致自ら神古たり  
 大切山の製鐵場は大切山を距る十町許  
 麓に鐵道を布設して蒸汽器械を運轉し  
 其構造の宏壯なる實又人目を驚せり

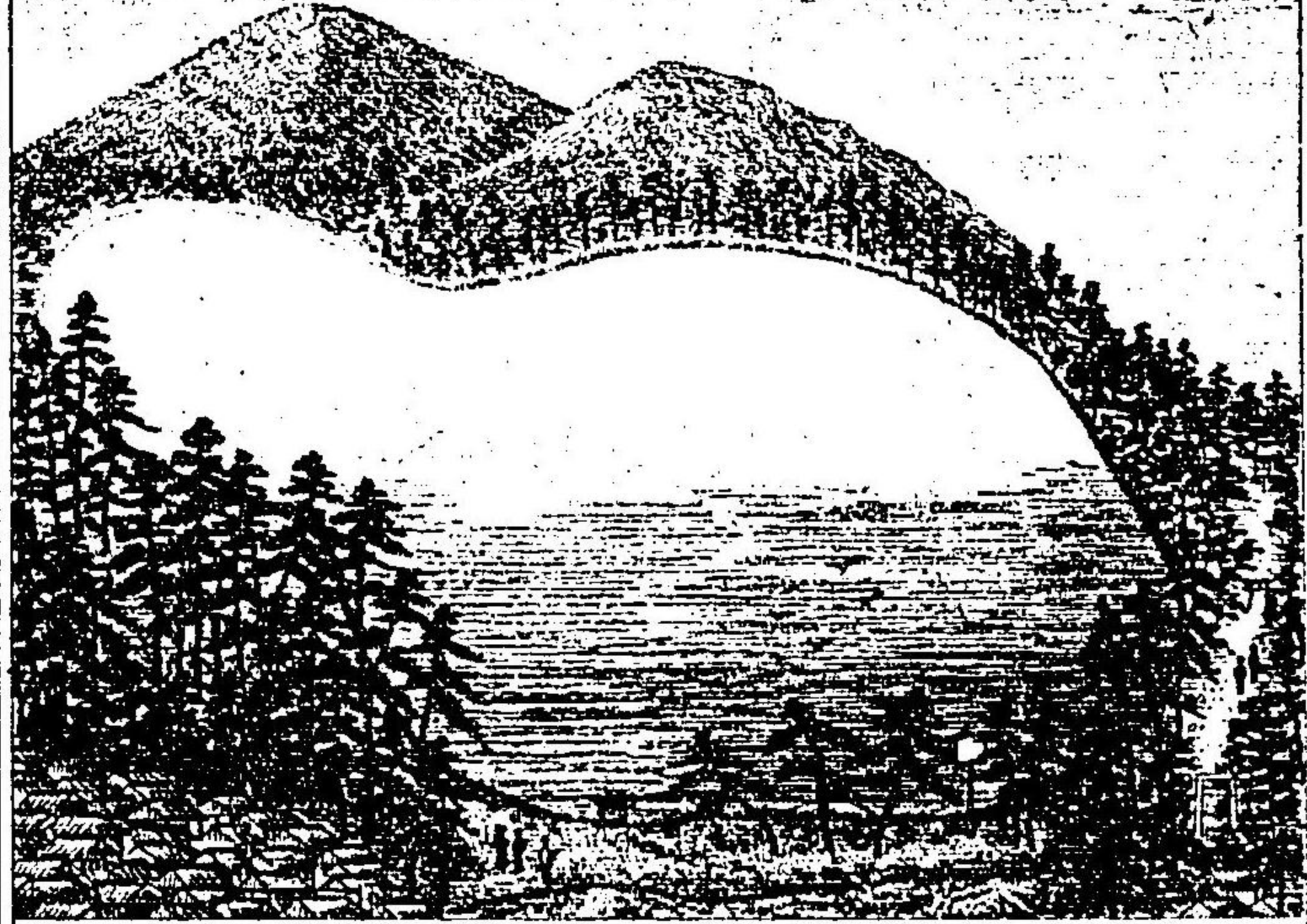
卷上二五



此地夷港往後之路平坦是を國仲と云  
 四日町又國府橋あり木州第一の大河なり  
 是より真野宮に至る、  
 真野宮は 順德天皇の遷幸し玉ひし御舊蹟  
 黒木御所と稱しつ、終に崩御の地と成る  
 御陵は丘岡又存在し麓の溪流又治ひて  
 十町許り進み登れば真野山の榜示あり  
 二町許り行は真野宮夫より五町御陵あり  
 四圍石を砌し中央の孤松の下に石燈を建つ  
 枕邊の御遺骸の骸をらふをて入於溪の手より登  
 里人にありむをて回をたれくをる松風殿史  
 一宮は島照姫 御名唐子 二宮は玉島姫 御名唐子  
 三宮は成島親王 御名唐子 是島降誕し玉ふとぞ



景之瀨田佐



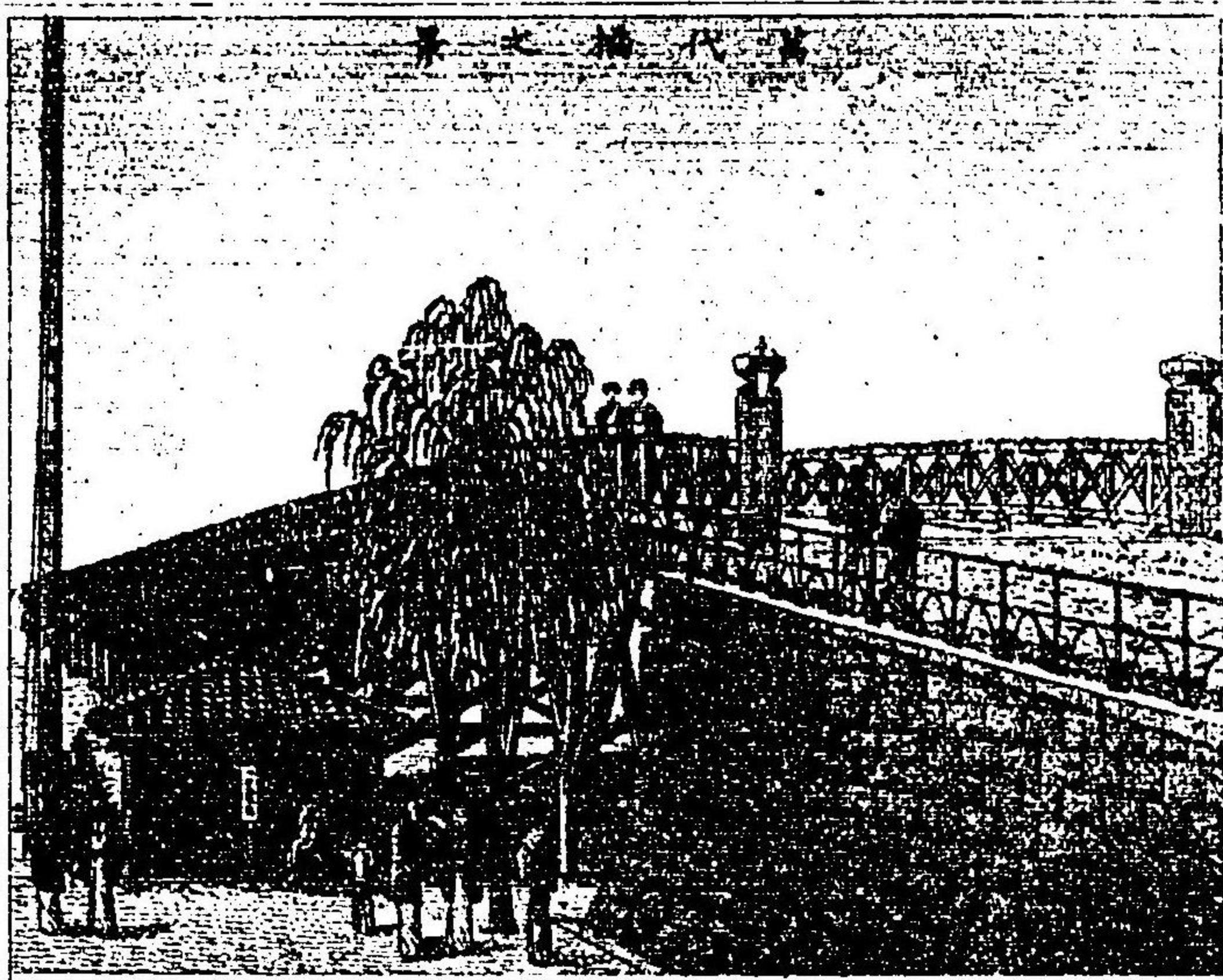
養虫火は燐火として、此邊細雨黃條の夜  
 行人雨を冒し往は忽然と養又螢光が  
 烟々粘着し是を拂は散漫し漸次又消滅す  
 往昔土人は驚たり、  
 逆竹は新瀨の東北上鳥屋村の傍に在り  
 僧親鸞の遺跡にて、今尚石竹篋幽遠たり  
 高社  
 福島瀨は越湖と云此湖及び左湖又は  
 蓮藕養實尊菜や鱒魚土鼈の産多  
 左瀨は白蓮瀨と云其池形瓢の如く其外  
 鳥屋瀨や鎌倉瀨何れも沼湖大にして  
 鴻雁鳧鴨常群り土人此を捕獲して  
 四方又鬻ぐ者多し、

卷之五

景之神山添

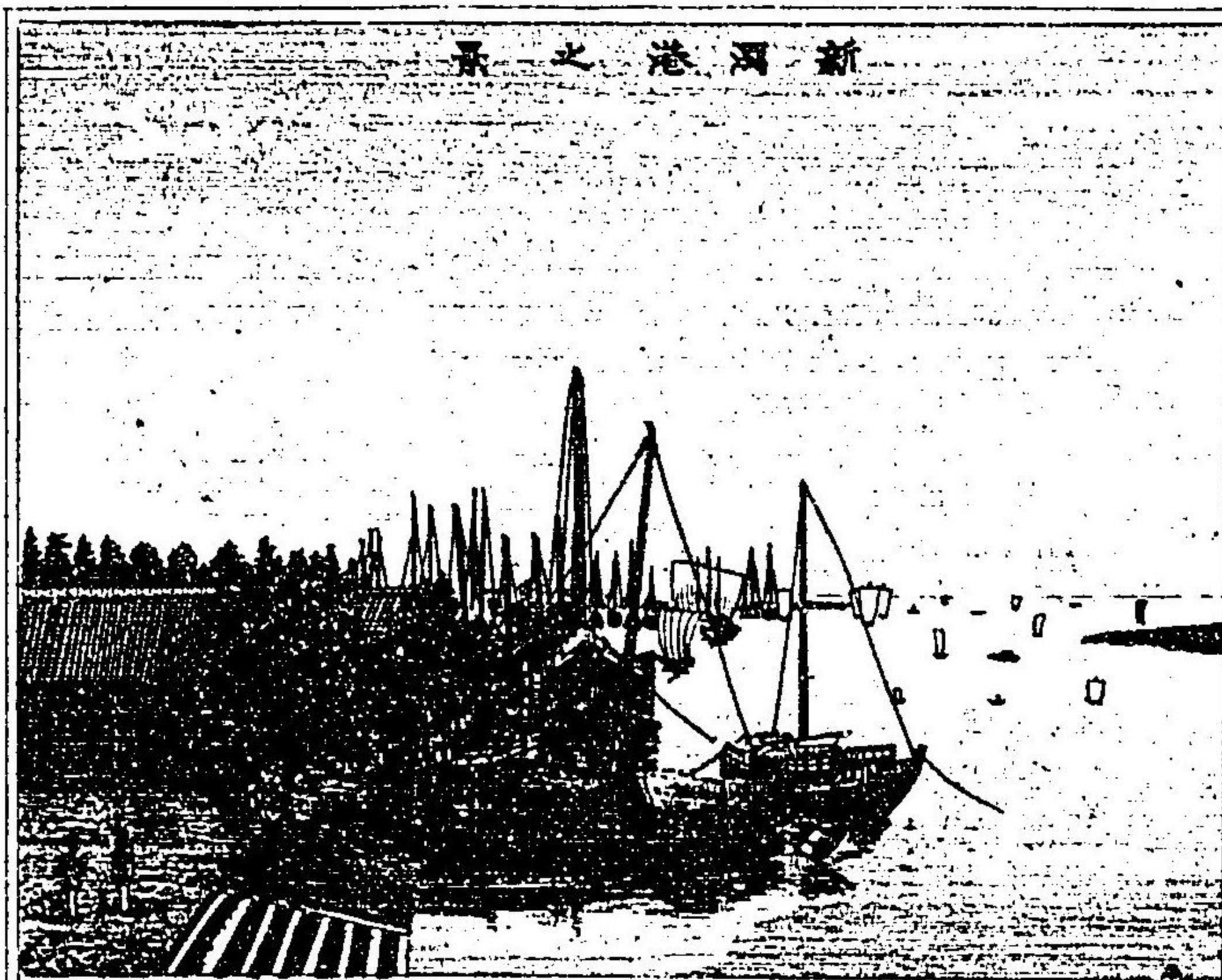


瀨田より瀨波は巨る海岸を海府浦と云  
 八幡山や鉾立岩は何れも海望好風景  
 北の海を隔る七里計一島あり粟島と云  
 此島の中央小柴山峭壁突兀聳立して  
 山脚全島又曼延し其餘根海又出沒し  
 東又添山神社あり俗又天葺神社と云  
 古樹森々神古なり、  
 村上は郡の一都會人口は一万三千余  
 裁判所や警察署銀行電信局を備へ  
 市街頗る繁花なり、  
 岩船町は村上の南縣社岩船神社あり  
 饒速日命を祭祀し新発田東方の地は  
 銀銅鑛處々在り、

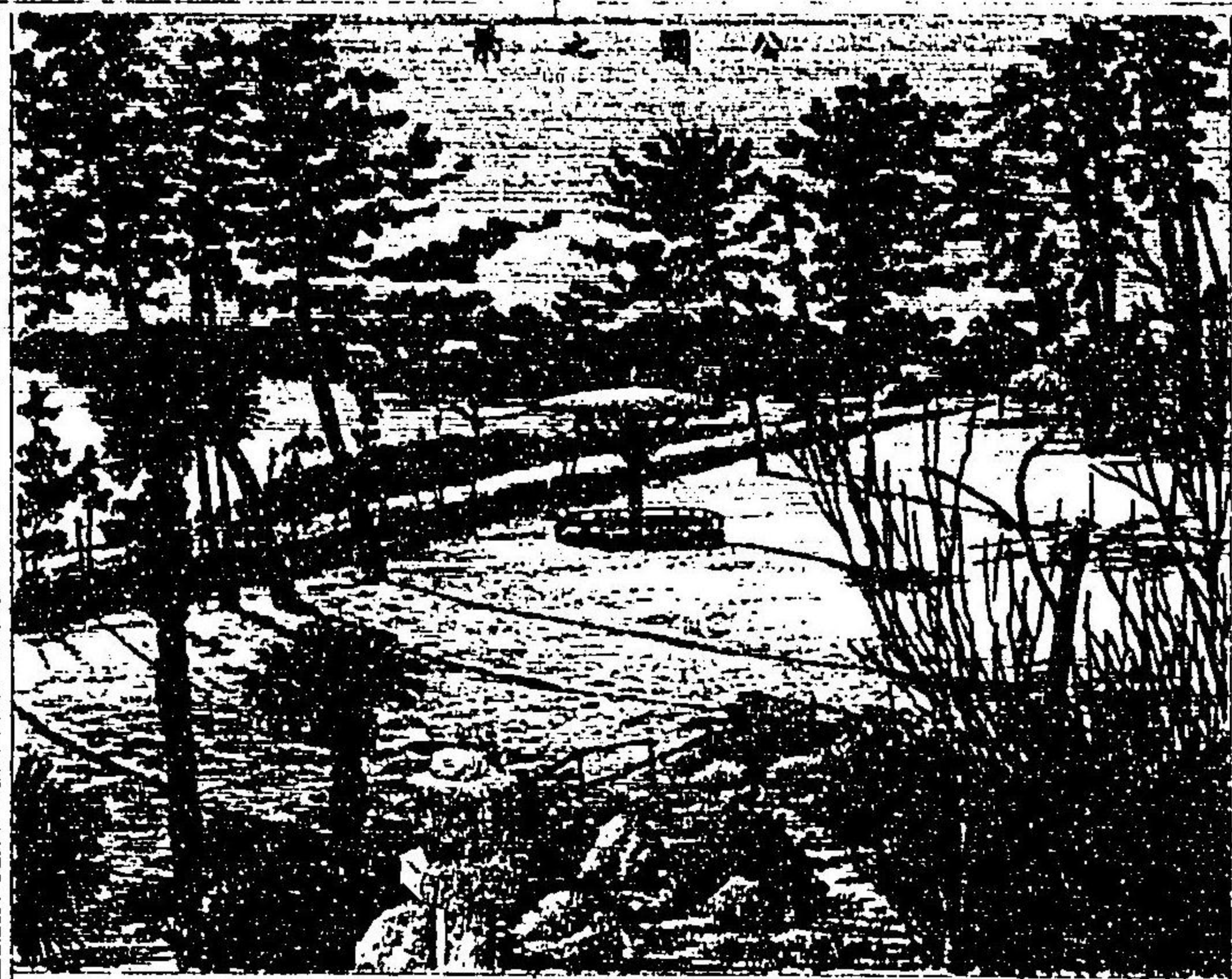


税関電信や郵便局国立銀行や新聞社  
 西岸丘上の燈臺は舟子針路を照たり  
 就中夏秋入松多く港内殊又繁昌なり  
 我遊正逢中元節滿街踏歌夜開熱燈火紅奪  
 明月光鼓響第聒未輟 小野湖山  
 海は降る雨や恋さう松才宿ませ奴  
 招魂社は市坊の西常盤岡又建築して  
 成辰の戦争官軍忠死せし人を祭る  
 白山公園は市坊南園裡又池塘を遠して  
 緑樹舟芳艷を競ひ燦爛の妍色日又映じ  
 前又信濃川を扣へ遠く彌彦山を視る  
 白山神社は路通じ老松参差社を環り  
 四時風光の勝地なり

巻之五

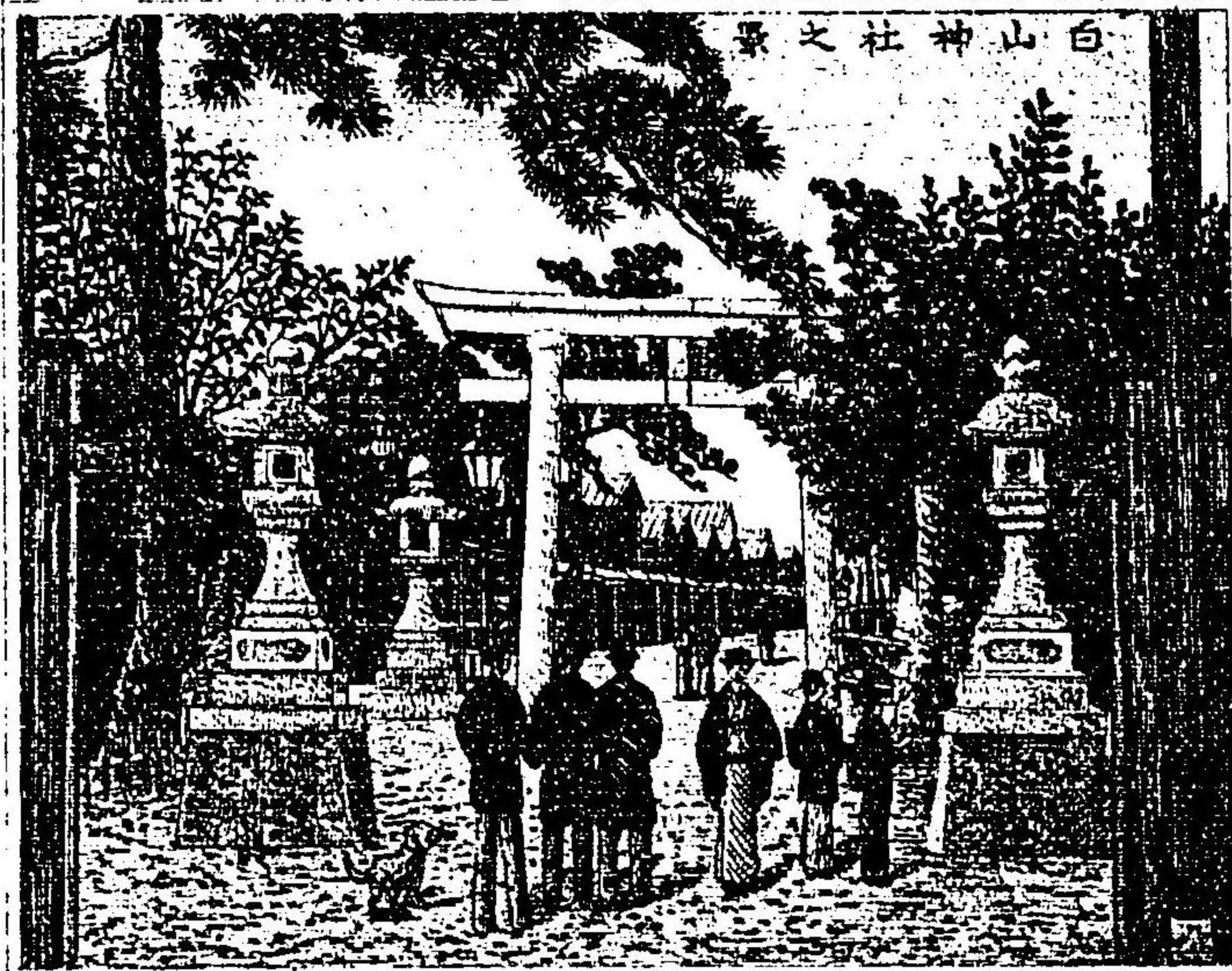


信濃川一名千曲川水源信州又発起し  
 木州を流北海入る其海口を新潟と云  
 河水海潮と撃排し驚浪激湍併呑して  
 雄猛能く船を歴す枕師港を奇険とす  
 天気晴朗風勢等の順平なるを窺ひて  
 投錨解纜の期とす  
 新潟港は五港の一外國貿易の一市場  
 北又大河曲を遠して西北日本海又枕み  
 北越第一の大都會人口三万七千二百余  
 市坊は四通八達し家屋稠密櫛比して  
 溝水市中又縱横し野多橋梁を架渡し  
 大坂市又彷彿たり  
 縣廳は東中通一番町裁判所や區役所



能懐客唯解歡笑不解愁 小野湖山  
 八房梅は小島村に在此梅を座輪梅と云  
 僧親鳥の香跡にして誠と六百年の古樹  
 老根虎の如く屈し枝々龍の如く蟠り  
 一椀八木天を刺し地を拂て雅致あり  
 其花淡紅八重の葩大輪枝々坐を争ひ  
 閑花清香芬然たり、  
 徳大寺宮内卿  
 熱壺は即沸壺なり柄目木村即油のより  
 十町計り隔たりて山中に井あり其水は  
 沸騰して他は漏れず又四季増減しなれし  
 高辻三善侍補  
 あぶ湯くまはまき湯をいそぐはのや  
 燃水は草生津の地即ち臭水の油なり

巻之五



日い和山は海岸の地遠く滄溟を眺望し  
 巨峰峻岫奔波の如く水天の間又重疊し  
 佐渡の青島杳靄又帆章檣旗を窺は  
 的然其処を知らず舟人此壘又登りて  
 其晴雨風波を下す故又此名を附たり  
 實又海望絶景なり、  
 一船出又一船入一日出入船幾百乱掃港頭  
 立如林奥耶羽耶肥耶筑 小野湖山  
 古町は妓楼娼館の地層樓對比の其高さ  
 三層五層又構造し皆粉壁紅欄壯麗又  
 七八月の盛暑は毎夜烟火天を焦し  
 北越第一の繁花なり、  
 港頭柳色萬家棧不許豪奢誇揚州女児生来





老松参差社を環り、好樹芳草短籬を結び  
 池中又香蓮を種へ、碧波漾々万頃一色  
 芳芬好風又薫りつ、  
 國幣中社彌彦神社天香山命を祭祀し  
 祠宇頗る壯麗よし、松林老樹社を蔽ひ  
 森々然と神古たり、境地西麓の邊りは  
 弥彦庄内と通稱し、洋中遙く佐渡を視る  
 沙山蜿蜒起伏して、緑松林叢汀又連り  
 満面の細沙跡を没し、波濤静穏なる期は  
 漁夫雙婦が網を曳き、隊を結んで漁すれば  
 棘鼠比目鱒鱒の類々又獵し朝又販なり  
 日行程越海濱、晚投津、望方新長風萬里  
 雲濤靜一碧、茫々波北辰

櫻木純造

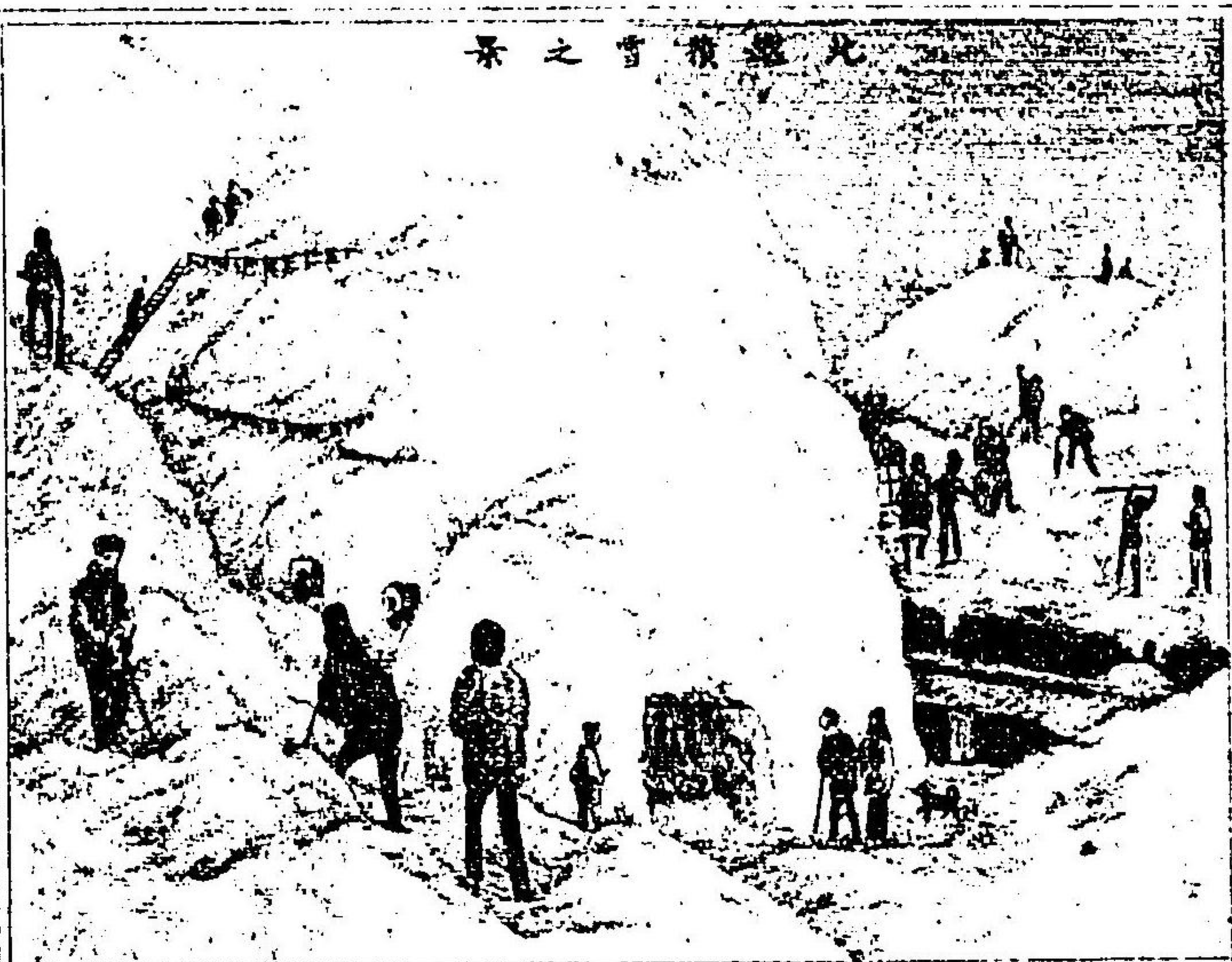
卷之五



石腦油今石炭油と云木州湧出處々在り  
 草生津村落又また闊大なる火井あり  
 火焰猛烈又立昇り、古来消滅するなく  
 近傍の人宅又ひき、新炭の用又換代す  
 此火井も處々在り、  
 如法寺村は名高く、輕炭氣斯を飛出し  
 家々竹筒を接して、燈火又代用した  
 炊煮の用又供すべし、  
 保田村の孝順寺又三度栗の奇樹あり  
 花實期を共みせず、一花實を結ばば、  
 花を持ち實を結ぶ故、又斯く名附たり  
 僧親鸞の舊蹟なり、  
 青海神社は縣社にて、椎根津彦命を祀る



越路山邊は雪中又白兔多し徘徊す  
 其色甚だ潔白よ一種異容の光あり  
 無齒又構太刀と書冬日山行の折から  
 不慮又面部手足業疵傷して血も出ず  
 是れ何の原因たる煖室に入れば出血し  
 発熱頭痛の患あり、  
 雪吹とは猛風頭突し高山平原の積雪を  
 四方より飛散の其鋭ち夥多の箭を射る如く  
 寸隙の間も許さず故又行人此が為め  
 忽ち雪吹に埋没し、俛凍死の不幸あり  
 雪類とは山の積雪が春陽の地氣蒸発又  
 積雪破裂が碎落ち大磐石の轉墜する如  
 若此掩壓又遇ふ時は人馬家屋も過難し



埋家又雪幾年々慣習寒光不恨天梅柳未春  
 三月盡六花在枝代清妍 鈴木牧之  
 五層團成三國峯寒光透骨難移節何人龍雪  
 雙花月棧徑凌雲踏白龍 京山人  
 降雪又安の傍方して松を冬に山海なるける 朝臣  
 かきよみちを成る送使をよに海のけき山里 伊達 政宗  
 松崎は諸川合流の地海望風景奇絶なり  
 樽橋は赤谷館村の間胎内川の流に架し  
 両崖巨巖が崖削し山水頗る幽雅かり  
 藤戸神社は宮内村 老樹喬木密立して  
 境地森々神古たり、  
 拍崎は郡の一都會人口一万四千一百余  
 前は滄海又瀕面し、田野其背又閑寂し



北國路の要衝又當り市街頗る殷富にして  
 學校の教育進歩し衣食百需缺亡なく  
 番神鼻又燈臺あり  
 三島神社は別野村大山祇神を祭祀し  
 境地最も平坦にして老松蔚然風致あり  
 妙光寺は僧日蓮が開祖として沖の題目や  
 七面蛇神の遺跡あり  
 即身佛は野積の廣最上寺弘智法印が  
 骨内なりと謂傳ふ茲又法印が辞世の歌  
 岩塚のまね進ると人同まのまねは書松尾のま  
 ぬのの燈臺も亦怪しむかといふ所の新茅樹  
 青海駅より鉢掛峠瀧野黒井駅を経て  
 高崎新田に至るの間諸峯東南又連りて

卷之五



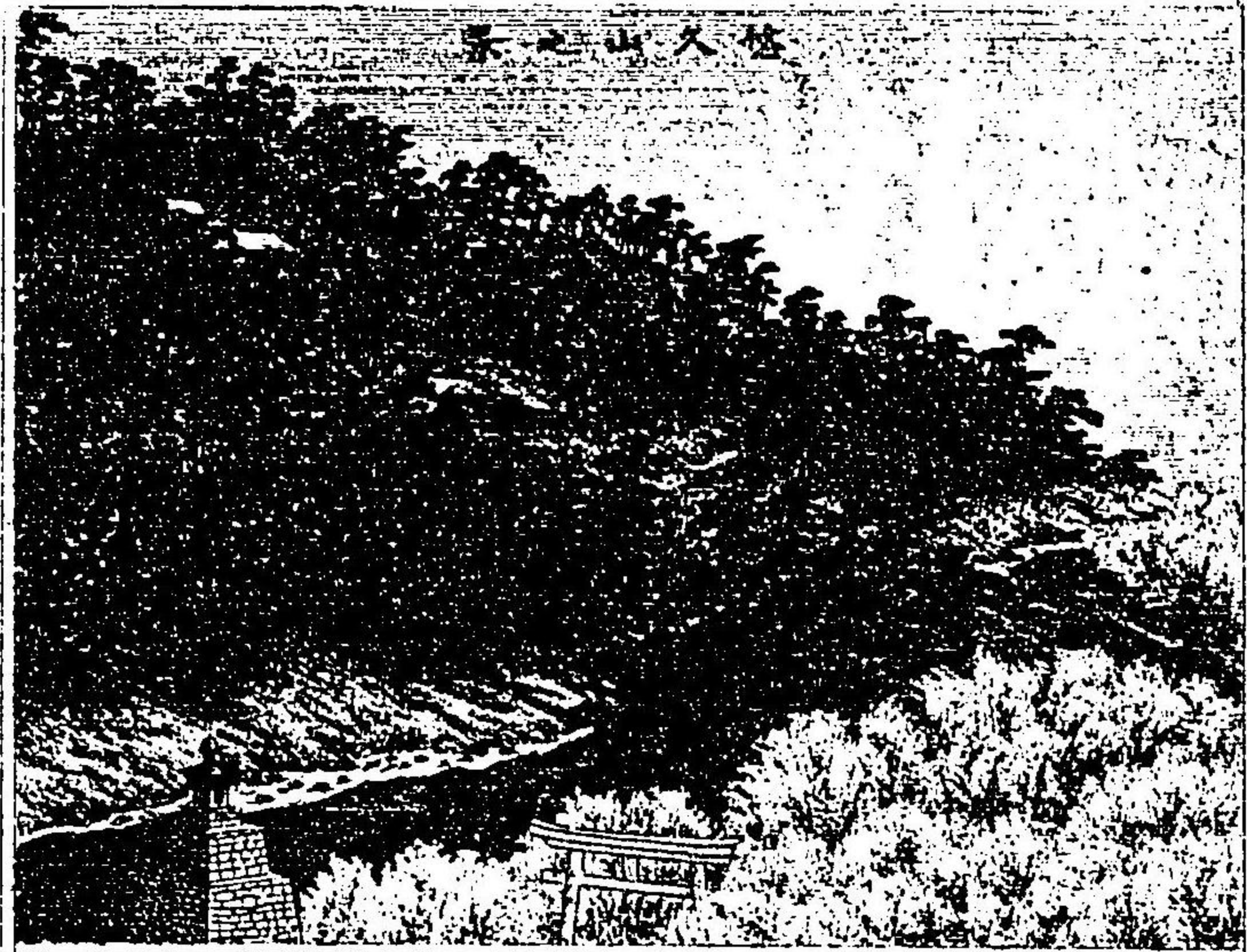
米山尾神の兩嶺は最も高峻又此間  
 海岸奇石甚だ多く笠島の孤峯海に出  
 其勢力断刃截る如く岩上平坦人想へし  
 万里波濤足下又在り  
 春日山頭暮色添直江津畔冷秋蟾村々煮海  
 淡烟白想起當年輪畝塩 櫻木純造  
 かのなき湯草の雪の心は雪の湯草の湯草  
 黒姫山や米山嶺は東西又相對したり  
 八石山又瀑布あり此海濱大抵平坦又  
 古来高師濱と謂ふ  
 逆巻温泉は結東村山中溪川に飛橋あり  
 浦佐の昆沙門堂は大同二年の創設なり



七金瀑布之水

漁家半は過ぎず人口は八千九百餘人馬往還路狭して效は佐藤次信が母  
持待を管古跡あり○寺泊驛は北陸の要港市街繁昌旅舎多し佐藤は航海する人は  
必ず針路を效と取る近くは佐藤速人は朝鮮釜山浦を瞰し往昔順徳院遷幸は

五十嵐其は御幸あり其行宮  
を祠と遺其順徳帝皇族の  
御歌又  
も地身名まの月夜足る状  
海跡乃ち舟の跡なる今昔の  
月影をたもたむる海跡乃ち山正風  
高田は郡の大都會新瀉を  
距る三十里人口二万七千  
八百餘裁判支廳や區裁判



椽尾股温泉は下新井大温泉村より八町  
溪流は治ひ往けば南に駒ヶ嶽嶽たり  
老杖翁蒼日を蔽ひ此間又客舎連接し  
恰し仙境と入る如く  
蒼柴神社は攸久山牧野候の廟祠にして  
松板蒼々社頭清く堂宇莊嚴陽春の頃  
櫻花爛熳紅雲の如く遊園と際し茶舗列ひ  
遠近湊衆の遊地なり

七金観瀑の其路は十日町より南行七里  
妻在庄田代村に際し天工奇石が崖削し  
其形方角管を積如く瀑布は七層飛流して  
老樹蔚蒼幽雅なり  
出雲舟は海に瀕し北陸の要衝なれど





上野清水道 六日町 三郎丸村 長崎村 清水村 上野湯 檜曾村  
 岩代道 新発田 五十公野 山内 赤谷 綱木 新谷 行地 津川 八木 山  
 福取 岩代 賢川 佐渡路 寺泊 佐渡 赤泊  
 同支道 沼垂 龜田 水原 保田 小松 取上 村 川口 村 大牧 村 津川  
 同八十里越 三條 鹿嶋 村 森町 村 吉平 村 岩代 叶津 村  
 中通路 長岡 見附 大面 加茂 田 上 矢代 田 新津 分田 水原 笹岡  
 荒川 五十公野 三日市  
 同別路 長岡 見附 長沢 村 鹿嶋 村 黒水 村 松 泉 分田  
 村上 路 沼垂 新瀨 下 沼垂 松崎 島見 次弟 濱 藤塚 村 松濱 中村 荒井  
 桃崎 塩谷 岩船 瀨波 村上  
 長岡 別路 新瀨 内野 赤塚 竹之町 中島 地藏堂 板長岡  
 同 新瀨 内野 曾根 巻 吉田 地藏堂  
 同 柏崎 妙法寺 宮水 上除 長岡

卷之七

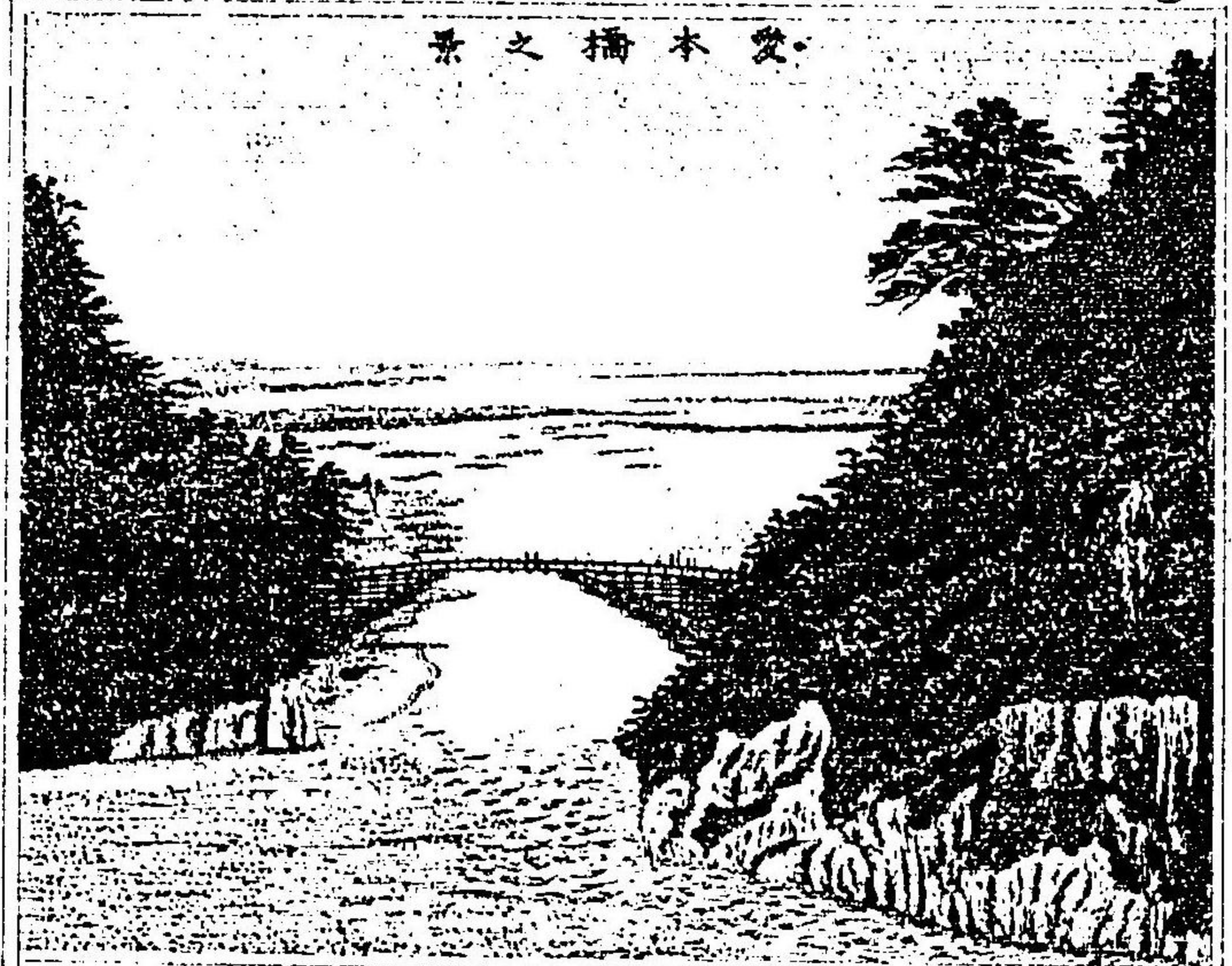
越中國之部

此國は北陸の中央又東は越後及び信濃南は飛騨西は加賀西北能登又連絡し  
 北は洋海又瀕面し東西凡そ二十一里南北凡そ十九里餘其地勢立山の山脈  
 東南又走り重疊し飛彈信濃に連接し北の方沿海の地は稍平坦又闊く札幌  
 平野僅又四分の一四大川 黒部 常願寺 貫流 漕漕の利あり地質は豊確相半し  
 土宜賤賑なる所なく水族尤も饒きなり人口は六十二萬一千三百二十余  
 州内四郡又大別す 新川 婦負 砺波 射水 等として名邑は 富山 魚津  
 滑川 水橋 八尾 高岡 今石動 新湊 氷見 等を謂ふ民俗總て樸陋なり  
 立山は東南又聳立し本州第一の峻嶺なり北又劔ヶ岳南方又薬師ヶ嶽並なり  
 布倉山 一者 折津山 鷺羽ヶ岳や 夫婦山 祖父岳や 金剛堂山 牛ヶ岳や 人形山  
 俱利伽羅 一名 砥並山 沼湖又於ては放生津 氷見瀨 一名 布施湖 越路は湖を瀉と呼  
 東岩瀨は神通川口水橋は常願寺川口新湊は射水川口新瀨は黒部川口  
 其外月川や片貝川何れも海口を成す



魚津は海岸の一市場人口一萬零九千余、裁判所や郡役所病院学校の設あり  
不動深は早乙女嶽其高さ九丈幅一間、大岩絶壁を飛流して老樹喬木頗る蒼鬱し  
其幽趣尤も受すべし、延槻川の仮橋打渡り、水橋駅又常願寺川立山橋の其直徑は  
百三十五間幅三間上人松と宇す  
一里餘は家屋連成せり  
立山は郡の東南又富山を距る  
十八里余絶頂又拳が登れば  
縣社雄山神社あり、賽路は甚だ  
險惡として往來最も困難なり  
積雪早く溶る遅し、毎年七八月  
登山の期とす、頂上又秀四顧せば  
萬方一望は一瞬又、山中奇勝は

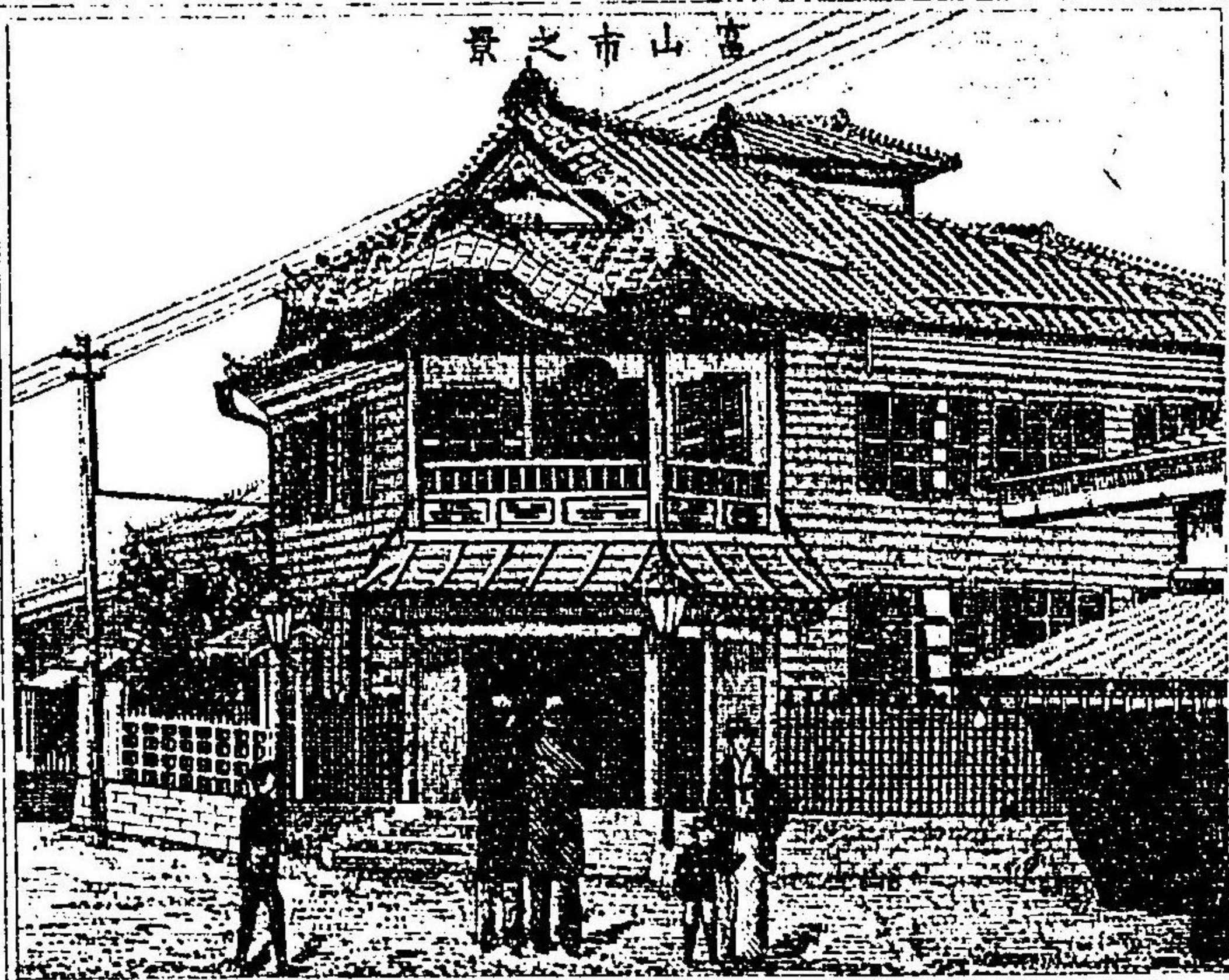
景之橋本愛



越後の市振跡を成し坂町を過往は泊駅  
三日市に至る浦山の阪路又向へば一橋あり  
此を愛本橋と云ふ其構造は奇巧にて  
實又人目を驚歎す兩岸は断崖絶壁又  
橋下は碧水逆流し其風光また愛すべし  
是より西岸又治往は内山村又桃園連り  
花信の期又方れば一望茶々紅霞の如し  
黒部橋畔又岐道あり、四十八ヶ瀬の地に至る  
早谷や此の長谷まひと海ともなれるはるか  
布施川や片貝川等打過ぎ行は魚津駅  
魚津近海は春夏の文海上龍燈氣を顕出  
市街林樹や人馬の類其形状を空中又観る  
此を土人海市と云、此理解は第二編十卷に詳記す



景之市山富

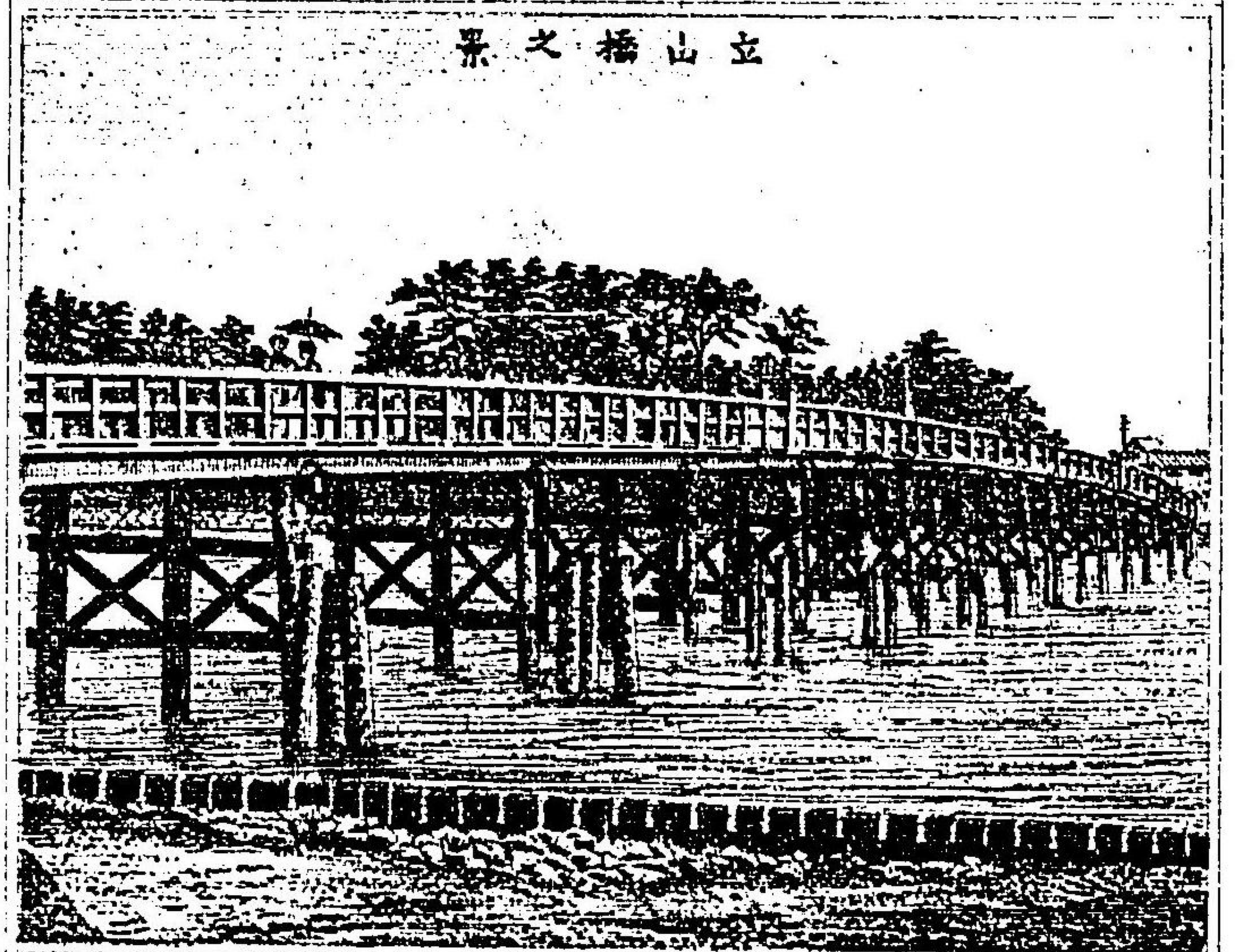


小坂を過て南に往は、**兵眼山**は近世開墾し泊駅より今石動又三、三十里平坦の地は立山の峻嶺、**選露**と**美濃**、**飛驒**の連峰は恰も波濤の激るて、西北地方を眺れば雲波其際を知らず、

**高岡**は本州の一都會、市街は千保川に瀕し伏木と舟路相通じ、物貨輻輳、**繁花**の地、**居民**工業尤も隆盛、又公園は市坊の西に在、**旧前田氏**の城墟たり、園裡頗る清麗、又して老弱遊賞の勝地なり、

**國幣**中社**射水神社**は、二上村射水神を祭る、其西に**瑞龍寺**あり、**櫻馬場**は櫻樹多、花期遊蕩の客多し、

景之橋山立



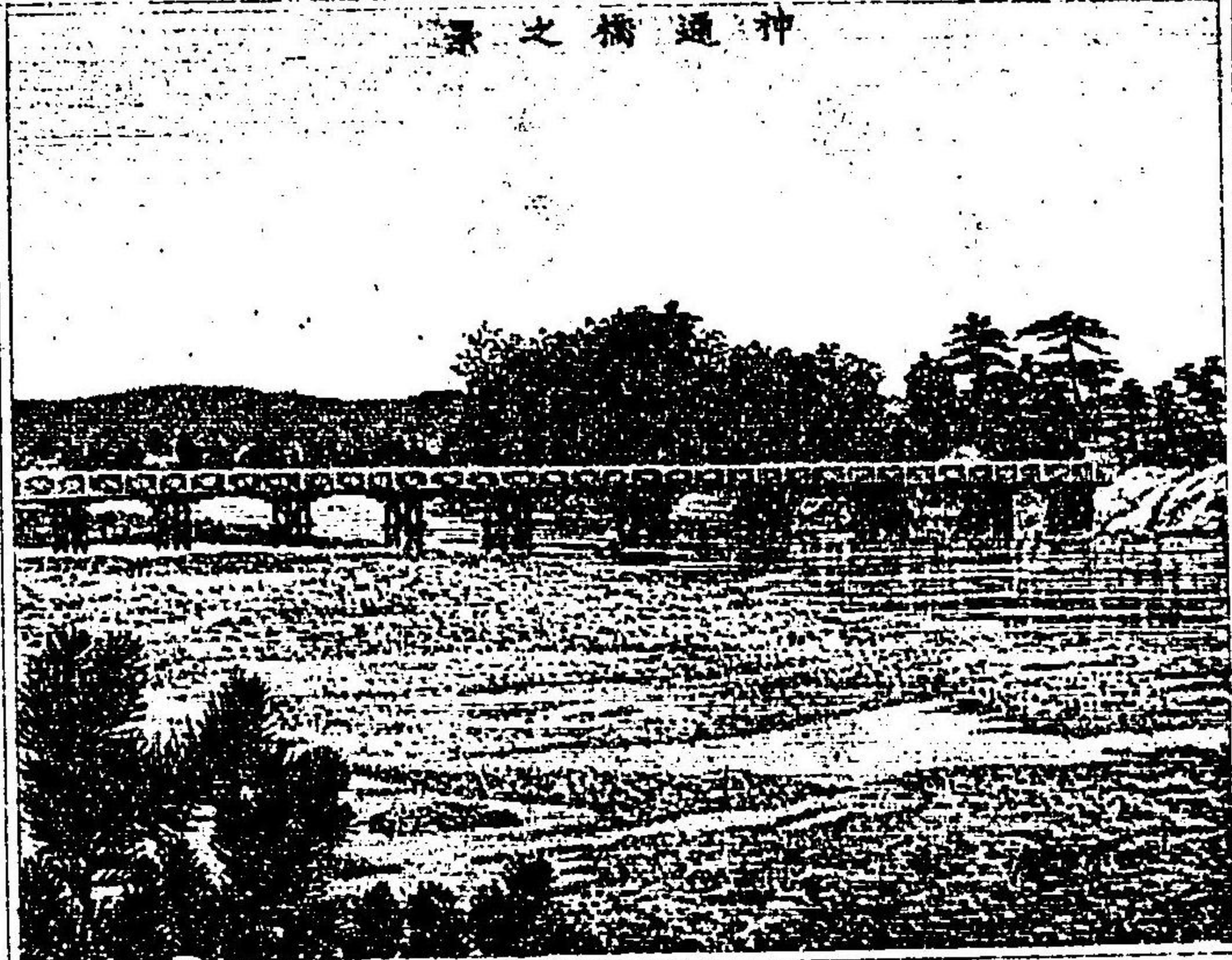
最も号し北に大日嶽、**溪谷**、**硫黄**の坑号し、**焰氣**沸騰を噴出す、土人此を地獄谷と云、**越中**第一の高嶽なり、

**富山**は郡の大都會、**神通川**の流に枕み、**民物**頗る輻輳して、人口四万四千二百余、**市中**の西に城墟あり、規模宏壯なりしも、今其地を**總曲輪**とて、**民家**稠密、又並びたり、

**富山縣廳**や**監獄**、**署師範**、**學校**や**中學校**、**舊時**の姿を變更し、市中は**賣藥**を敷し、**他邦**又行商する号し、

**神通橋**は旧と舟橋、**鉄鎖**を以て六十餘艘、**堅固**又**聯貫**せしが、近世板橋新架せり、**橋上**又イミ眺むれば、遠く立山を看るべし、

神通橋之景

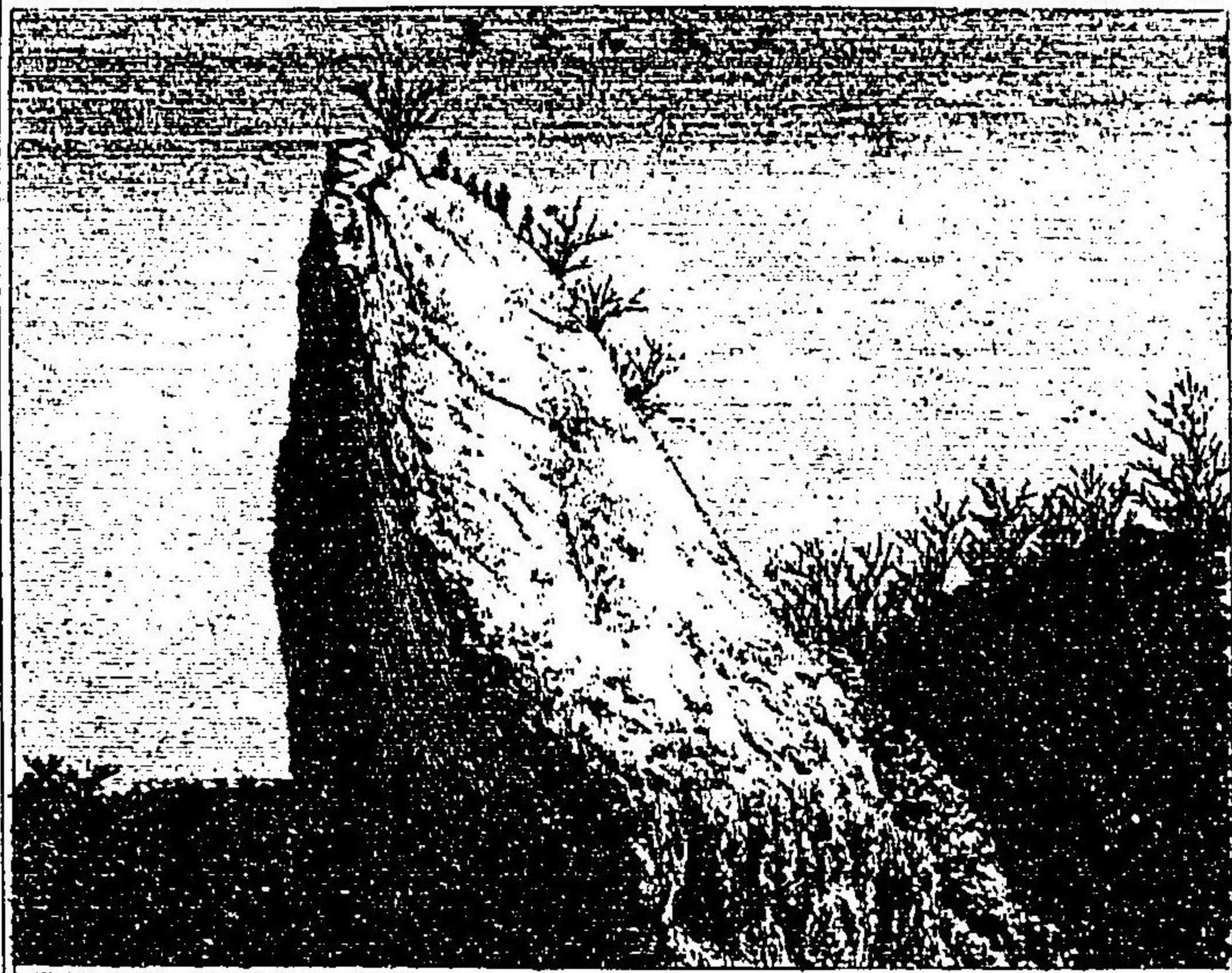


猿馬場は甚だ嶮越中加賀の坂にして  
 近世新道を開墾す二里余の費金一萬圓  
 なりと聞く西望すれば河北瀧の光景を帯び  
 所並山南又聳へたり往昔源義仲平軍と  
 戦争の時樋口某を搦手と遺して敵軍の  
 背後の竹橋を塞ぎ猿馬場より俱利伽羅の  
 嶮阻又依て攻撃し深溪又追落したる  
 景況を想像する歌又  
 天柱石は所並山の東城端の東南四里許  
 松尾村の地又在りその高さ數百丈  
 萬葉岩柱と纏絡し岩根の井の如き穴は  
 其深さ計るべからず

立山之景

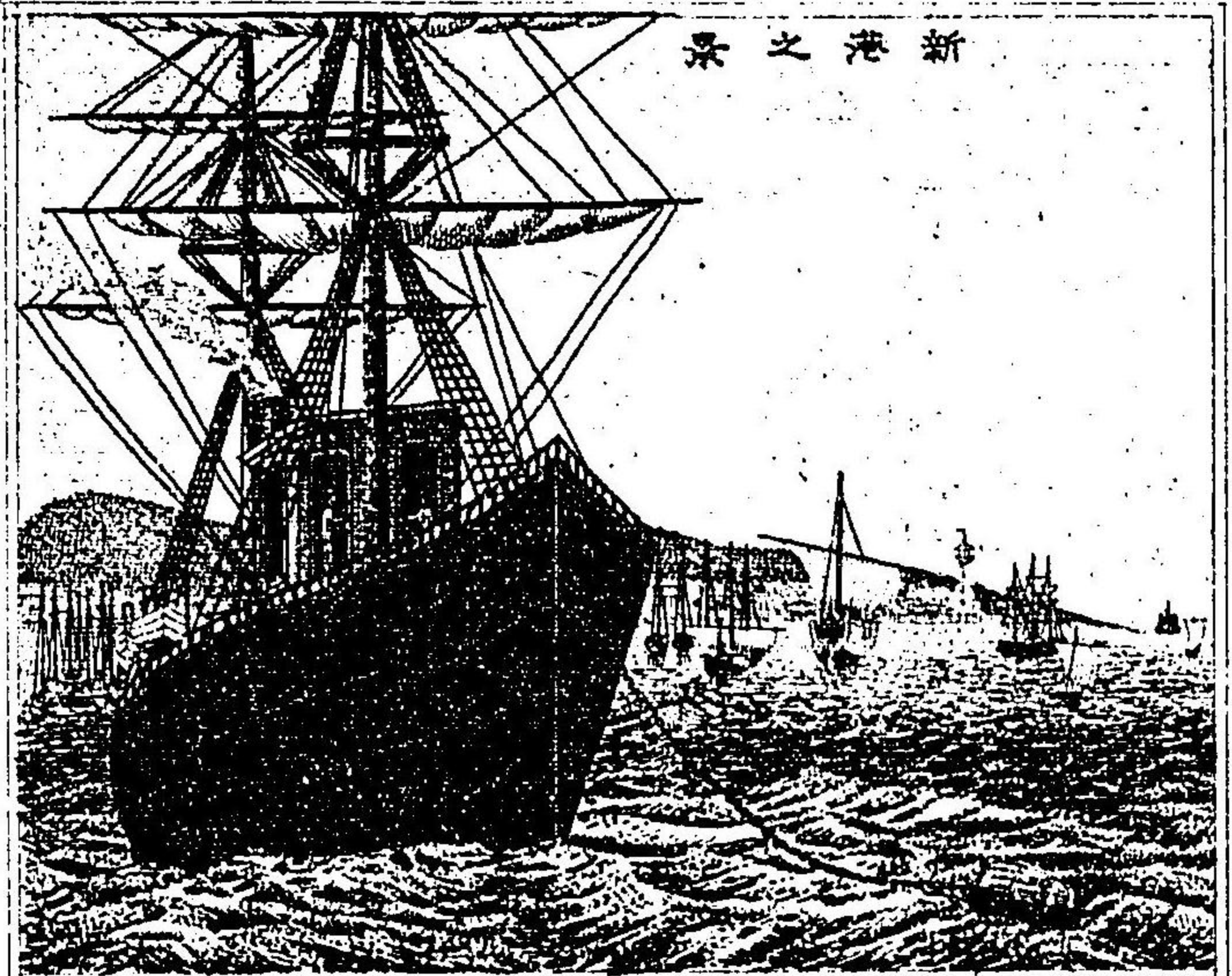


新湊は放生津伏木六渡寺の總稱にして  
 岸頭又燈臺を設け船舶出入の標とす  
 近世北海又往復する汽船を造り漕運の  
 貨物や旅行の人は甚だ便利を得たり  
 近海を荒磯の海と云  
 氣号神社は縣社にて大己貴神を祭祀す  
 其北渋谷崎の海中又男女の二大岩あり  
 また家屋の如き岩は義経避雨の處と云  
 小矢部の橋を渡れば今石動の駅程近く  
 今石動は所並山の東麓又在て其繁花  
 富山市又伯仲すべし  
 安楽寺駅より山路溪流又沿ひ拳登る  
 此地を天田越と云里人通ひの途として

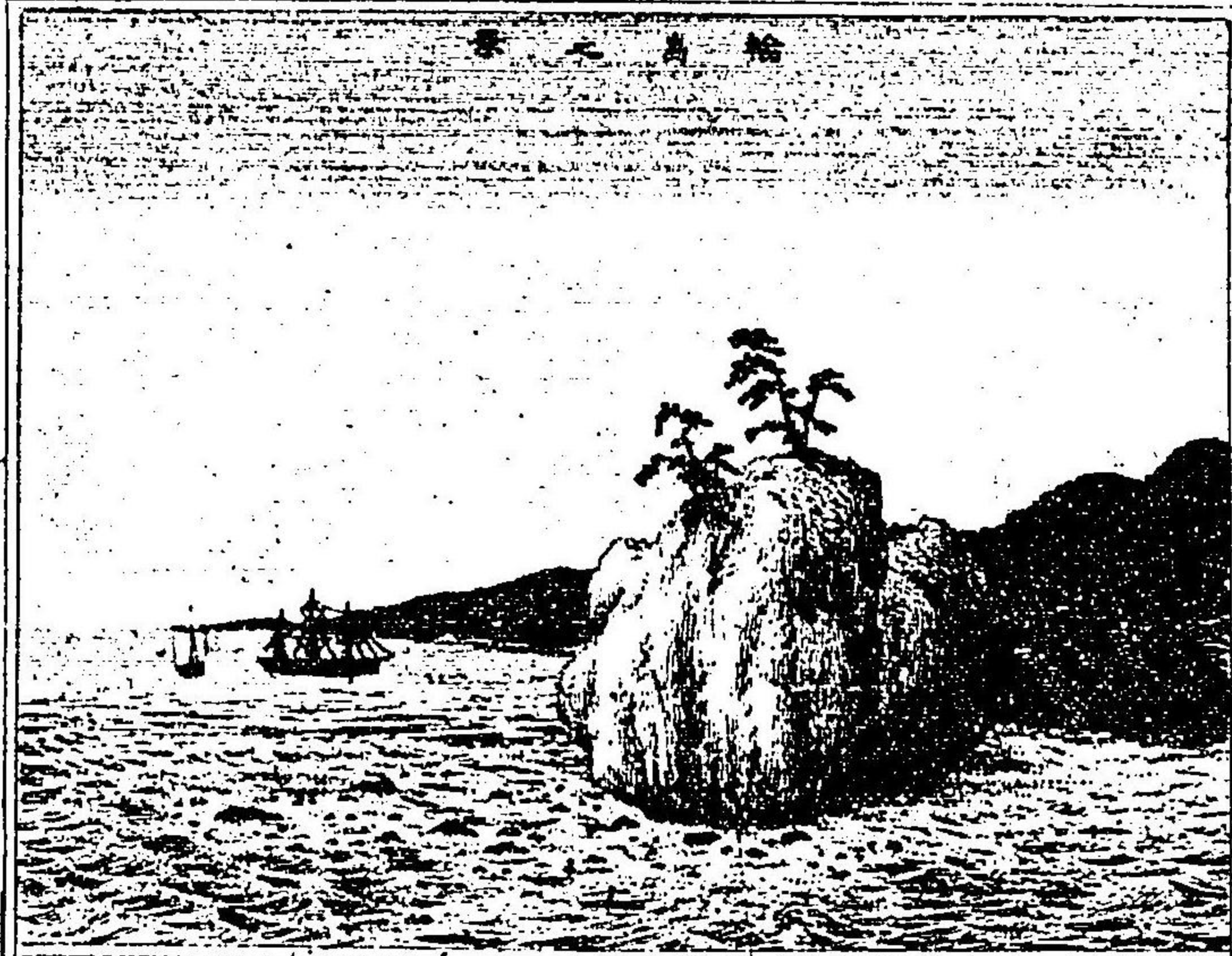


能登國之部  
 此國の東南は越中及び加賀と連絡し  
 三方洋海に瀕面し東西凡そ十一里餘  
 南北凡そ十八里餘其地勢賀越の諸山  
 山脉海に斗出して粗半島の形状を成し  
 東一面大灣を抱き北陸第一の巨港なり  
 内地の土壤薄瘠又風俗龐樸の姿なり  
 水州四郡又分割す 羽咋 鹿島 鳳至  
 珠洲 等々其名邑は 七尾 羽咋 輪島  
 宇出津 等なり人口は二十七万二千七百餘  
 七尾港は其幅廣く海岸は越中の坂なり  
 鶴浦村又亘るの間殆ど直線状として  
 山脚海岸又突出し鳳至郡の境域に至て

新港之景



越中國物産  
 硝石 硫黄 砒石 瑪瑙 石灰 烟草  
 茶 蚕種 干鮫 鮫 鱈 鱈 鱈  
 生絲 真綿 棧留綿 八講布 山慈姑  
 同 驛 路  
 北國路 今石動 置高岡 小坂 富山 滑  
 川 魚津 三日市 浦山 舟見 泊 駅  
 本 越 後 市 振  
 能登路 高岡 守山 氷見 能登二之宮  
 沿海路 氷見 放生津 東岩瀬 滑川  
 魚津 生地村 泊 町  
 飛驒路 富山 笹津村 檜原村 片懸 寺  
 猪谷村 蟹寺村 飛驒 檜原村



海岸中の奇観なり、是より西北に廻れば  
 狼煙、祿剛崎燈臺は其燈光十八里に達し  
 舟子闇夜の便とす、  
 輪島は最北の海岸河原田川口に跨り  
 郡役所や郵便分局監獄病院の設あり  
 市街稍繁花として人口殆ど一萬に満ち  
 船舶常出入する居民過半工業を営み  
 漆器製作の名高し、  
 福浦は外海の良港商船常輻輳して  
 松ヶ下は湾中水深く巨船碇泊の良地故  
 近世漁船の投錨多し、  
 國幣中社氣多神社は大己貴神を祭祀し  
 境地頗る壯麗なり、

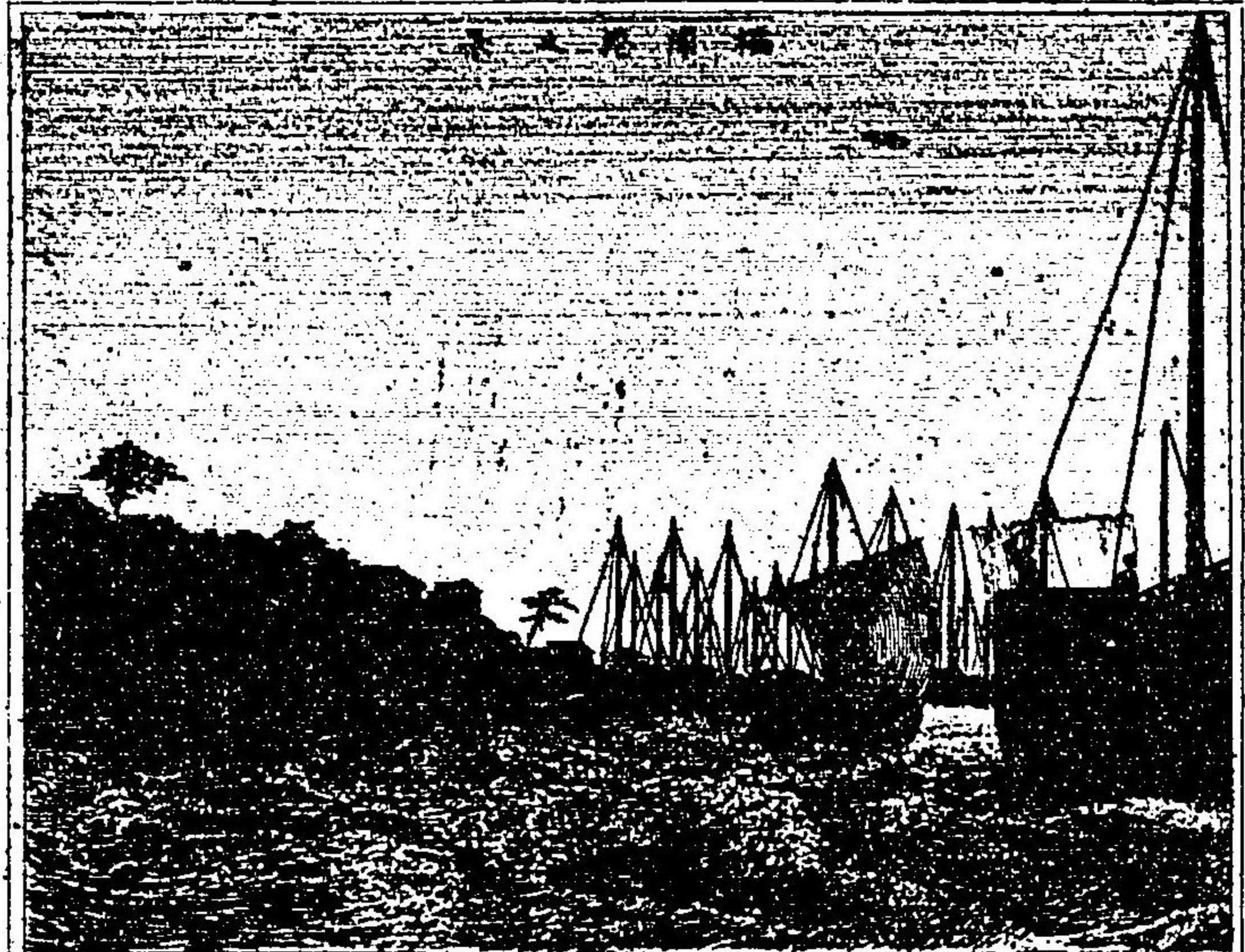


一大湾を成し其中に野多岬角を形成し  
 能登島前又横臥し此間を七尾湾と云  
 東西三里南北二里水深く波濤静穏又  
 商船碇泊の良地たり、  
 七尾は捨越川に跨り人口は九千一百餘  
 郡役所病院を備へ市街甚だ繁昌の地  
 七尾町又近迹して上杉輝虎が城墟あり  
 数行過雁月三更の詩を賦したる処なり  
 小木の北岸日和山定地と越坂村の間  
 大湾を成す處あり巖岨岨岨出沒参差として  
 九十九の曲岬を成し湾中又小島孤立す  
 此を鶴落島と呼び奇巖峙ち島中又  
 桂樹叢生海水映し其風致頗る幽雅にて

加賀國之部

此國西南は白山の西に亘れる山脈を相隔て越前と隣り、東は山の北に延く支脈を飛越し連絡し、河水源を致し起す。北は支脈を蜿蜒し、能登又坂したり。西北は蒼波渺々と、其際限計るべからず。東西の廣袤凡十里、南北の長さ十八里。本州四郡又區域す。江沼、能美、石川、河北、等而して名邑は金沢、大聖寺、小松、美川、松任、金石、鶴木、津幡、高松。人口は四十一万三千五百八十餘。

時令不調なる故、又物産豊饒の地少し、風俗優柔の姿にして、偏執を免れずとす。白山は北陸第一の高嶺、皇國三山の内、加越能飛四國又跨り、三峯は南を別山と云。北を大汝中の峯を、御前と稱し、最高人絶頂に至りて六州を見る、其直立八千四百尺。御前峯の背又また鈿峯と云、其状五、五鈿を植る如く、又て積雪四季又盡す。故又白山の稱あり、金沢を距る二十里、其他秋迎岳、大日山、富士馬岳や妙法山、笠摺嶽や三方ヶ岳、連山東又盛なり、川流は於には犀川や、手取川は大河なり。梯川一名安宅川、大聖寺川、菅生と云、浅野川は金沢又流なり。



能登國物産

酸化滿庵、金砂、石花菜、磯草、黑海苔、鯨、海參、燕鮫、馬、木綿、漆、炭

同馱路

内浦路 七尾、今田、鶴濱、大津、中島、曾、福野、穴水、中居、川尻、武連、鶴川、波、並、野、宇、出、津、小、木、松、波、飯、田、寺、家、外、濱、路、今、濱、一、宮、川、尻、福、浦、富、木、子、鈿、地、華、道、下、浦、上、葦、繩、又、輪、島、總、領、重、名、船、重、時、國、寺、真、浦、片、岩、大、谷、高、屋、折、戸、狼、煙、寺、家

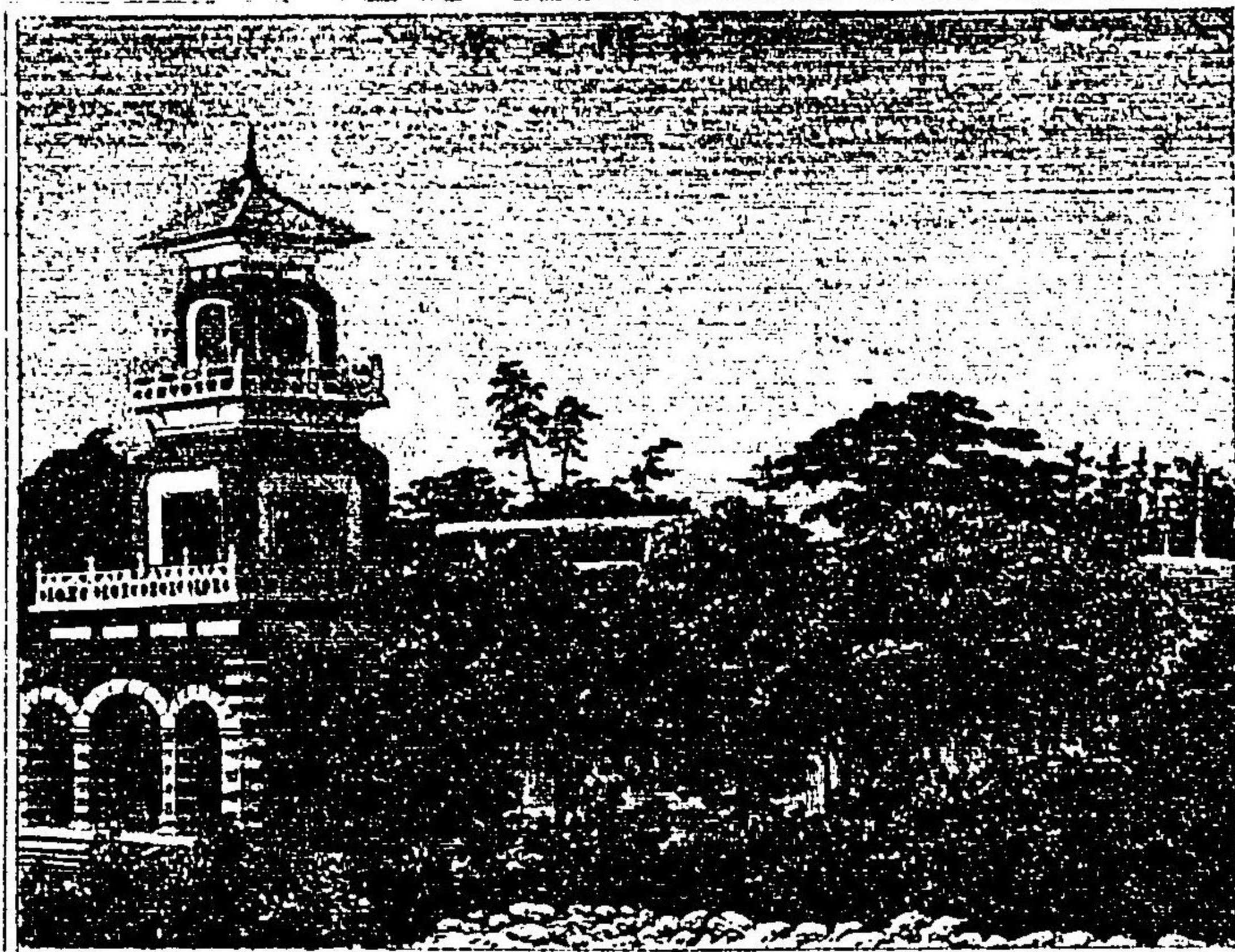
加賀路 七尾、二宮、高島、飯山、子浦、今、濱、加、賀、高、松



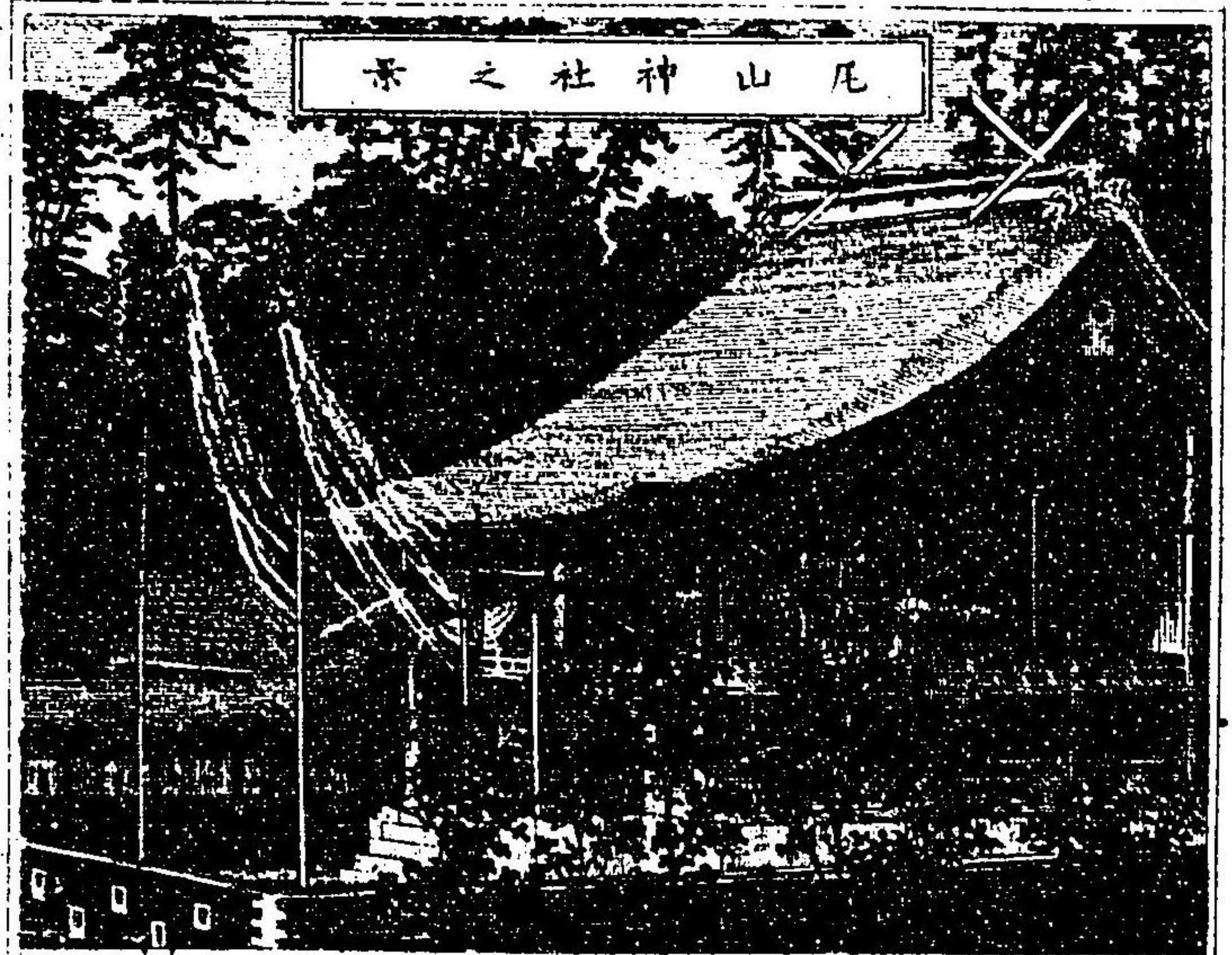
金沢は北陸の大都會、浅野河、犀川貫流し、岡陵其背後、時ち人口は十万八千余、市街は廣闊、道路は四通八達し、其北端大樋町は東京街道の出口、南は有松地蔵前町、有松は西京のみち地蔵前、鶴巻路、西端を長田町とす、金石港の通路なり、金石港は旧高越、大野の二邑なり、近年一處は合港、市塵稠密、柳庇して、金石港を距る一里半、兩川運輸至便として、神社佛閣、慶々あり、石川縣廳や裁判所、逓信管理、大林區署、高等中学校の設あり、城郭は巍然壯麗、陸軍省の所轄なり、卯辰山は卧龍山と云、市街の東北隅として、此地頗る眺望又富み、一祠大己貴尊を祭り、其傍に招魂社あり、市民老弱遊歩の地、卯辰山の北に連りて、春日山麓、淡路村、鳴者源と呼ぶあり、義経奥州に脱奔、敗已に安宅關を脱り、此は暫く休憩するに



俱利伽羅嶺を下り、九折てふ處に至る、旧道又垣生八幡宮、義仲が願文を藏む、此辺に卯辰山あり、風景の幽雅愛すべし、と記すは、安政のとき、みかみなが、山崎の白雲、芳樹、竹橋より官道を歩し、西に向えば津幡駅、較々繁昌の地、又して、郡役所、学校の設あり、能登通の新道は、近世の開闢、津幡の西北に向い、宇野、新井、山崎、横山、内高松を経て、能登の宿村に至る、正南に向へば、森下駅、此東南の深谷村、又温泉在り、宿も佳なり、金沢を距る遠からず、故に浴客常々絶えず、金沢市街の北に接し、諸村皆蓮を植たり、蓮藕は其味美として、夏月観花の客、尋し、曉起清香を愛すべし、

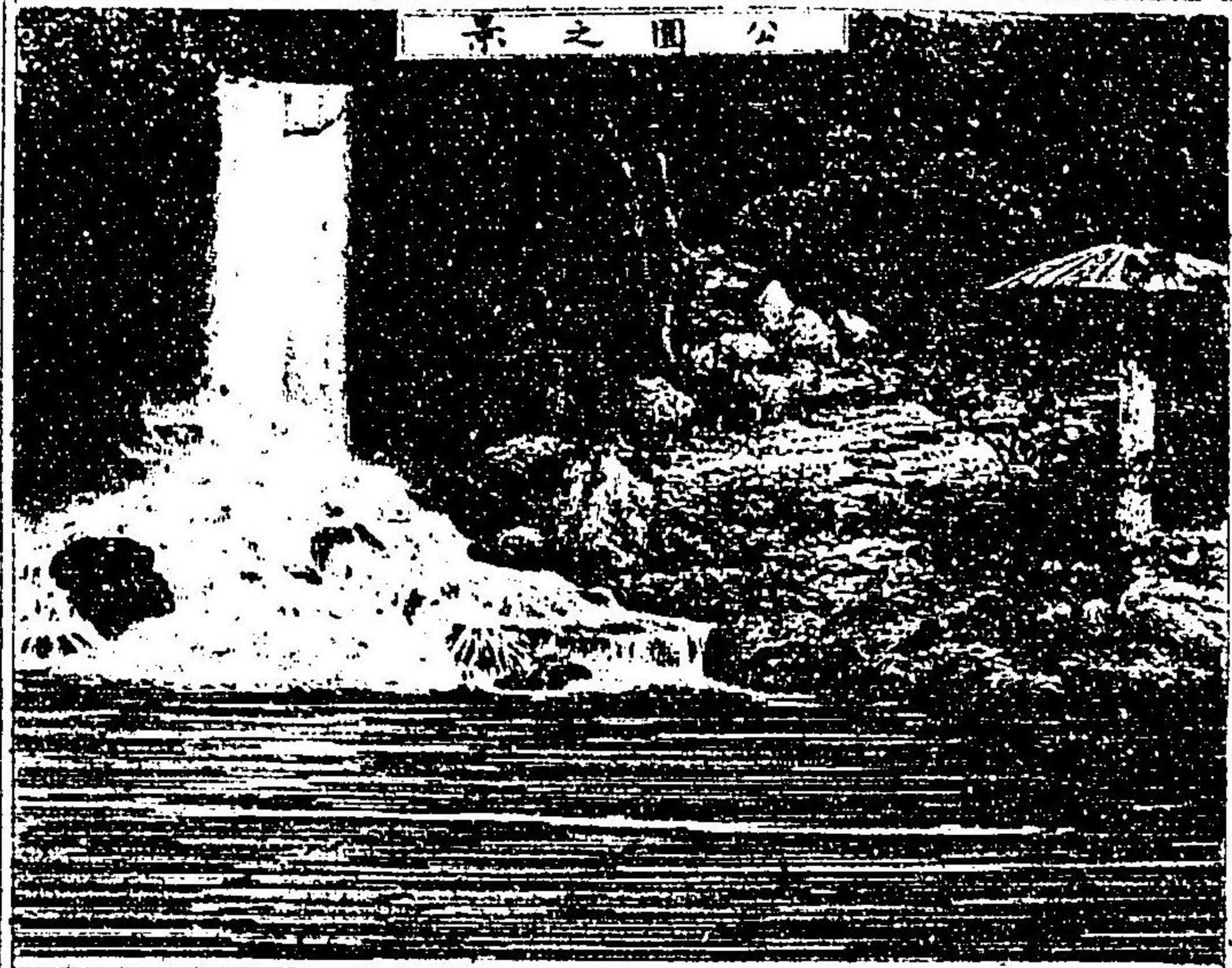


明治紀念碑 戊辰の役又、西南戦死等、其忠死を世に傳ふ  
 其構造は奇巖を憑其高さ二十一尺余  
 日本武尊の銅像を其上に安す長十八尺  
 老樹森々と碑を抱き水泉噴流も清麗又  
 蒼古幽邃の風致あり、  
 史編歴名兼名芳想見當年血戰場義氣凜然  
 凝不散紅刀標畔月如霜 大谷光堂  
 國はあまたの力をあつて、  
 野々市村其むかし、永義年間又富樫輔  
 茲又館舎を建築し、二十三世政親の時  
 高田派の土寇たり、畏が為又亡びたり  
 松任氏は民物富庶村中木綿を染出し



開可密極の酒肴、追送して宴を成す、此時并慶首舞して  
 鳴者龍の水と詠ふ、故に此名起ると云、  
 尾山神社は縣社又て前田利家公を祭る  
 社殿頗る壯麗又して、祠門は石造門上又  
 二層の樓を構造し、樓窓五彩の玻璃を張  
 丹碧燦然美を極め、其高さ殆ど百尺余  
 花木蔭々明媚又て、毎夜燈火を照つ、  
 近海行舟の標目たり、  
 公園は金城に隣り、旧前田氏兜表の地  
 兼六園と稱したり、築山庭造美を盡し  
 茶亭清麗又軒並沖の方眺望奇絶なり  
 茲又博物館を建て、古今の奇品陳列は  
 衆底の縦覽又供に能く人智を開発し  
 江藝進歩の基とす、

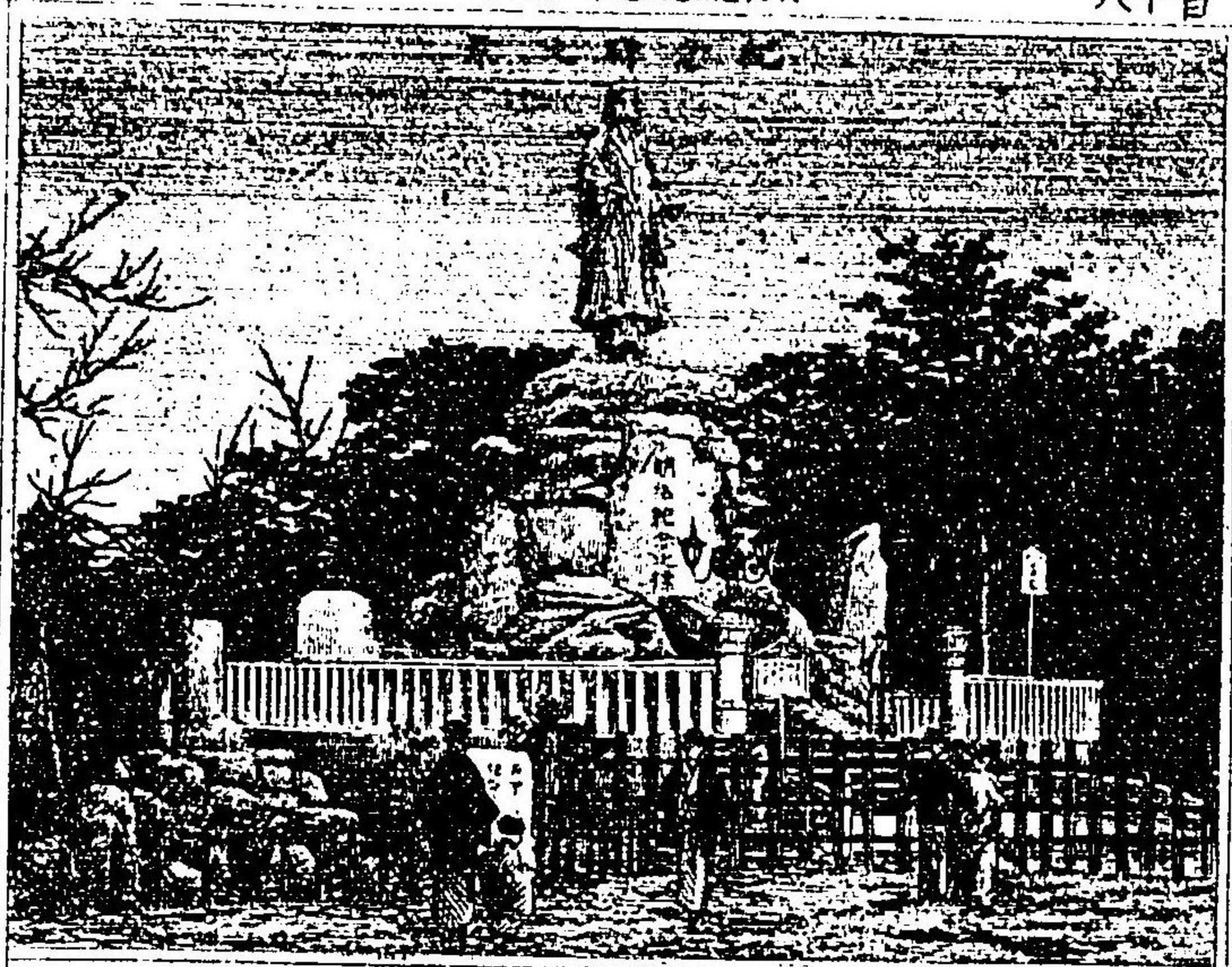
景之園公



小松は郡の小都會、民物頗る豊阜、又て海岸安宅を距ること遠からず、梯川の流市街の北部を貫流し、水路の便あるを以て土地自ら繁花なり、居民能く作業を勉め、及び絹紬を製す、是を加賀結と呼ぶ。安宅関の古跡、年々波濤を嗜み、岸汀再度缺失し、白峯村は當地を距る十三里、二村相合、比屋垂絲を營業し、近世製絲場を建て、豪家に至ては、二層三層樓を構造して、就ち洋風の居住なり。

社風をなす、縁を敷き、はたき、縁を敷き、正風多田八幡宮を遙拜し、浅井殿路を眺むれば、爰は慶長の乱、利長と丹羽長重の古戰場

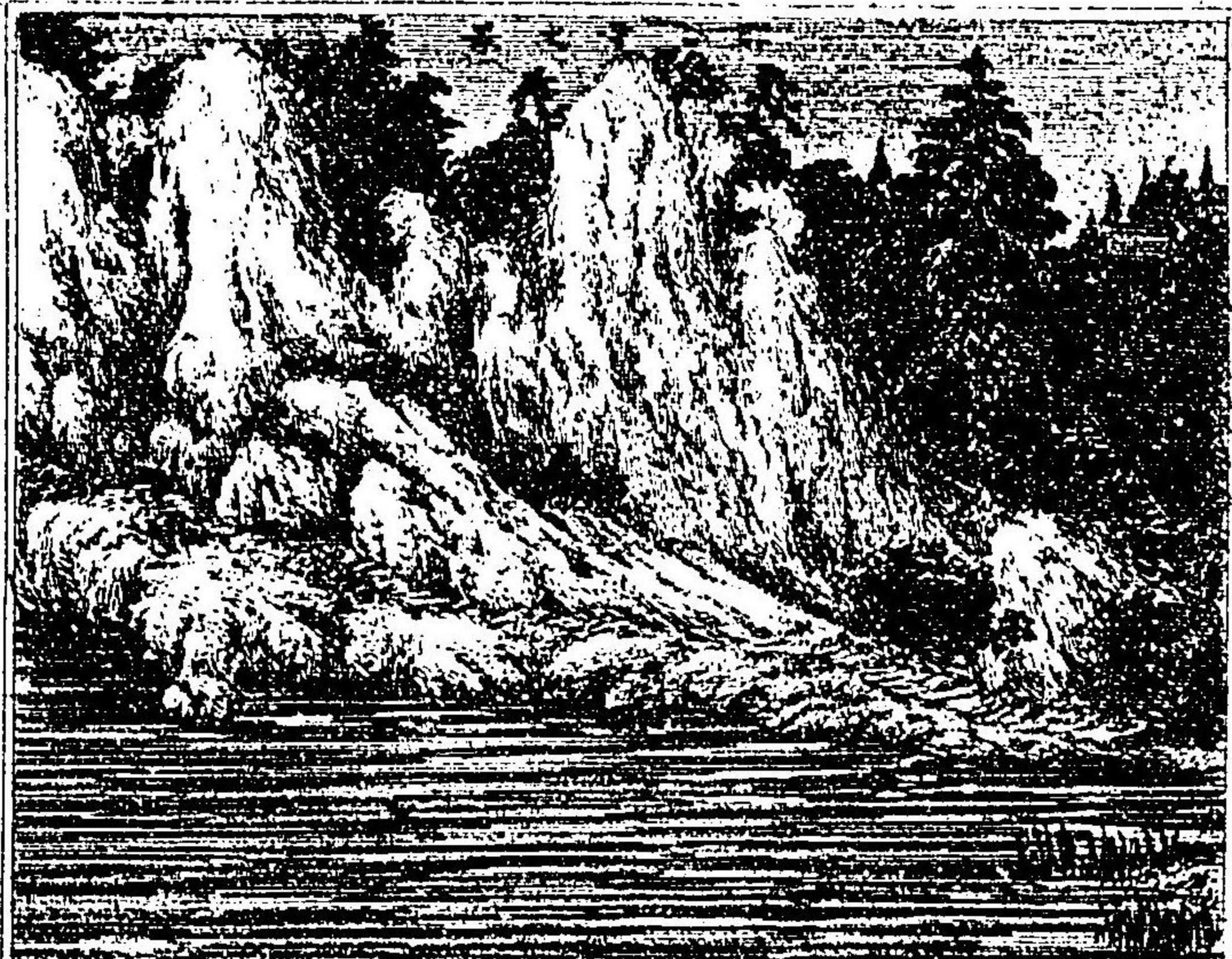
卷之五



鋤鐵の精鍊、又進む寶歴年間の事なるが千代女、茲に誕生し、俳諧の精妙を得て、名を四方と賜かし、後尼と成り、素園と云、正興寺に句碑あり。

白山比咩神社三宮村國幣小社、極に列し、伊井諾伊井冊尊又前理姫を合祀せり。其始白山村に在り、神殿佛閣、平余宇、東徒三千人、其食土殆ど本州の三分の一、所在願成を振ひ、動もすれば兵を奉、武人に抗挺せしが、文明年間、火災あり、三宮社を遷坐して、尋いて本願寺、國中に遷延す、其勢カ漸次衰たり、下拍野を経て水島の手取川は、敷波なれど、數百間の木橋となる、河に際し、笠間神社、粟生を経て寺井取、茲に九谷焼の陶器、巧画を営む者多し。





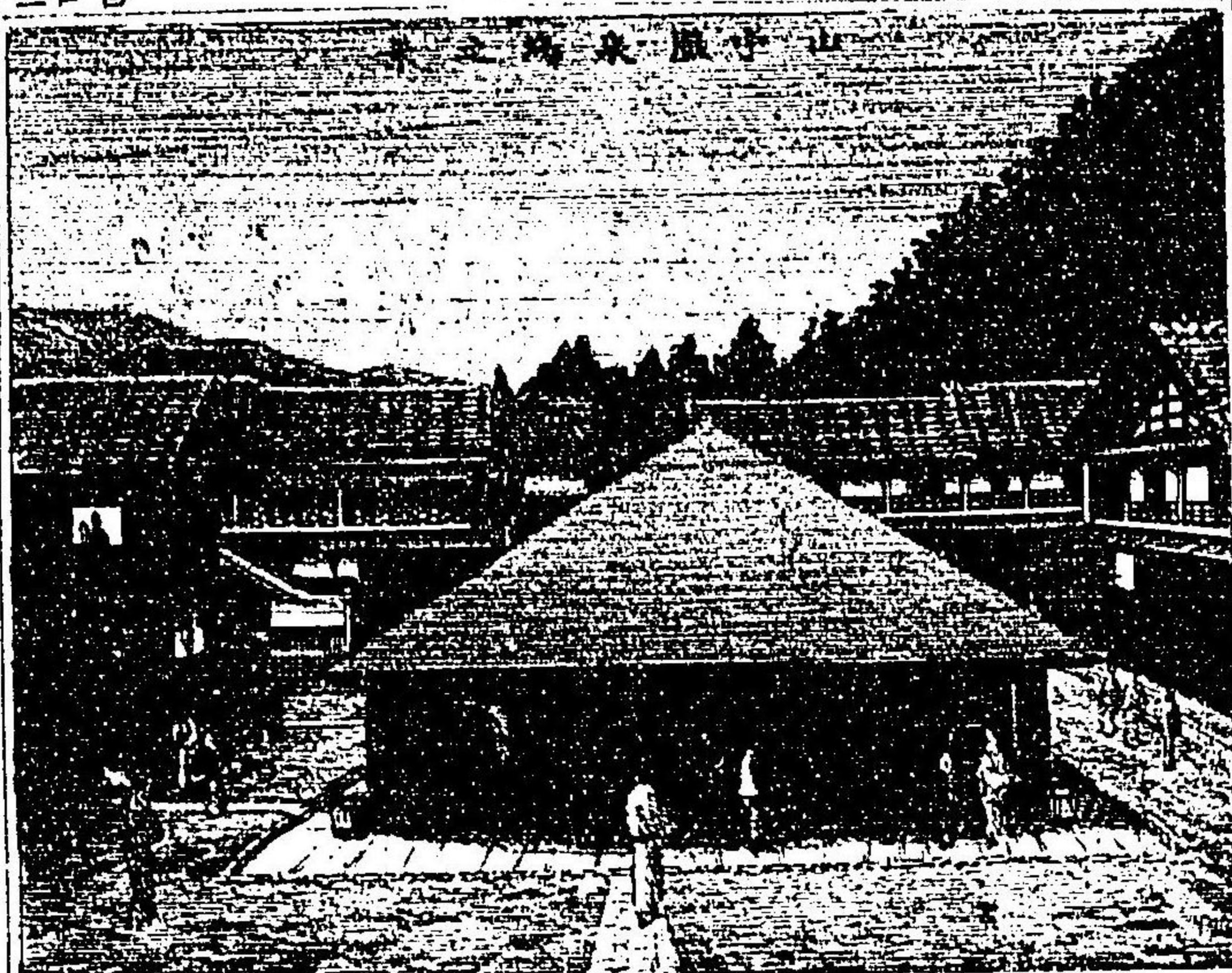
山水風光又至ては、山中山代よりし好し  
 知人少きは遺憾なり、  
 勅搦を渡り行道、勅使村てふ處あり  
 尤も白山の嶺頭を見東津又温泉場在り  
 ちら山の岩ありなる水てすは湯あり銀ありは理芳樹  
 那谷寺は真言の古刹、境地奇岩、石多し  
 岩窟又大悲の閣あり、老松古柏、蒼翠深く  
 風光頗る幽邃の地、春は櫻花を賞観し  
 秋は観月の清景あり、紅葉の名は甚く著し  
 實又無比の景地なり、  
 岩壁の谷は深き、水は清く、林は茂り、正典  
 石山の石より白し、秋の紅葉、甚く著し  
 傳云往昔花山法皇、北國遊覽し、時此勝景を愛觀し  
 法駕を致し、駐ち玉ひ、此寺を建立せ玉ふ



此を過れば、三湖臺土人御幸場と呼ぶ  
 茲に柴山、浮月、木葉、浮の三湖あり、恰も三浮、丹足、の如  
 木葉湖は、陸頭して、過半見ゆ、柴山、月浮の湖、深き、  
 湖辺、又、み眺むれば、稻穂、三瀉、を抱擁し  
 波光、嵐影、映對して、医王の三峰、聳立し  
 秋時は、漁釣の遊あり、  
 月津より西一里十八町、海岸の篠原てふ處  
 齋藤實盛が塚あり、手塚山麓の稲田又  
 實盛が首洗池と云在、茲又蕉翁の句碑あり  
 浴室又、篋を、索架し、旅舎の樓上眺めよく  
 此處は、木葉湖の傍、東又、白山右又、片山の  
 湯本湖上、頭れて、風光、頗る、奇絶なり  
 片山温泉は、湖中より、湧出するを、近頃、發頭し  
 浴室又、篋を、索架し、旅舎の樓上眺めよく  
 むじんやな兜の、のりまりくま

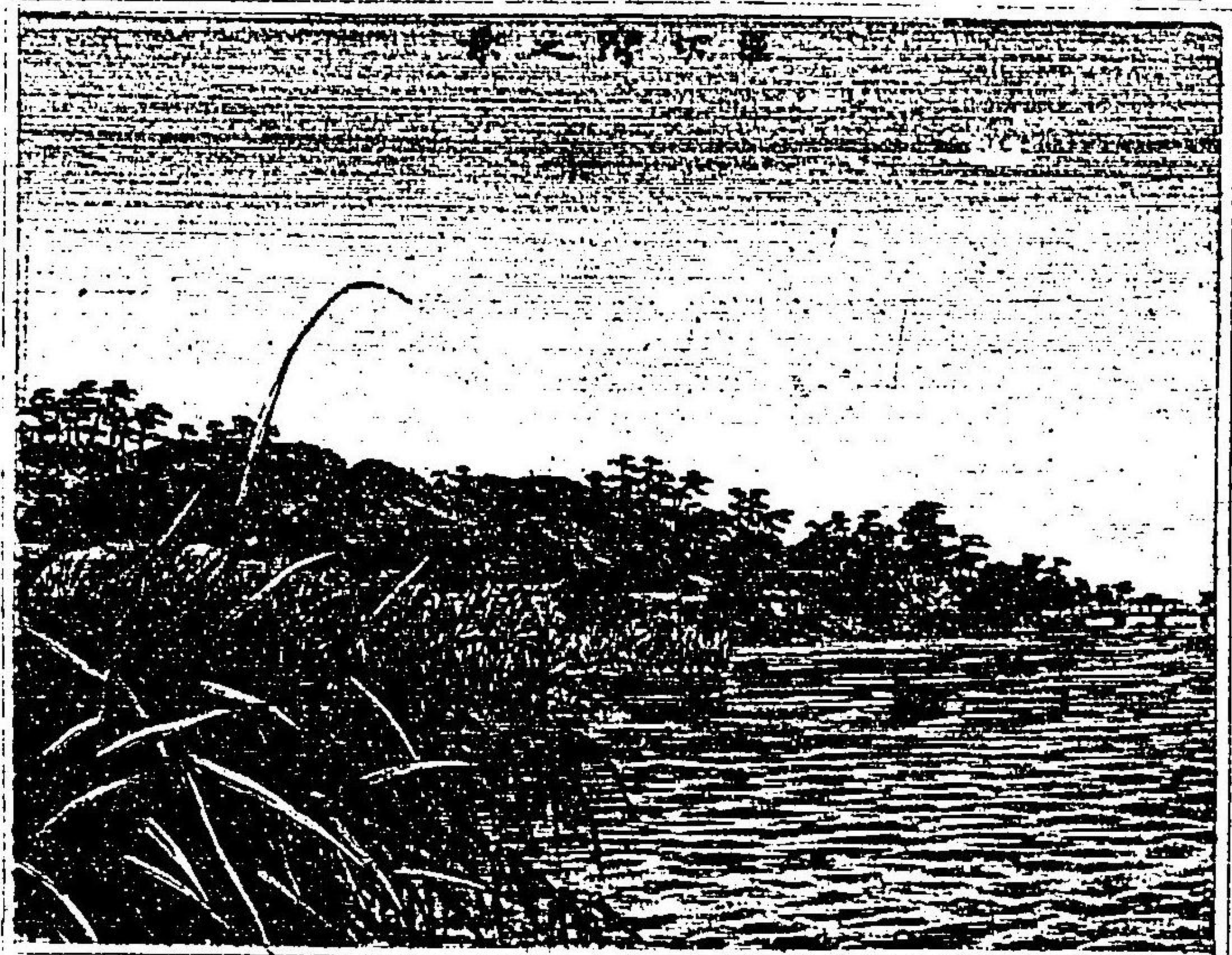


九谷地方は杖を曳き故に陶器窖を觀る  
 慶安年間大聖寺、藩祖前田利治氏か、爰に磁石を發見し  
 田村權左衛門に命じて磁器製造を始たり、次で其息の利明の  
 父の遺志を承継き、其臣後藤才次良と、肥前の唐津に遣し  
 製陶の業を収させ、故國の後盛に製造し、嘉永久隅守景とて  
 其陶器を画彩せり、大に世に揚採を得り、此を古九谷焼と云  
 夫概年間赤画を製、從前の畫風一変し、其致も亦精密至  
 廣く世に賞玩して、  
 金色も亦美麗なり、  
 山代温泉宿藏屋は、浴室頗る清潔にして  
 寛架鐵泉を導き、温度は華百六十度  
 然ども螺旋を裝置し、寒温自在に過すべし  
 泉質硫氣を合藏し、中風諸瘡痔は功あり  
 四季浴客絡紙たり、  
 山中温泉も効同じ、山代を距る二里余  
 湯宿は浴室を抱擁し、鐵泉温度百十八度  
 入浴室は貴賤男女混浴喧囂も雜沓し



構造不潔又耐難し、藥師堂は蒸翁の句あり  
 七箇な名義は魚を沙湯の匂い  
 大聖寺は福井を距る行程十一里にして  
 前田利治の旧城市、人口は一万千零余  
 貨物輻輳繁昌の地  
 縣社菅生石部神社、彦火々出見尊を祭る  
 堀切灣は吉崎の北北瀉入江と相通じ  
 灣中鹿島の一島峙ち、翠木蔭蔚社を抱き  
 風光頗る明媚にして、蓮の浦といひ北方を  
 竹の浦と云古歌も、  
 昔は竹の浦風吹き、其跡を松の原のま  
 是より東南山間の、熊坂新墾路を過ぎ  
 越前の國境に至る、

VIEW OF HORIKIRI GULF.

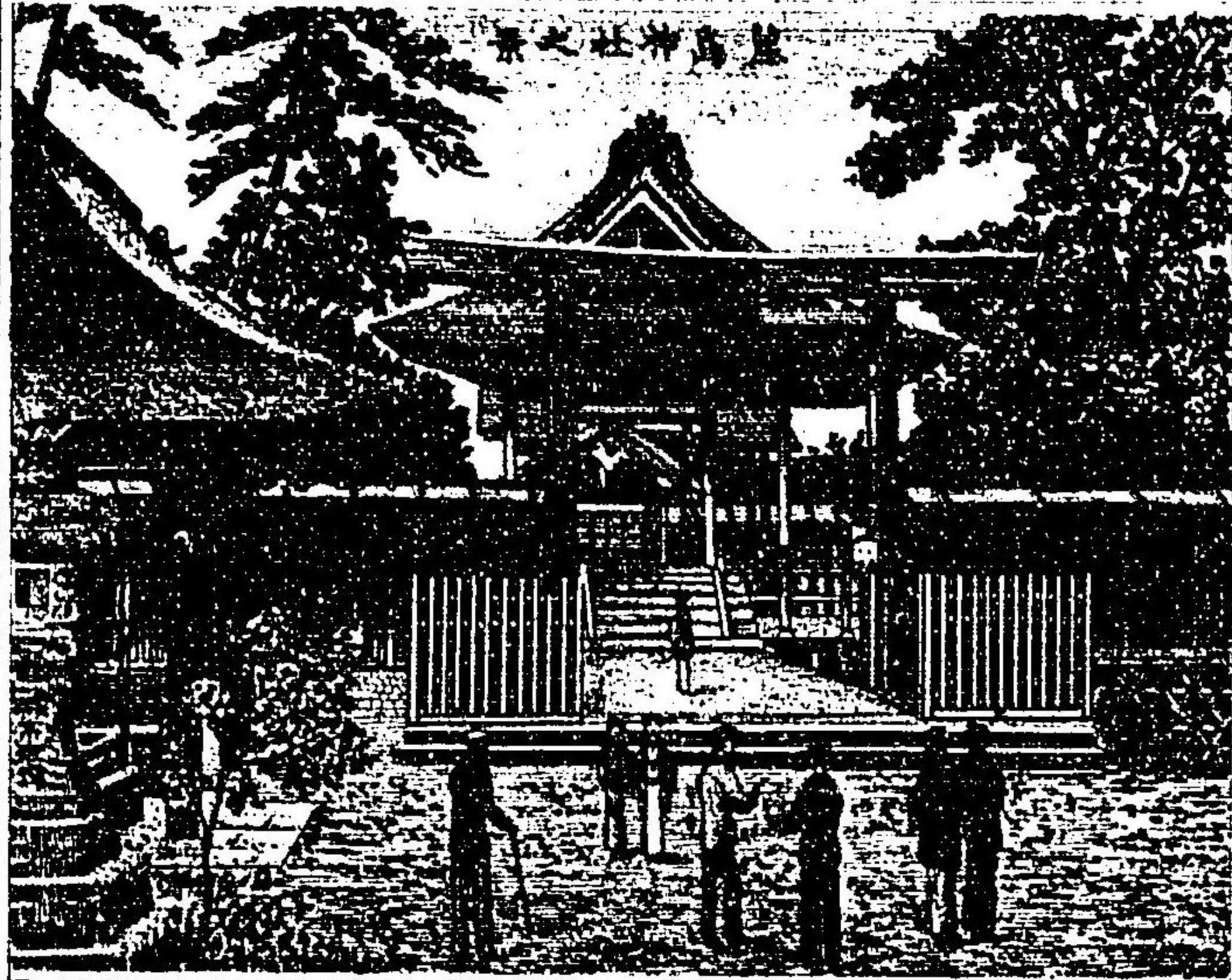


加賀國物産

瑪瑙 木葉石 茶 烟草 黄連 蚕卵紙  
 鮭 鮑 干鰯 熊膽 生絲 木綿 縮  
 黒梅漆 菊酒 落雁 素麵 半紙 漆器  
 萩原紙 石筆 象眼細工 扇 屏座 九  
 谷焼 駅路 北國路 橋 大聖寺 作見  
 手動橋 月津 小松 寺井 粟 柳 杉  
 任 野々市 金沢 津幡 津幡 竹橋  
 能登路 金沢 森下 津幡 高松 今濱  
 同治海道 橋立村 安宅 津幡 美川  
 石 高松 能登 今濱  
 越前支道山中越 動橋 山代 山中 大  
 内 越前山竹田村

越前國之部

此國東北は加賀又東南美濃又連接し南は近江又境取し西は若狭又續きて  
 西北は日本海又枕む東西の廣袤十九里南北の直經十七里其地勢白山の山脉  
 東北遠く蜿蜒して米螺ヶ嶽や文珠岳野阪の嶺や日野山部子山一名宜南峰  
 越智山や鷲ヶ岳白椿山一名白雲峰國見山や大日ヶ岳金山銀坑處々在り  
 西北は漸次又低下して三大河日野足羽北頭龍川貫流し終又一港又會同し西南一隅木芽峠を  
 國境の屏障と成り海表又湾曲を作りたり  
 本州八郡又區域す 敦賀 南條 今立 丹生 足羽 吉田 坂井 大野  
 名邑は 敦賀 福井 武生 鯖江 丸岡 粟田部 坂井 大野 勝山 寺なり  
 土地は概ね膏腴又田圃の植物成熟し殊又溫和の國なれば氣候甚だ溫和なり  
 然とも南又山を負ふ故冬季又至れば海邊の地は寒強く山中雪丈餘又及あり  
 都邑の地と雖ども三四尺の積雪あり其居民耕織を勤め工業を営む者多し  
 風俗は慧黠の姿なり人口は四十二萬五千六百五十余なり



雲膳は菅生を上呂とす、  
 諸島に産すも、本州の産に粘り、光沢も他と超たり  
 海入等干瀉し出で、岩間を束ねて、桶に収め、其色黄赤を宜す、  
 海胆の尤も上品なり、  
 別格官幣藤島神社福井市を距る廿四町  
 當社は南朝の忠臣新田義貞を靈祭す  
 境地杜槐巍然たり、例祭八月廿五日  
 戦没の地は社を距る北十三町石標あり  
 錦雲御願不離身圖族勤王懿北濱甲古蹟踏  
 藤島夕秋風鳥語更傷神 櫻木純造  
 藤島神社の神主は、新田義貞の孫と傳へ、其子孫は、  
 義貞公は源家の嫡宗、貞純親王の十三世の、孫朝氏の嫡子なり  
 上野國新田庄の、幼名小太郎と稱す、元弘三年五月八日  
 護良親王賜所、今吉を奉じ宗族の、子弟を引率して  
 義兵を起す、賊北條高時を誅、爾來官軍の總式たり



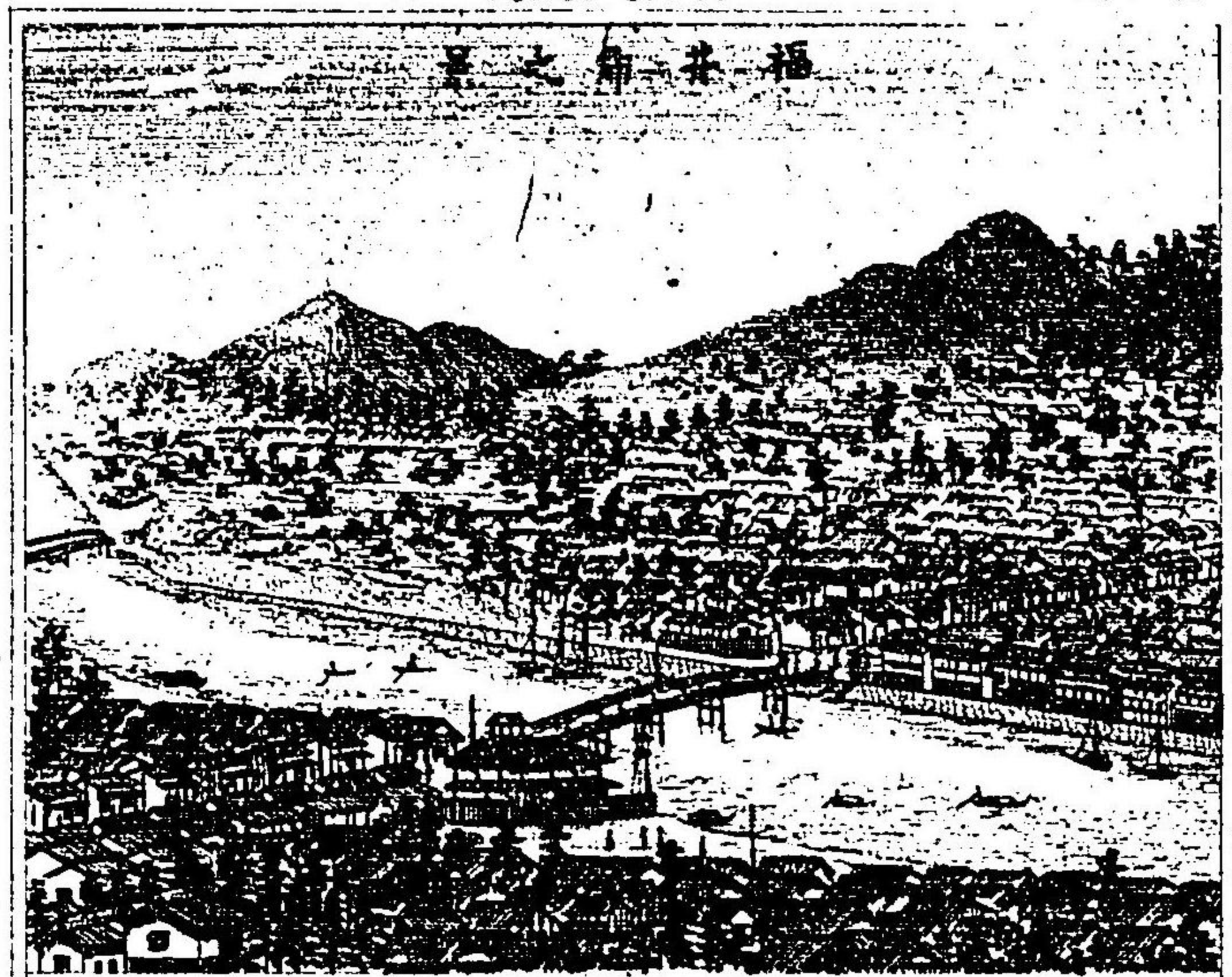
丸岡は霞城と呼び、旧有馬氏の城市なり  
 東に大野や勝山寺頗る著名の衆落あり  
 稱念寺の古刹又は新田義貞の塚を存す  
 細呂木の西に向えば、吉寄は東西の別院あり  
 堂舎の後山に登れば、僧蓮如の遺跡在り  
 北海波濤を眺望し、越路の小島散見す  
 阪井港船を乗換て、吉寄に至る間計り、小牧と吉寄の此間  
 岡上小松が養生し、徳頼蓋辺日野子、其風景は美觀なり  
 丸岡を過て、森田村右に石丸の城墟あり  
 曠々たる稲田眺つ、九頭龍川長橋を架す  
 酒井港は此川尻、旧三國の湊と呼ぶ  
 諸國の商船碇泊し、通船福井武生又湖  
 實は本州の咽喉たり、港頭商家軒を列ね  
 程近き日和山の地は、旅客遊宴又眺よし



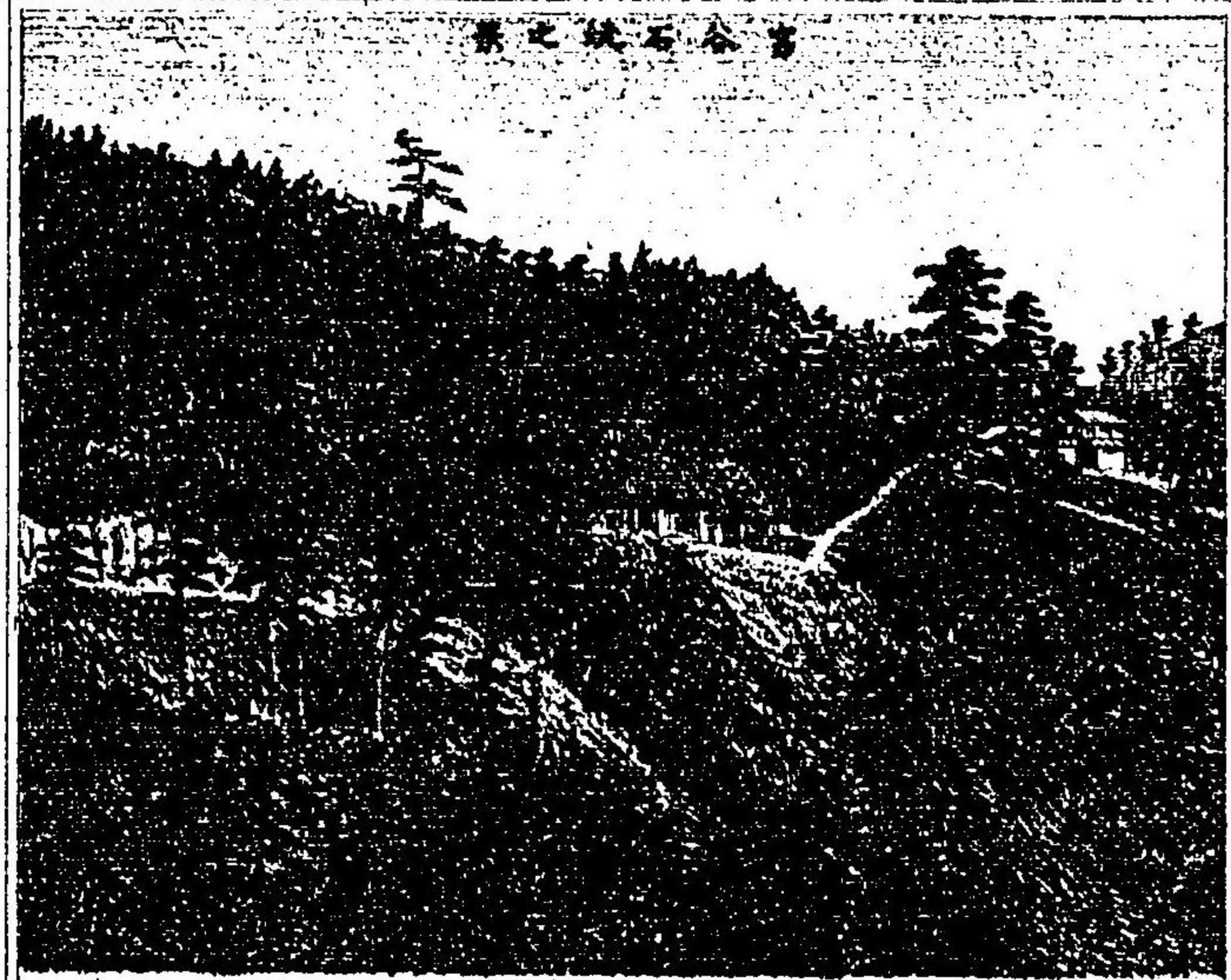
EAST HON GWAN JI.  
東之寺願本東



卷之九



延元年間詔を奉じ、皇太子恒良親王を、護奉し越前へ遷り、  
 藤島郡燈明寺を、今の福方村に於て、戦没す齡三十八歳  
 後明歴年間此寺、其畷を耕作して、公の境を堀得たり  
 目王松平光通氏、碑を其地を建設し、石碑表面の文を曰  
 新田義貞戦死の處、千時方治三年言也、後祠宇を造営す  
 明治九年十月七日、朝廷其祠を以て、別格官幣社と列す  
 福井は全國の大都會人口四万四千一百余  
 人畑稠密擁庇して、貨物運輸至便の地  
 足羽川又九十九橋あり、其構造木石相半し  
 洪水急流の便を計る、此橋を渡れば路則又  
 柴田勝家が塚あり、賤ヶ嶽の戦又亡たり  
 其の松の古跡、かきこみ、勝家の山郷勝家  
 永平寺は福井を距る、四里又して、遮障あり  
 當寺は禪刹として、僧道元の開祖たり  
 其地域六千三百坪、殿堂門廡頗る宏壯



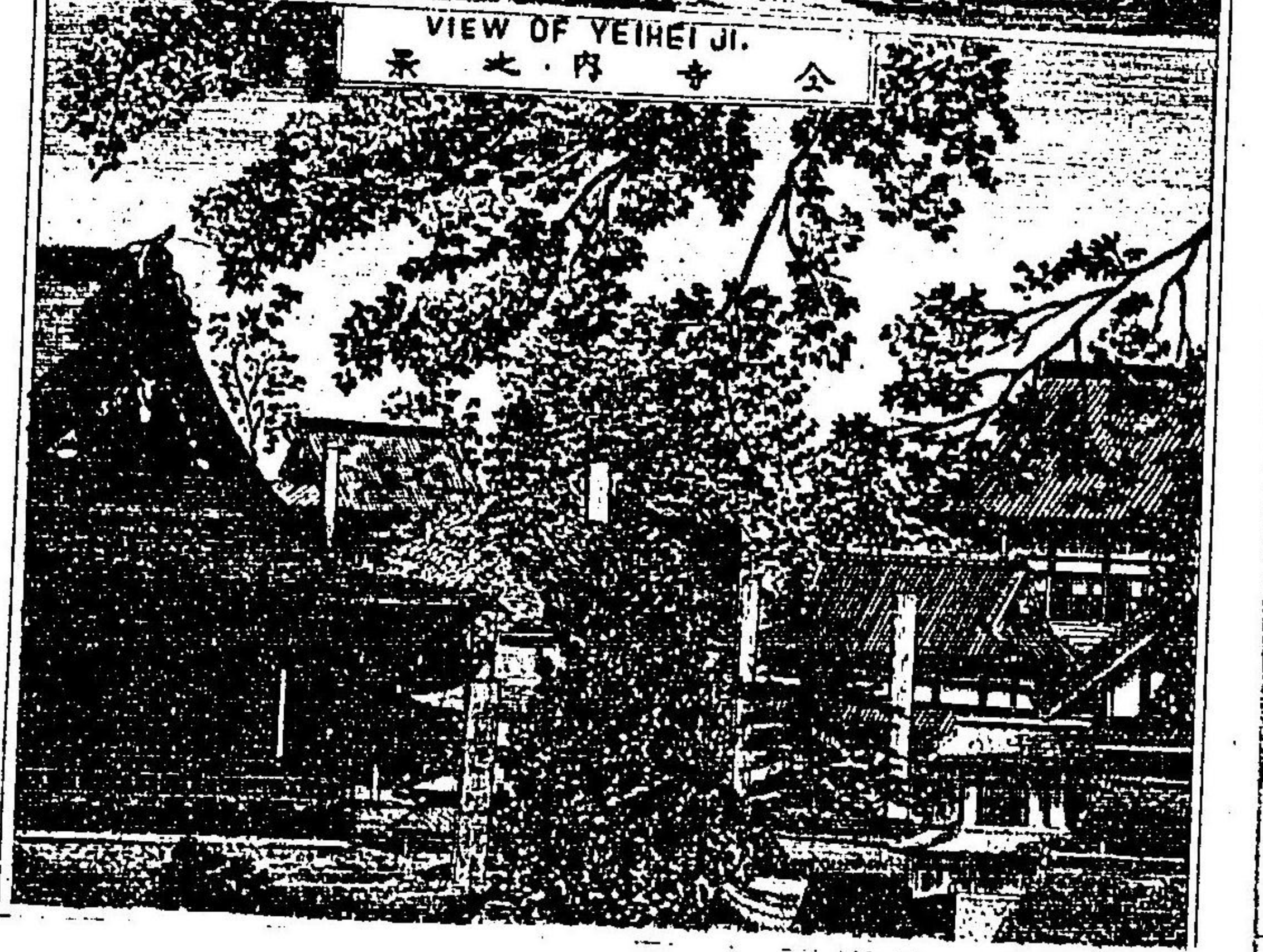
坊舎数屋を建列ね門上は羅漢を安し  
 深林幽谷總て皆な喬木緑樹殊は茂り  
 白日暗く蔭を成し梵声遠く閑林は響  
 本州第一の巨刹なり、

毒時雨を禪の身とわたりな理 如來  
 福井を出て江端村玉江橋を通過して  
 新井今市駅を経て朝六橋は浅水川に架す  
 正性寺の跡のうすさをかきし思ひ流しなる橋

籍江駅は人垣稠密又神明社や長泉寺等  
 堂社莊嚴宏壯にして土俗籍江堂と謂ふ  
 式内舟津神社の石標路途の側は建設し  
 白鬼女川の溪流又堅固の釣掛を架す  
 武生は旧と府中長四郎丸脇木籍波は



永平寺山門之景





金壽は南朝の城墟延元二年賊軍の爲め  
 籠城終り護り得ず皇太子は捕縛せられ  
 尊良親王新田義頭何れも自殺せられたり  
 月づつ津を流むる海の底にせぬ  
 敦賀港は木州の良港人口一万五千百餘  
 裁判處や郡役所病院学校の設あり  
 湾内柁檣常々林立し貨物輻輳繁昌の地  
 汽船坂井港は往復し遠く函館に達すべし  
 陸路は鐵路を布き、刀根山に隧道を設け  
 北陸線路は布設中、阿曾に隧道を設たり  
 街衢の東南に往は、  
 國幣神社比神社伊春沙別仲哀天皇  
 神功皇后應神天皇日本武尊豊玉姫命

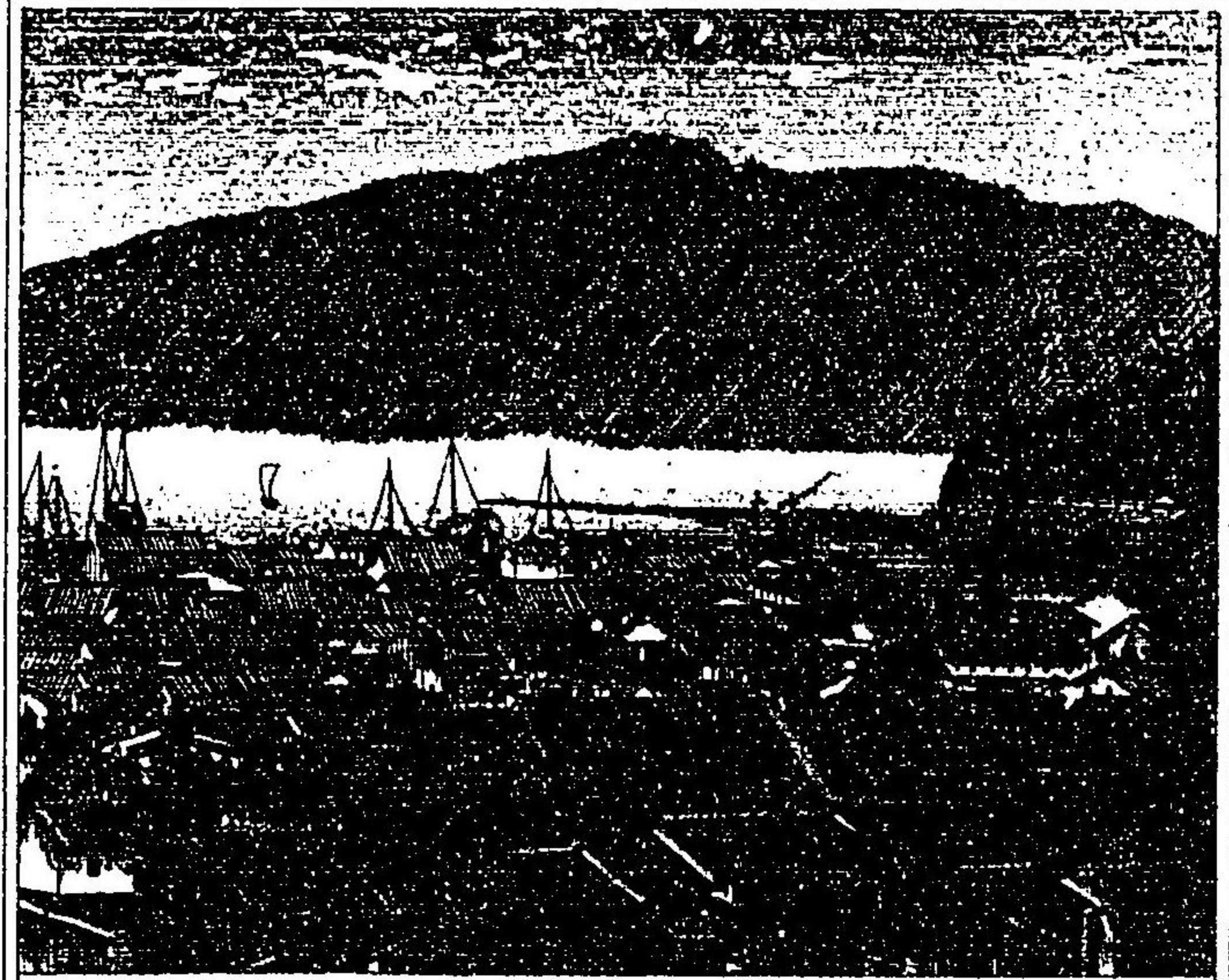


皆山中の駅なれど、路途平坦石も無く  
 車馬往還自在なり、  
 湯尾峠は嶮阻なれど、峻阪漸々下る側又  
 田倉谷てふ處あり、尤り又通ふ間道は  
 往日竹田耕雲齋が、蠅帽子山を攀越て  
 茲又出たる道なりと、其浮浪の士五百余  
 此地又一夜野陣して、木芽嶺を攀越て  
 新保葉原の中間に、積雪又途を遮られ  
 嚴寒飢餓力落歩、擱縛の不幸又罹り  
 幕府の軍門に陥り、憐むべし愛國の士も  
 茲又斃るは遺憾なり  
 駒澤難進窮途、越海曾期、絶命櫻不曾波山  
 狂稱美千秋朽護皇名  
 平韓



官勤王の意を哀み、昔日碑を爰に建つ  
 其数三百九十一個、四方に板橋を造り、  
 門前を標石を建て、水戸藩士之墓と書  
 石燈水盤を備たり、有栖川公の碑面は  
 義人名性九重間、皇子效来吊古蹟、今日殊思  
 到古骨疲松翠色已滋、有栖川公  
 大君の威のや、時よは、松翠色の、  
 かまの、松翠色の、  
 二十町計り、登れば、言葉石とて、  
 鷗嶋石に似たり、是より西に、向えは  
 若狭地方に至る、

卷之九



武内宿禰を合祭す、社地頗る廣、  
 喬木森々、社を擁し、殿宇宏壯、  
 古昔水州の一宮なり、  
 東の湾頭、板津より、西に立石岬、  
 兩岬の間、大湾、成り、金舟の旧城、  
 故に曠漠たる、松林、青松、白沙と相映し  
 春李、此に道、送せば、沙中、松露拾ふべし  
 此を里人、敦賀浦と云、  
 山、臨海、海連山、線路、斜通、  
 千里、畫中人、往、畫中、遊、  
 慶應元年春二月、又竹田耕雲齋、  
 此を里人、敦賀浦と云、



越前國物産

砥石 青石 石灰 菜種 牛蒡種 葛 麻 烟草 瓜蒔 芥 末 油桐 梨子  
 茯苓 黄連 黒海苔 繭 蚕種 鱈 鱒 鱒 鱒 干鰯 蟹 雲丹 生絲 木綿織  
 芋 蠶 奉書油 木綿綿 布 真綿 蚊帳 油團 漆 銅線 銅器 鐵匠丁類  
 大高紙 奉書紙 烏子紙 半紙類 庭類 鰯 鱈 蠟燭 草履 陶器類  
 越前國大路 北國道 山中 華足田 華葉原 二屋 今庄 湯尾 賄波 脇本 武生  
 一里 上鯖江 浅水 福井 舟橋 長崎 金津 細呂木 加賀橋  
 近江東路 今庄 坂取 近江中河内 丸岡路 福井 舟橋 丸岡  
 坂井路 福井 中川村 安沢村 定廣村 坂井  
 美濃支道 福井 前波 大久保 大宮 大野 木木村 中島村 下秋生村  
 美濃大河内村 勝山路 福井 松岡 山王村 勝山  
 若狭道 敦賀 若州 佐橋 加州 山中 越 丸岡 豊原村 山竹田村 加州 大内  
 加賀治海道 坂井 梶浦 吉寄 加賀橋立村

若狭國之部

此國東は越前近江南は丹波西は丹後北は大洋瀕面して東西凡二里南北は  
 四里許として其地勢東より西又連峯し丹後國又連絡す瀕海岬嶺殊々  
 疆壤頗る狹隘とまた磽瘠の地多し風俗粗不樸陋なれど能く耕漁を勤たり  
 本州三郡又區域す三方 遠敷 大飯 等而して名邑は小濱 高濱 等なり  
 氣候は甚寒からず降雪も随て少許なり人口八万三千一百余  
 三方郡は東又倭し南又三十三門山在り此を近江の塚とす北は海岸灣を成し  
 東北又柴螺岳峰へ越前の前立石崎と表裏して三湖又連る各湖の周回二里餘  
 寛文年間地震の後湖水導注の處なく水害殊々多かりしが藩吏某が裏見阪の  
 峻岨を穿ち溢水を北海灣又注ぎ捨て今日の良田を成す其水道を切通と云  
 三湖の邊は桃林多し春光花信を綻びて翠松古樹と相映じ風光頗る絶佳なり  
 其西海中又斗出する是を常神崎と云海と離る一島を御神山と唱へつ、  
 本州東岸の勝景なり、



此は居城せしが後ち寛文十一年の頃より酒井家の封土と成り大政維新の時まで十萬石を領したり故に繁花の城市なり國幣中社若狹神社老叔古柏翁齋して社頭森々神古びたり、大飯郡は國の西端又三國嶺南又聳立し山間より出る一川を關屋川と稱たり北は一面海又枕み海湾頗る凹凸して西の灣を内浦と稱び上瀬浦や音海浦左右に遠く突出し其西に青葉山峙ち此を若狹富士と謂大見大島海に出で高濱は海岸の市場人口は三千一百余蒼海眺望の勝地なり、



遠敷郡は國の中央北は海又瀕面して東に田島灣を帯び右の岬を黒崎と云西を堅海莊の岬と云致久須夜嶽嶽へ此地を背面瀆と呼ふ巖洞相連り洞中は舫舟能く通ずし文雅の人一遊せば満目の風光畫の如し、南に曲りて双子島松ヶ崎の奇景在り西赤栗岬又對して小濱港を抱擁す此を青戸の入江と云、小濱は國の大都會人口一萬五千有余高松常又碇泊する市街又裁判所を置郡役所や諸課學校病院電信の設あり小濱古城は慶長五年京極高次が

分邦 日本國土分列表圖  
 詳密 日本地圖 西洋曆全冊  
 附驛路里程燈臺表加

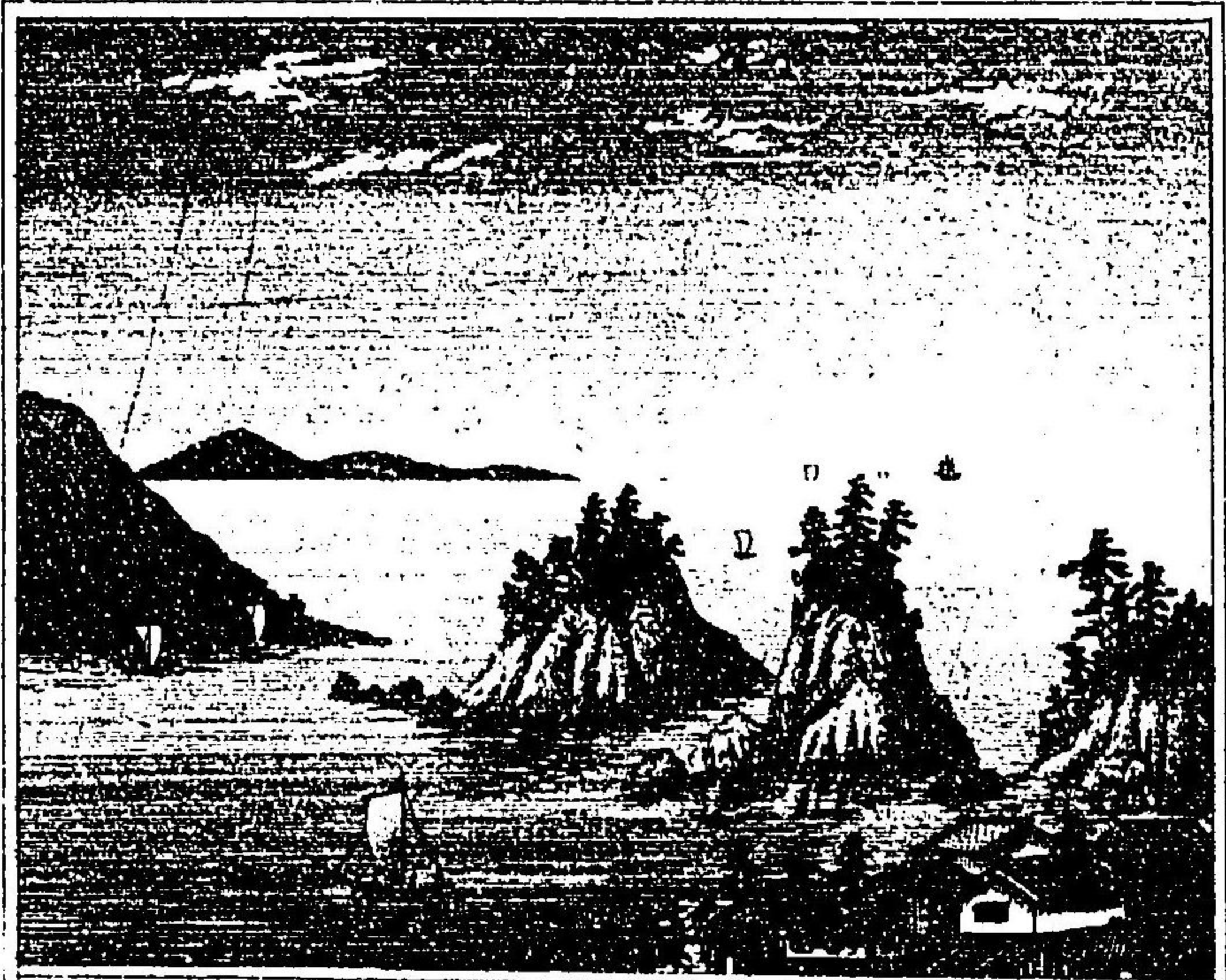
內國 日本名所圖繪

- 一、卷 五畿內之部 全廿二錢
- 二、卷 東海道之部 全廿二錢
- 三、卷 全續之部 全廿五錢
- 一名東京及近傍名所獨案內
- 四、卷 東山道之部 全廿五錢
- 五、卷 陸前陸北陸及北陸 全廿五錢
- 六、卷 山陰及山陽 近刻
- 七、卷 南海及西海 近刻

世界 美國名所圖繪全冊

- 一、卷 北美亞利加沙那 全廿四錢
  - 二、卷 歐羅巴洲上 全二十錢
  - 三、卷 全 中 全二十錢
  - 四、卷 全 下 全廿八錢
  - 五、卷 亞非利加洲部 全廿八錢
  - 六、卷 亞細亞洲上 全廿八錢
  - 七、卷 亞細亞洲下 全廿八錢
- 外海界旅行萬國全地界附加仕候  
 右書物日本名所圖繪同編著者又

卷之五



內國 日本名所圖繪卷之五 畢

- 若狹國物産
- 瑪瑙 硯石 黑基石 石灰 藍 蜜柑
  - 茶 芋 油桐 榿實 海藻 鮑 鰻鱺
  - 鯉 鮎 鱒 鯛 鱒 比目魚 燕 鱒
- 同釋路
- 丹波路 小濱 桂木 堂木 丹波知見村
  - 丹後路 小濱 本郷 高濱 丹後吉阪
  - 近江路 小濱 日笠 熊川 近江今市
  - 越前路 小濱 日笠 倉見 三方 草佐 柳
- 越前敦賀

明治廿二年十月十七日印刷  
同 十月十八日出版  
同 十月廿九日發行

版權所有

版權  
發行  
全

著者

出版者兼印刷者

發行所

定價金四拾錢

大阪市西區西長堀三丁目二番地  
上田文齋

大阪市西區安土古橋通四丁目二番地  
青木恒三郎

大阪市西區船場本町二丁目  
山本堂本店

東京日本橋區區本町三丁目  
山本堂支店

房名四日市港堅町  
山本堂分店

